

第3回 世界自然遺産5地域会議

開催日：2024年（令和6年）11月19日（火） 10:00～12:00

場 所：航空会館ビジネスフォーラム 501・502号室/リモート会議併用
東京都港区新橋1丁目18-1 TEL: 03-6811-7017

議事次第

会議名・時間	内容
第3回 世界自然遺産5地域 会議 10:00～12:00	1. 開会・あいさつ 2. 議事 （1）大阪・関西万博への参加について（報告） 1）5地域会議と大阪・関西万博参加 2）大阪・関西万博の概要 （2）万博参加の計画について 1）事業実施内容 2）催事の詳細 3）事業化計画 （3）意見交換・議決 （4）その他 3. 閉会

議事及び資料目次

－出席者一覧（予定）	2
－出席者紹介	3
議事1 大阪・関西万博への参加について	
1) 5地域会議と大阪・関西万博参加	
－資料1-1 5地域会議と大阪・関西万博への参加	4
2) 大阪・関西万博の概要	
－資料1-2 大阪・関西万博の概要	6
議事2 万博参加の計画について	
1) 事業実施内容	
－資料2-1-① 5地域会議万博参加事業の概要（案）	10
－資料2-2-② 広報・集客の方針（案）	15
2) 催事の詳細	
－資料2-2-① テーマウィーク催事概要（案）	17
－資料2-2-② EXPO ホール催事/ステージプログラム概要（案）	19
－資料2-2-③ EXPO ホール催事/展示事業概要（案）	30
3) 事業化計画	
－資料2-3-① 事業費構成と役割分担	38
<参考>今年度の取組進捗	41
－資料2-3-② 運営上の検討課題	48
－資料2-3-③ 万博参加に至るスケジュール（案）	50
【参考資料】	
参考1 5地域会議規約	51
参考2 アンケート調査依頼・調査票・添付資料	52
参考3 子供作文コンクール実施要領（案）	60
参考4 展示事業実施要領（案）	65
参考5 5地域の自然・環境文化の紹介文（案）	69
参考6 第2回5地域会議（2024年1月17日）開催結果概要	75
参考7 第1回コアメンバー会議記録（要旨）	82

第3回世界自然遺産5地域会議 出席者一覧（予定）

5地域会議会員

11月14日現在

遺産名	都道府県名	市町村・団体名	首長名	本会役職	参加形態	備考
知床	北海道	しゃりちょう 斜里町	山内 浩彰	幹事	○	
		らうすちよう 羅臼町	湊屋 稔		○	
		(公財)知床財団	理事長 村田 良介	幹事	○	随行：玉置事務局長、山本事業部長
白神山地	青森県	あじがさわまち 鱒ヶ沢町	平田 衛		○	
		ふかうらまち 深浦町	吉田 満		○	代理：神林友広観光課長
		にしめやむら 西目屋村	桑田 豊昭	幹事	○	随行：西澤産業課補佐
		ひろままし 弘前市	櫻田 宏		○	随行：秘書課
	秋田県	ふじさとまち 藤里町	佐々木 文明	幹事	○	随行：佐々木商工観光係長
		はっぼうちよう 八峰町	堀内 満也		○	
		のしろし 能代市	齋藤 滋宣		△	代理：進藤香環境産業部次長兼観光振興課長
小笠原諸島	東京都	おがさわらむら 小笠原村	渋谷 正昭	幹事	○	
屋久島	鹿児島県	やくしまちよう 屋久島町	荒木 耕治	副代表・幹事	○	随行：有馬観光まちづくり課長
		(公財)屋久島 環境文化財団	理事長 小野寺 浩	代表・幹事	・	ビデオメッセージで挨拶 代理：池田事務局長
奄美大島、 徳之島、 沖縄島北部 及び西表島	鹿児島県	あまみし 奄美市	安田 壮平	幹事	△	
		やまとそん 大和村	伊集院 幼		△	代理：大瀬幸一企画観光課長
		うけんそん 宇検村	元山 公知		○	
		せとうちちよう 瀬戸内町	鎌田 愛人		○	随行：川畑水産観光課長補佐
		たつごうちよう 龍郷町	竹田 泰典		○	代理：小林生活環境課主査
		とくのしまちよう 徳之島町	高岡 秀規		○	
		あまぎちよう 天城町	森田 弘光		○	随行：吉野企画財政課主任
	いせんちよう 伊仙町	大久保 明		○		
	沖縄県	くにがみそん 国頭村	知花 靖	幹事	○	随行：平良環境保全課長、大城同補佐
		おおざみそん 大宜味村	友寄 景善		△	代理：佐久川紀亮企画観光課長
		ひがしそん 東村	當山 全伸		△	代理：企画観光課長
たけとみちよう 竹富町		前泊 正人		△	代理：調整中	

出席者数合計：対面○18名 うち首長16名（太字○） 「参加形態」欄右寄せは代理
オンライン△6名 うち首長1名（太字△）

顧問・関係機関等

総合地球環境学研究所所長	山極 壽一		・	ビデオメッセージ
東京大学名誉教授	岩槻 邦男		欠	学術顧問
イベント学会会長	中村 利雄		○	支援機関
環境省自然環境局長	植田 明浩		○	関係行政機関 随行：確認中
林野庁森林整備部森林利用課長	石井 洋		○	関係行政機関 随行：確認中
林野庁国有林野部経営企画課長	石田 良行		○	関係行政機関 随行：確認中
(一財)地球産業文化研究所 事務局長	田束 博		○	参加支援機関 随行：嶋田参事

参加屋久島環境文化財団役員

理事：川瀬翼（鹿児島県自然保護課長）、中村耕治（南日本放送相談役）、笹川理子（笹川法律事務所弁護士）、山崎みどり（南海日日新聞社編集部副部長）
評議員：岩田治郎（NPO法人かごしま子どもと自然研究所理事長）
顧問・アドバイザー：馬場甚史朗（薩摩名人会代表取締役）、枝松克巳（メッツ研究所代表取締役）
環境文化研究会検討委員：西村明（東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授）

知床 Shiretoko

高密度に生息するヒグマと住民生活、国立公園利用の折り合いをつけることが喫緊の課題。地域全体で軌跡解消へ向かう意識づくりや観光客の過度の接近を防止するための抜本的対策を探る。

山内 浩彰 北海道斜里町 町長※

1960年斜里町生まれ。地元高校卒業後、しれとこ斜里農業協同組合勤務、斜里町議会議員を経て、2023年4月から斜里町長に就任。見て、感じて、学んで知床から世界に発信する地球愛。「みどりと人間の調和を求めて」は我が町の町是です。

湊屋 稔 北海道羅臼町 町長

2015年4月羅臼町長就任、2期目。「町民が幸福になるためのKプロジェクト」として、住民自らで創り上げるまちづくりを推進。2020年5月には近隣7町の協力を得、自動車用ご当地ナンバー「知床」を導入。2021年3月、ゼロカーボンシティを宣言している。

村田 良介 公益財団法人 知床財団 理事長※

1954年石川県で生まれ、愛知県で育つ。学生時代は考古学を専攻し知床博物館、公民館、環境保全課、教育長を経て2016年から現職。知床の山と沢と海をこよなく愛す。

白神山地 Shirakami-Sanchi

原生ブナ林の保護は十分だが制度面で利用が制約され、地域への経済的貢献も少ない。世界遺産を核に2県7市町村を中心とする周辺部の連携を深め、地域活性化方策など今後の新たな利活用や野生動物との共生のあり方を模索。

平田 衛 青森県鰺ヶ沢町 町長

1959年青森県鰺ヶ沢町生まれ。東海大学文学部史学科卒業後、鰺ヶ沢町役場に勤務。2017年より町長に就任。「活気のある賑やかなまち」、「子孫に託せる希望の持てるまち」を目指して町政に取り組んでいる。

吉田 満 青森県深浦町 町長

1953年青森県深浦町生まれ。東京で学生生活の後、帰郷して農業を継ぐ。町議会議員を経て2008年町長に就任。日本一の大イチョウなど豊かな自然を後世に残していきたい。

桑田 豊昭 青森県西目屋村 村長※

1957年青森県西目屋村生まれ。高校卒業後、県りんご試験場実習生を経て実家の農業を継ぐ。村農業委員、村議会議員を経て2021年から村長。白神山地を中心とした観光事業を推進し、自然環境の保護と雇用による住民生活の安定を図りたい。

櫻田 宏 青森県弘前市 市長

1959年青森県弘前市生まれ。大学卒業後、弘前市役所に入庁し、観光部長などを経て2018年弘前市長に就任。「市民生活を第一に」を念頭に、観光分野で培った経験を活かし、「健康都市弘前の実現」に向け、市政運営に取り組んでいる。

佐々木 文明 秋田県藤里町 町長※

1956年秋田県藤里町生まれ。高校卒業と同時に藤里町役場に奉職。2011年8月より藤里町長に就任。現在3期目の最終年となり、白神山地世界遺産30周年を盛大に盛り上げたい。

堀内 満也 秋田県八峰町 町長

1976年秋田県八峰町生まれ。北里大学獣医学部卒業後、県職員として勤務し、2022年12月21日付で退職。2023年1月9日より町長に就任。町の人口減少を最重要課題として取り組み、「町民が安心して暮らせる町づくり」を目指す。

齋藤 滋宣 秋田県能代市 市長

1953年北海道勇払郡厚真町出身。中央大学経済学部卒業。代議士秘書を務めた後、秋田県議会議員2期、参議院議員1期を歴任し、能代市長に就任。

小笠原諸島 Ogasawara Islands

外来種対策や固有種等希少種の保護を進めるため、ヘットの適正飼養などを村民ぐるみで進めるとともに、有識者の科学的助言の下で動植物相互のかかわりを考えて現状を評価し、随時対策を見直す順応的管理に取り組む。

渋谷 正昭 東京小笠原村 村長 ※

学生時代にダイビングで小笠原に来島したことがきっかけで、1983年小笠原村役場入庁。ホエールウォッチング事業の立ち上げに関わるなど、小笠原におけるエコツーリズムの振興にも携わってきた。2021年9月より現職。

屋久島 Yakushima

「屋久島環境文化村構想」や「屋久島憲章」として関係者が共有してきた自然と共生する生活文化を損なうことなく、山岳部環境保全、エコツーリズム推進など既存の様々な取り組みを進めるなかで、遺産管理の筋道をつける。

荒木 耕治 鹿児島県屋久島町 町長※

1950年鹿児島県屋久島町（現・屋久島町）生まれ。高校まで屋久島で過ごし、東京へ進学。その後Uターンし1995年上屋久町議会議員選挙で初当選、上屋久町議会議長などを経て、2011年11月より現職。自然も生活も心も豊かな島を目指す。

小野寺 浩（公財）屋久島環境文化財団 理事長※

1973年から環境省で自然保護行政に携わる。国土庁、鹿児島県島出向時には国土計画、地域計画を、国立公園現地事務所にも勤務。計画課長として新生物多様性国家戦略を策定し、2005年自然環境局長で退任。東大、鹿児島大に勤務した後、現職。

奄美大島、徳之島、 沖縄島北部及び西表島 Amami/Okinawa

4島は、野生生物の生息・生育環境と人の暮らしの場が近接。生態系管理型・環境文化型国立公園の特色を活かしつつ、島ごとに全域を3区分して遺産価値の保全を図る。とびとびに連なる4島の連携と適正な管理実現も課題。

安田 壮平 鹿児島県奄美市 市長※

1979年奄美市生まれ。東京に進学・就職後、28歳で帰郷。NPO法人や市議会議員を経て2021年12月市長就任。新しい時代に対応する未来都市・奄美市の実現に尽力したい。



人類共通のかけがえのない財産として、未来へつなげたい

知床自然センター「知床の冒険」より

連絡先：(公財) 屋久島環境文化財団

〒891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 823-1 TEL0997-42-2900 FAX0997-49-1018

世界自然遺産 5 地域会議と大阪・関西万博への参加

◇ 5 地域会議が目ざすものと万博参加の位置づけ

- ・世界自然遺産 5 地域会議では、全世界に対して日本の世界自然遺産への理解を深め、日本型の自然保護の考え方や仕組みを発信していくことを目指しています。
- ・5 地域で進めている自然と共生した地域活性化の取り組みについて、日本国内だけでなく、全世界、とりわけ途上国の理解促進を図りたいと考えています。
- ・このため、5 地域会議としては、直近、かつ格好の機会として大阪・関西万博に参画することを位置づけています。

万博では、世界自然遺産に登録された日本の5つの地域の大型自然映像の上映やそれらにちなむ著名人トーク、芸能パフォーマンス、郷土芸能などを披露するとともに、世界の有識者が日本の自然について語る国際シンポジウムを開催します。

これらを通じ、日本の世界遺産の限りなく多様な魅力と「共生」や「環境文化」という日本型自然保護のメッセージを発信します。

- ・この催事を5地域関係者が共に作り、催行することは、これまででなかった共同作業です。
- ・企画の詰め、出演・出展準備の調整、共同での費用負担の検討などを通じ、相互の地域課題への認識を深め、連帯や結束を強化する意味もあると考えられます。

■ TEAM EXP02025 「共創チャレンジ」 と 5 地域会議

2025年日本国際博覧会（略称：大阪・関西万博）では、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに掲げ、これを実現するために、様々な個人・団体の参加を募っている。

「TEAM EXP0 2025」は、そのためのプログラムの一つで、多様な人たちがチームを組み、多彩な活動で大阪・関西万博とその先の未来に挑むものであり、テーマの実践を通じてSDGsの達成に貢献していくことを目指している。

イベント学会（中村利雄会長）と一般財団法人地球産業文化研究所（GISPRI）は、2005年日本国際博覧会（愛・地球博）が実現した「市民参加」の理念を継承し、大阪・関西万博の成功と万博による社会の持続可能な発展に貢献することを指す団体の一つである。両者はこのような趣旨から、「歴史文化」「水と流域」「自然遺産」をテーマとする3つの取り組み（「共創チャレンジ」）によって、それぞれの企画・実施機関と協働して「TEAM EXP0 2025」に参加し、「共創パートナー」として、資金、技術・ノウハウ、情報発信等の面でサポートを行うこととしている。

「世界自然遺産 5 地域会議」は、これに呼応するかたちで、世界遺産地域22市町村及び2公益財団法人が2023年1月屋久島に集まり、発足させたものである。

■ 万博参加により期待される効果

5 地域の魅力、また、地域だけでは解決できない大きな課題に対して、広く社会の意識が向けられ、高まる。万博は国内外の人々に関心を持って集まる、共創の場と機会。

参加の枠組み

■TEAM EXPO2025「共創チャレンジ」としての参加

イベント学会と地球産業文化研究所（GISPRI）はTEAM EXPO 2025「共創チーム」を組織し、世界自然遺産5地域会議もこれに参加。日本国際博覧会協会との折衝などを行ってきた。

その結果、「**テーマウィーク**」事業（8つのテーマが設定されており、そのうち「未来への文化共創」というテーマに割り当て）の1つに位置づけられ、「**テーマウィークスタジオ**」（約170㎡、100名収容程度の広さ）と呼ばれる会場が使用できるとなった。

■「一般参加催事」への応募、参加

上記以外に日本国際博覧会協会が、未来創造への挑戦となるイベントの企画を一般から募集したのに対し、5地域会議が応募し、採用された。

こちらは**EXPOホール**という大催事場を使用する企画提案であり、6月5日（木）の会場使用が決まった。

①テーマウィーク

- ・日時：5/6（火）9:00-21:00
- ・場所：テーマウィークスタジオ
- ・観客席：約100席

②一般参加催事

- ・日時：6/5（木）9:00-21:00
- ・場所：EXPOホール（大催事場）
- ・観客席：約1,800席

スタジオ施設について

EXPO2025

※イメージ図です。今後変更の可能性がございます。

時間帯	午前 9:00~13:00	午後 13:00~17:00	夜 17:00~21:00
使用例①	1行	1行	1行
使用例②	2行	2行	2行
使用例③	3行	3行	3行

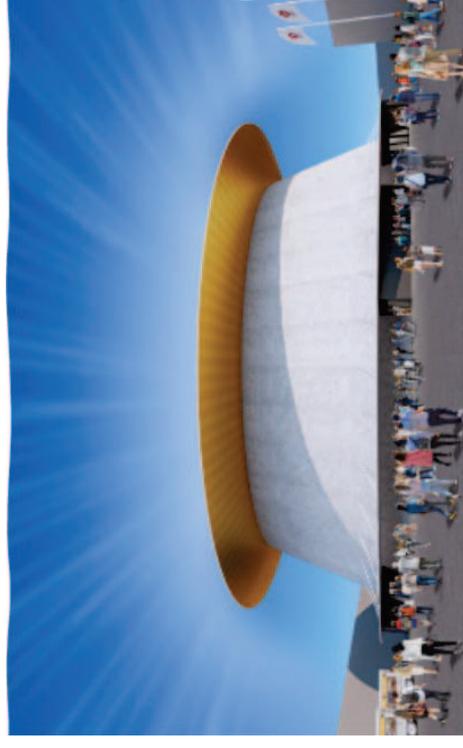
観客数 約100席

設備概要 基本照明、音響、映像投影・配音装置

スタジオサイズ 開口19.0m、高さ3.0m、奥行13.0m、約170㎡、ステージサイズ調整中

付帯設備 控室、簡易トイレ、事務用机等

2025年5月6日（火）9:00～21:00、3グループで当スタジオを使用（約170㎡・約100席）



2025年6月5日（木）9:00～21:00 EXPOホール（シャインハット）を使用（約1,800席）

大阪・関西万博の概要

- 開催期間：2025年4月13日（日）～10月13日（月）
- 会場：大阪夢洲
- 想定来場者数：約2,820万人
- 国内来場者は約2,470万人（88%）、海外来場者が約350万人（12%）と想定される。

<参考> ドバイ万博の実績（JETROレポートより引用）

項目	実績
来場者数	2,410万2,967人
オンライン来訪者数	2億4,800万人
参加国・機関	192カ国、14多国籍機関
訪問した政府要人	約1万6,000人
ボランティア	135カ国から3万人が参加
イベント数	3万5,276件

資料 1-2

2024年9月3日現在

2025年日本国際博覧会
Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan

イベントカレンダー

THAT ONE STEP WILL SHIFT THE FUTURE.



その一歩が、未来を動かす。

ドキドキ・ワクワクする楽しさや、学び、気づきを感じる
多種多様なイベントが毎日行われます。



期間：2025年4月13日(日) - 10月13日(月)

開催時間：午前9時-午後10時
(OHAL)

会場：大阪 夢洲



公益社団法人2025年日本国際博覧会協会



WORLD EXPO

6月		EXPOホール 「シャインハット」	EXPOナショナルデーホール 「レイガーデン」	EXPOアリーナ 「Matsuri」	EXPOメッセ「WASSE」 《North》	《South》	ギャラリーEAST	ギャラリーWEST	6月
1	パナグループ パビリオンデー	海外イベント	海外イベント	今後発表予定	地方創生SDGsフェス	地域！ 匠が演じる日本美の世界（仮称）			1
2	ノルウェー 海外文化・ビジネスイベント	ノルウェー 海外文化・ビジネスイベント	ノルウェー 海外文化・ビジネスイベント	今後発表予定	Beyond 5G ready showcase				2
3	伝統文化未来共創プロジェクト ～次世代と世界の架け橋～	【SDG】 エスワティニ・ビジネス歓迎セミナー	【SDG】 エスワティニ 海外文化イベント	< 近日発表 >					3
4		【SDG】 南スーダン 海外文化イベント	【SDG】 南スーダン 海外文化イベント						4
5	日本の世界自然遺産30年・ 自然遺産と暮らしの両立モデルへ（仮）	【SDG】 命をつなぐ アゼルバイジャン	【SDG】 命をつなぐ アゼルバイジャン						5
6	海外音楽ライブ	【SDG】 キルギス キルギス共和国の芸術的匠たちによるコンサート	【SDG】 キルギス キルギス共和国の芸術的匠たちによるコンサート						6
7	（仮称）ORA外食パビリオン 「葉→UTAGE〜」パビリオンデー	【SDG】 フォリピン 海外イベント	【SDG】 フォリピン 海外イベント		「囲碁の世界」と 「書のハフォーマンズ/ワークショップ」				7
8	Dalvo House presents 「いのちが輝く吹奏楽」(仮)	【SDG】 サモア 海外文化ハフォーマンズ	【SDG】 サモア 海外文化ハフォーマンズ						8
9	岐阜県の伝統芸能イベント	【SDG】 ヨルダン	【SDG】 ヨルダン	Blue Ocean Fes (仮)					9
10		【SDG】 ギニア 海外音楽イベント	【SDG】 ギニア 海外音楽イベント	海外音楽ライブイベント					10
11		【SDG】 海外文化ハフォーマンズ	【SDG】 海外文化ハフォーマンズ	海外音楽ライブイベント					11
12	NARATIVE@EXPOホール	【SDG】 コソボ	【SDG】 コソボ	海外文化イベント	RELAY THE FOOD ～未来につなぐ食と風土～				12
13		【SDG】 フィンランド フィンランドのB2B/クライアントのB2B/クライアントを コートジボワール	【SDG】 フィンランド フィンランドのB2B/クライアントのB2B/クライアントを コートジボワール						13
14	未来のすまじシンポジウム(仮)	【SDG】 アイルランド	【SDG】 セントパトリックズデー・ブエノスアイレス アイルランド	東北絆まつりのパレード・展示イベント等					14
15		【SDG】 フランス	【SDG】 フランス 海外文化ハフォーマンズ						15
16	海軍学園COMグループ 社会貢献ミュージカル「明日への原」	【SDG】 モザンビーク 二国間会議	【SDG】 モザンビーク 二国間会議						16
17		【SDG】 ウルグアイ	【SDG】 ウルグアイ						17
18	いのちの能 2000人の「水の輪」 (Noh for SDGs)	【SDG】 マラウイ 海外フォーラム	【SDG】 マラウイ 海外フォーラム	海外イベント					18
19	石見神楽「大蛇」降臨！ 受け継がれる情熱の軌跡	【SDG】 クウェート	【SDG】 クウェート	海外イベント					19
20		【SDG】 エルサルバドル 海外ハフォーマンズ	【SDG】 エルサルバドル 海外ハフォーマンズ	海外ハフォーマンズ					20
21	【ブラジル】アマゾン・コンサート	【SDG】 ブラジル 海外イベント	【SDG】 ブラジル 海外イベント	【ブラジル】 ブラジルのアーティストによるコンサート					21
22	EO ワンワールドデイ	【SDG】 スリナム	【SDG】 スリナム					【ブラジル】 ブラジルとブラジリアン・アマゾン	22
23		【SDG】 大韓に因する国際的な同盟 (ISA) 海外パネルディスカッション	【SDG】 大韓に因する国際的な同盟 (ISA) 海外パネルディスカッション	海外音楽イベント					23
24	O-MU-TSU WORLD EXPO presented by 一般社団法人Dream Investment JAPAN	【SDG】 ケニア 海外文化ハフォーマンズ	【SDG】 ケニア 海外文化ハフォーマンズ	海外ライブイベント					24
25		【SDG】 海外フォーラム ナイジェリア	【SDG】 海外フォーラム ナイジェリア	海外音楽イベント					25
26		【SDG】 ルーマニア 海外音楽イベント	【SDG】 ルーマニア 海外音楽イベント	LaLaLaよこい					26
27	ETERNAL Art Space (エターナルアートスペース)	【SDG】 タジキスタン 海外イベント	【SDG】 タジキスタン 海外イベント	クラシックコンサート					27
28	海外ライブパフォーマンズ	【SDG】 モナコ 海外ライブパフォーマンズ	【SDG】 モナコ 海外ライブパフォーマンズ						28
29	クラシックコンサート	【SDG】 パチカン 海外フォーラム	【SDG】 パチカン 海外フォーラム						29
30	EXPO共鳴フェス in EXPO ホール(仮)	【SDG】 コンゴ民主共和国	【SDG】 コンゴ民主共和国	ポランドのEU議長国就任の祝賀イベント					30

※タイトルやイベント内容は現在予定されているもので、今後予告なく変更となる可能性があります。

EXPOホール
「シャインハット」

ケアン・リュウ原作 新作SF狂言
Mono no Aware

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

EXPOナショナルホール
「レイガーデン」

海外イベント
ポーターランド

海外イベント

海外イベント

海外イベント

ソマリア
海外イベント

ジブチ
海外文化パフォーマンス

ウガンダ
海外文化パフォーマンス

今後発表予定

今後発表予定

今後発表予定

海外イベント

海外イベント

今後発表予定

今後発表予定

今後発表予定

EXPOアリーナ
「Matsuri」

今後発表予定

聖地リゾートと和歌山(原)

音楽イベント
＜近日発表＞

海外音楽イベント

海外イベント

今後発表予定

公式参加イベント

テーマウィーク

EXPOメッセ「WASSE」
《North》

《South》

関西の伝統文化と現代との融合

万博会場を活用した未来思考の
中小企業の魅力・価値の発信

想いとアイデアで創る、明日のデザイン
-あなたの「知」が
社会課題を解決する
【財】となる-

未来のトピラをひらく
「こども万博」

今後発表予定

今後発表予定

今後発表予定

ギャラリー-EAST

関西の伝統文化と現代との融合

関西の伝統文化と現代との融合

日本いけばな芸術特別企画
in 大阪・関西万博
～未来へつなぐいけばな文化～

今後発表予定

今後発表予定

今後発表予定

ギャラリー-WEST

【ポーターランド】
Gamedevウィーク

今後発表予定

今後発表予定

今後発表予定

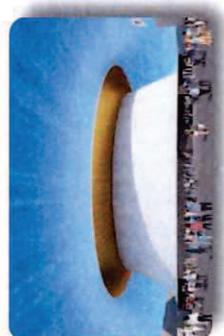
今後発表予定

今後発表予定

※ポーターランドイベント内部署は現在予定されているもので、今後予告なく変更となる可能性があります。



さまざまな催事施設のご紹介



EXPOホール「シャインハット」

音楽・演劇・芸術、未来型エンターテインメント等の劇場催事の実施
【座席数:約1,900席・センターステージ型ホール・大型映像装置】



EXPOアリーナ「Matsuri」

大型ライブイベント、映像上映、祭りなどの屋外催事の実施
【収容人数:最大16,000人規模・屋根付きステージ・大型映像装置】



EXPOナショナルホール「レイガーデン」

ナショナルアーティスト・スペシャルアーティスト等の劇場催事の実施
【座席数:約500席】



EXPOメッセ「WASSE」

世界規模の課題の解決に向けた対話プログラムや
ビジネス交流のほか、展示会、見本市の拠点
【展示面積:約4,000㎡(2分割)・収容人数:約3,000人】



ギャラリーWEST

【展示面積:約600㎡】



ギャラリーEAST

【展示面積:約300㎡】
アニメ、ファッション等の展示会を
会期中入替制で実施



ポップアップステージ北



ポップアップステージ東内

音楽、トークイベント、祭り等を
会期中入替制で実施



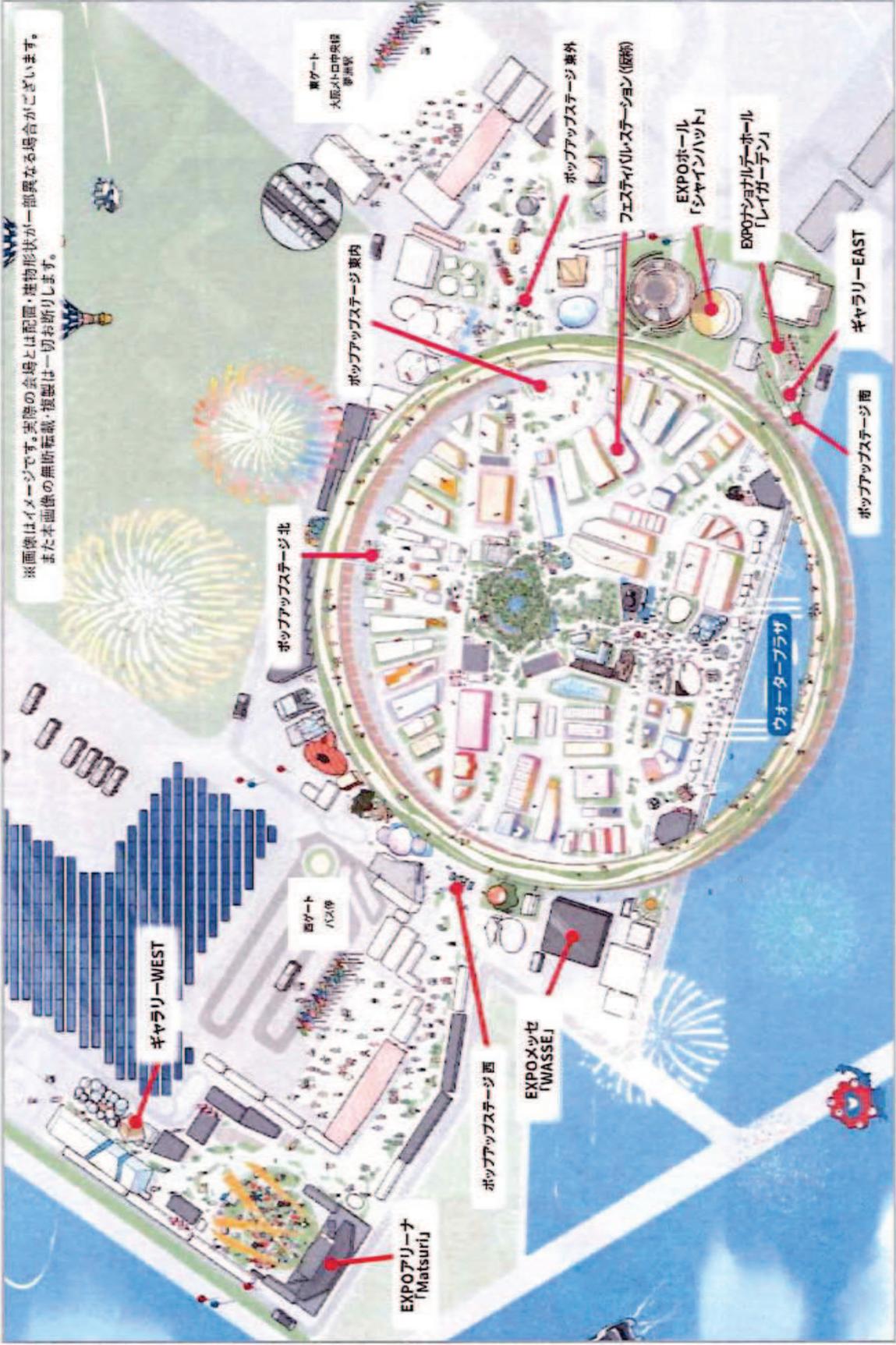
ポップアップステージ西



ポップアップステージ東外

音楽、トークイベント、祭り等を
会期中入替制で実施

催事施設 MAP



※画像はイメージです。実際の会場とは配画・建物形状が一部異なる場合がございます。
また本画像の無断転載・複製は一切お断りします。

1) 実施事業内容

世界自然遺産 5 地域会議 大阪・関西万博参加事業の概要（案）

2024 年 11 月

1. 趣旨・目的

日本の世界自然遺産は、1993 年から 2021 年の間に 5 地域（屋久島・白神山地・知床・小笠原諸島・奄美沖縄（諸島内 4 島 4 地域））が登録されています。第 1 号の屋久島・白神山地は、2023 年に登録 30 周年を迎えました。

登録された 5 地域は、自然保護のために独自の工夫を重ねてきました。また、わが国の国立公園は、自然保護と暮らしの調和を目指してきたことを、その特徴としています。

こうした中で、大阪・関西万博関係機関からの参加の呼びかけ（※1）に応じて、「世界自然遺産 5 地域会議」（以下「5 地域会議」という）を発足させることにしました。まず、大阪・関西万博という場で、「共生」や「環境文化」という日本型自然保護のメッセージを、世界に向けて発信していきたいと考えています。

※1 イベント学会と地球産業文化研究所（GISPRI）は、2005 年愛・地球博の理念を継承発展させていくため、大阪・関西万博の「共創パートナー」に登録。「共創チャレンジ」に登録された当プロジェクトを、資金面、情報提供等の面でサポートしている。

2. 事業概要

- ・ 実施時期：2025 年（令和 7 年）5 月～6 月
- ・ 実施体制：世界自然遺産地域の 23 市町村、2 公益財団が「5 地域会議」として大阪・関西万博に登録し、共同で各種の事業を推進。趣旨に賛同する民間企業や活動団体等の参加も想定しています。

※5 地域会議の組織名簿については別添1参照。

- ・ 参加のねらい：以下に掲げる目標のもと、日本の世界自然遺産 5 地域の多様な自然や文化を総合的に紹介、アピールするとともにシンポジウム等で議論を行います。
 - ①暮らしと自然保護の「両立モデル」の提示
 - ②遺産地域の抱える課題を国内外へ周知
 - ③国や企業等への提言、国内外へメッセージ発信

3. 現在予定している主催事業

(1) 大阪・関西万博参加事業①／テーマウィーク

概要：テーマウィークとは、博覧会協会が開催期間を通じて主催する、8 つの社会課題解決をテーマに掲げた事業。うち「未来への文化共創」ウィーク＝4/26(金)～5/6(火)の1日が割当て。イベント学会・地球産業文化研究所がサポートする「共創チャレンジ」3 団体による共同プログラムであり、[各プロジェクト個別の取組報告+3 団体クロストーク]で構成。

日時：2025 年 5 月 6 日（火） 9:00～21:00（3 団体分。準備・撤収を含む）

場所：大阪・関西万博会場内 テーマウィークスタジオ（170 m²、約 100 席）

テーマ：『地球市民』が実現する持続可能な社会への提言」（3 団体で調整）

内 容：5 地域会議の分担枠では、各地域の自然保護と暮らしの両立に向けた取組や直面している課題を発表し、首長代表や企業担当者、実務に詳しい有識者がディスカッション。地域が誇りとする風景・自然の映像を最大限活用。

(2) 大阪・関西万博参加事業②／一般参加催事

概 要：博覧会協会が、未来創造への挑戦となる参加型、発表型、展示型イベントの企画を一般から募集したのに対し、5 地域会議が応募し採用されたものであり、企画提案書をもとに催事の実施、運営を計画中。

日 時：2025 年 6 月 5 日 (木) 9:00～21:00 (準備・撤収を含む)

場 所：大阪・関西万博会場内 EXPO ホール (シャインハット) (別添2参照)

(約 1800 人収容、万博の閉会式も行われる予定の会場内メイン施設)

テーマ：「(仮) 千の自然・千の時間——私たちと世界自然遺産 5 地域」

内 容：①世界自然遺産と私たち—みつけた！自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ
(子供作文コンクール代表作発表)

②日本の世界自然遺産「千の自然・千の時間」に出会う

—1. イントロダクション自然映像上映 (約 6 m×10m の大型スクリーン)

—2. 5 地域 (知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島) の映像・著名人トーク

—3. 芸能パフォーマンス (5 地域で生まれ育まれた、芸能・文化の出会い)

③国際シンポジウム「(仮) 世界自然遺産を引き継ぎ生かす共生の理念」

(コーディネータ：山極壽一総合地球環境学研究所所長)

④5 つの環境文化の展示・体験 [ホール内多目的室を展示場として活用]

(3) 地域関連事業

各地域や関連団体が実施している地域イベント等と連携し、一体的な PR を図る。

4. 主催組織等

- ・ 名称：世界自然遺産 5 地域会議
- ・ 設立：2023 年 (令和 5 年) 1 月
- ・ 代表：小野寺 浩 (公益財団法人 屋久島環境文化財団 理事長)
- ・ 公式サイト：<https://www.yakushima.or.jp/heritage/>

※共催：イベント学会・一般財団法人地球産業文化研究所

(2005 愛・地球博理念継承事業実施団体)

5. 本事業に関するお問い合わせ先

●公益財団法人 屋久島環境文化財団

[担当者] 事業課 濱崎 [TEL] 0997-42-2900

●株式会社メッツ研究所 (5 地域会議事務局業務請負)

[担当者] 環境計画課 岡、引田 [TEL] 03-5227-7802 [E-mail] oka@mits-ri.co.jp

世界自然遺産5地域会議の組織・名簿

■役員

職名	氏名	所属
代表	小野寺 浩	公益財団法人屋久島環境文化財団 理事長
副代表	荒木 耕治	鹿児島県屋久島町 町長
幹事	山内 浩彰	北海道斜里町 町長
	桑田 豊昭	青森県西目屋村 村長
	佐々木 文明	秋田県藤里町 町長
	渋谷 正昭	東京都小笠原村 村長
	安田 壮平	鹿児島県奄美市 市長
	知花 靖	沖縄県国頭村 村長
	村田 良介	公益財団法人知床財団 理事長

■構成員

地域	都道府県名	市町村・団体名	首長・代表者名
知床	北海道	斜里町	町長 山内 浩彰
		羅臼町	町長 湊屋 稔
		(公財)知床財団	理事長 村田 良介
白神山地	青森県	鱒ヶ沢町	町長 平田 衛
		深浦町	町長 吉田 満
		西目屋村	村長 桑田 豊昭
		弘前市	市長 櫻田 宏
	秋田県	藤里町	町長 佐々木 文明
		八峰町	町長 堀内 満也
		能代市	市長 齋藤 滋宣

小笠原諸島	東京都	小笠原村	村長 渋谷 正昭
屋久島	鹿児島県	屋久島町	町長 荒木 耕治
		(公財)屋久島環境文化財団	理事長 小野寺 浩
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島	鹿児島県	奄美市	市長 安田 壮平
		大和村	村長 伊集院 幼
		宇検村	村長 元山 公知
		瀬戸内町	町長 鎌田 愛人
		龍郷町	町長 竹田 泰典
		徳之島町	町長 高岡 秀規
		天城町	町長 森田 弘光
	伊仙町	町長 大久保 明	
	沖縄県	国頭村	村長 知花 靖
		大宜味村	村長 友寄 景善
		東村	村長 當山 全伸
		竹富町	町長 前泊 正人

■顧問・関係機関等

身分	氏名	備考
東京大学名誉教授	岩槻 邦男	学術顧問
イベント学会会長	中村 利雄	支援機関
(一財)地球産業文化研究所専務理事	蔵元 進	参加支援機関
(株)玉の湯代表取締役	桑野 和泉	やくしまじかん懇談会委員

5 地域会議の参加の枠組み

万博開催期間：2025年4月13日（日）～10月12日（日）



A.「テーマウィーク」枠

博覧会協会が主催する、8つの社会課題解決をテーマに掲げた事業。そのうち「未来への文化共創」ウィーク = 4/26(金)～5/6(火)の1日に参加。

[開催日：2025/5/6(火)]

[場 所：テーマウィークスタジオ]

B.「一般参加催事」枠

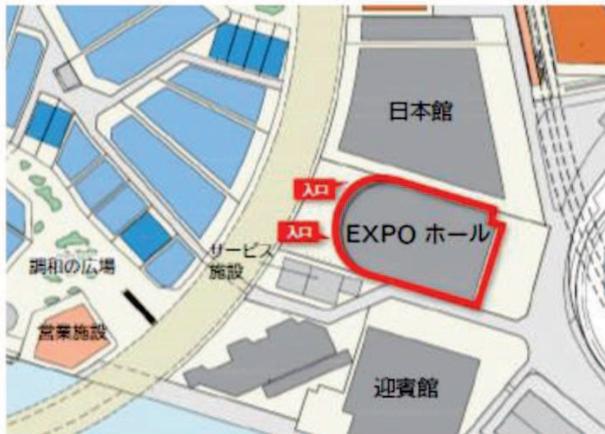
博覧会協会が、未来創造への挑戦となる参加型、発表型、展示型イベントの企画を一般から募集したのに対し、5地域会議が応募し採用されたもの。

[開催日：2025/6/5(木)]

[場 所：EXPOホール]

一般参加催事 会場

EXPOホール 配置図・平面図

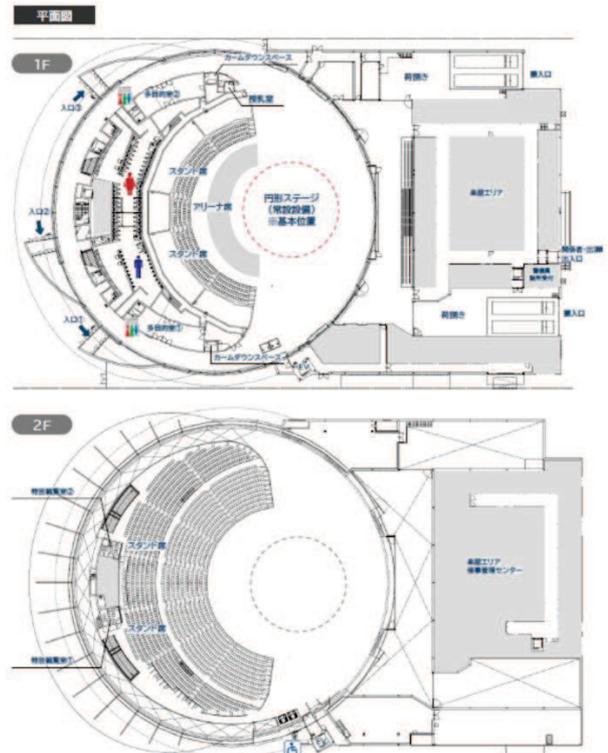


<施設概要>

建築構造：鉄骨造
 収容人数：約1,900席
 舞台形式：大型円形仮設
 ステージ（直径18m）

付帯設備（来場者向け）：
 スタンド席、アリーナ席（可動）、車椅子席、トイレ、特別観覧室、授乳室、カームダウンスペース、多目的室など

付帯設備（バックヤード）：
 楽屋、リハーサル室、トイレ、シャワー室、給湯室など



EXPOホール(シャインハット)
2025年6月5日(木)

催事運営

広報・集客の方針 (案)

■趣旨・目的

・5地域会議規約第2条

「世界自然遺産地域間の連携によって、日本の自然遺産の価値と日本型自然保護システムを国内外に発信するとともに、共通の地域課題解決に取り組み、各地域の持続的発展を図ることを目的とする。」

2025大阪・関西万博への参加は、5地域の魅力や保全と暮らしの両立の取組みを国内外に発信する絶好の機会

- ① **催事当日**: 多くの人々を会場に集め、直接身近に体験し理解を深めてもらうとともに、にぎわいを創り出す
- ② **催事前後の期間(1)**: 万博の話題性を生かして5地域の取組みを全国に広くアピールし、取組み支援につなげる
- ③ **催事前後の期間(2)**: 全国的催事への参加により、地元の人々に世界遺産地域の価値に気づいてもらう

■万博参加をめぐる条件

- ・万博への想定来場者数: 約2,820万人(会期4/13~10/12)
- ・6月5日は大会場を確保: EXPOホールの収容力は1800人
- ・会場来訪への制約: 遠距離、当日は平日(木)、入場料・予約制

■広報・集客活動の基本方針

- 催事テーマ(5地域会議のねらい)の確実・適切な伝達
- 興味、関心を高め、楽しさを予感させる話題作り
- 近在(関西圏)の人々への働きかけ
- 幅広く多方面の関係者への働きかけ

■集客の目標

万博会場内を回遊する一般客が、好立地にあるこのホールを訪れる可能性は高いが、それとは別に**目的にこのホールに来場**する人々の目標を設定し、集客活動を行う。

集客の目標は1800人の1/3 = 600人程度とする。

<集客目標の内訳>

- ・催事の直接関係者(会員代表、出演者、スタッフ等) 120人
- ・関西圏在住県人会等の5地域出身者 120人
- ・関心の高い学生(生物、旅行、環境保全サークル等) 60人
- ・市民活動団体(TEAM EXPO関係中心) 100人
- ・自然保全関係団体(自然公園財団、NACS-Jほか) 100人
- ・企業関係者(直接支援、国立公園パートナーほか) 50人
- ・ツアー会社関係者、募集旅行客等 50人

催事運営

広報・集客の方針(案)

■アピールする内容

◇テーマ性から(例)

- ー 日本列島の多様な自然を象徴する、5つの世界遺産
- ー 世界自然遺産は長い時間を経た、地元の取り組みで維持
- ー 国際的視点から、未来社会へ向けてのヒントをさぐる

◇話題性から(例)

- ー 大型、高品質の迫力ある映像で5地域の自然を再現
- ー 全国の自然遺産地域から人や物が集まる
- ー 辺境に位置する5地域から世界に発信する
- ー 世界で活躍する有識者が日本型自然保護に注目し議論
- ー 自然遺産地域への応援団(著名人や企業、団体)が集合

◇地域とのつながりから(例)

- ー 地元の人と暮らしに触れることができる
- ー 地元の将来を担う世代が出演
- ー 同じ課題をかかえる地域どうしで交流や連携が生まれる

■広報手段

- ・5地域の自然・環境文化紹介と万博参加告知のパンフレット
- ・作文コンクールの「募集要項」を兼ねた、地域内でのチラシ配布
- ・市町村広報誌、県人会広報誌など
- ・新聞・TV等マスコミへの働きかけ、取材対応
- ・地方放送局との連携
- ・関係団体への広報協力要請
(自然保護、国立公園、エコツーリズム、森づくり、地域振興、など)
- ・万博公式広報媒体の活用
- ・万博入場者(一般客)向け当日広報の活用

世界自然遺産 5 地域会議の万博参加の計画

2) 催事の詳細

① テーマウィーク催事5/6:

万博協会側が設定した「**未来への文化共創**」ウィークの**5月6日(火)**に、共創プロジェクトチームの一つとして参加するトークセッション。

② EXPOホール催事6/5 ステージプログラム:

EXPOホール(シャインハット)のステージで**6月5日(木)**に実施するプログラム。「**千の自然・千の時間**——私たちと世界自然遺産**5地域(仮)**」

- プログラム1: 子供作文コンクール
- プログラム2: 地域紹介/大型映像・トーク・芸能パフォーマンス
- プログラム3: 国際シンポジウム
- プログラム4: 5地域提言・クロージング

で構成する。

③ EXPOホール催事6/5 展示事業:

EXPOホール(シャインハット)の「多目的室」2か所で**6月5日(木)**に実施する展示事業。5地域の多様な自然と文化の魅力を紹介。

テーマウィーク催事概要(案)

5/6(火) 10:00-20:00

10:00	設営・実施準備
10:15	オープニング 休憩・準備
10:30	個別プロジェクト報告① 関西・歴史文化首都 フォーラム (イベント学会)
12:30	休憩・準備
13:30	個別プロジェクト報告② いのちをつなぐ水と 流域・地球市民対話 (GISPRI)
15:30	休憩・準備
16:00	個別プロジェクト報告③ 国内5世界自然遺産に 見る自然と社会の共生と 未来に残すべき人類の遺産 (世界自然遺産5地域会議)
18:00	休憩・準備
18:30	クロストーク コーディネーター：藤井昌平 登壇者：各プロジェクト代表 ・有識者 (総検討)
20:00	休憩・準備
20:15	エンディング
20:30	撤収
21:00	

3団体での共同プログラム。万博テーマウィーク「未来への文
化共創」ウィークの一環として実施。 ※
各団体からの発表と、その後の有識者クロストークで構成予定。
一般向けというより、オンライン番組の公開収録的なイメージ。

- ・ タイトル: 『「地球市民」が実現する持続可能な社会への提言』
- ・ 形態: 3団体からの事例発表、有識者によるクロストーク等
- ・ 日時: 5/6(火)10:00-20:00(準備・撤収含む)
- ・ 場所: テーマウィークスタジオ(170㎡と小さい)
- ・ 観客席: 約70席

※他2団体についての紹介

① 関西・歴史文化首都フォーラム:

関西各地に集積された有形無形の「歴史文化」を世界にPR
発信。関西を構成する2府4県(滋賀県/京都府/大阪府
/兵庫県/奈良県/和歌山県)にて、「関西・歴史文化首都
フォーラム」を開催しており、その集大成として2025年は
万博会場にて事業展開を計画。

② いのちをつなぐ水と流域・地球市民対話:

愛・地球博の理念継承と発展のための活動の一つとして、
「水と流域」をテーマに持続可能な社会づくりの方法を議論
し、地球市民対話を通してSDGsの達成とその先のワクワ
クする未来づくりをめざす。

■基本方針 (世界遺産5地域会議/16:00~18:00)

- ・ 世界自然遺産5地域が取り組んできた「自然保護と暮らしの両立」についての課題をテーマとした事例を発表
- ・ 5地域別の取組内容の発表(15~20分程度)は、各地域が企画、実施
- ・ 有識者や企業よりゲストを招き、事例や課題感に対し、各々の立場からのアドバイスや取組みなどを紹介してもらいながら、今後の展開について議論し、解決方法や連携方法などを探る
- ・ 各地域が有する映像(地域が誇りとする風景・自然の映像)の活用も検討

■取組事例報告のイメージ

世界自然遺産5地域が取り組んできた「自然保護と暮らしの両立」についての課題をテーマに、各地域が取り組んできた独自の解決策や仕組みをアピール。今後の課題感についても触れる

考え方

発表事例案

- ① 観光管理
- ② 固有の自然を生かした地域振興
- ③ 企業との協働

※進行構成と登壇候補者について現在検討中

EXP0ホール催事 「千の自然・千の時間 —— 私たちと世界自然遺産5地域(仮)」

プログラム全体構成(事務局案)

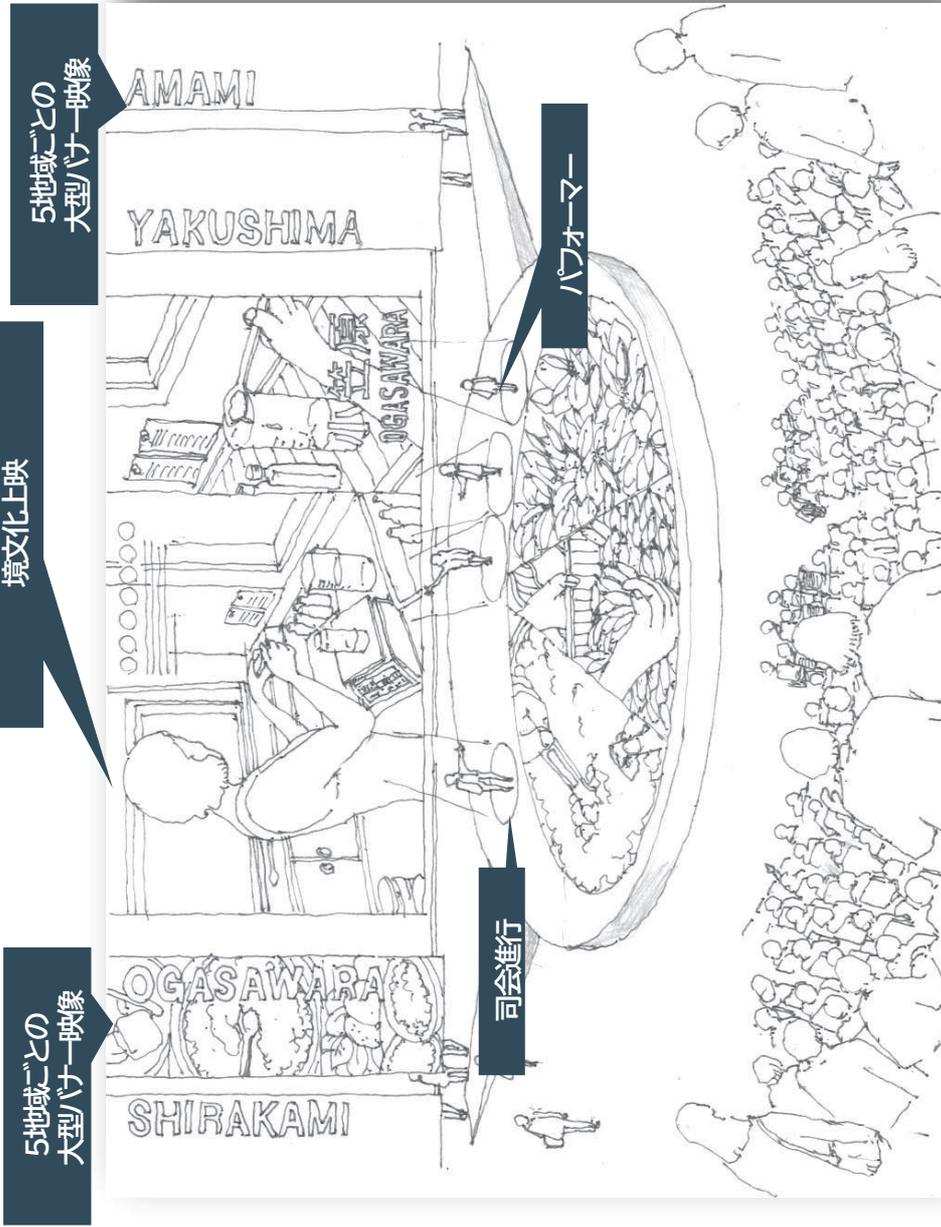
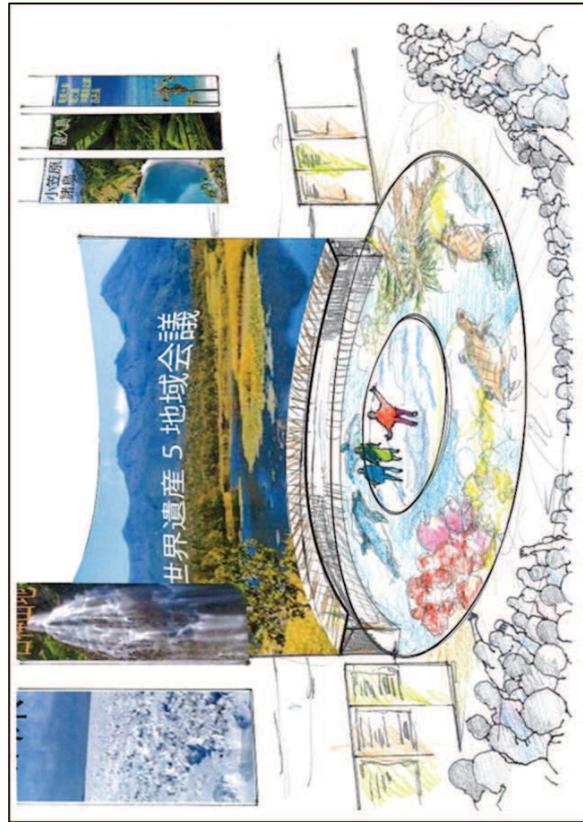
開催：2025年6月5日 11:00～18:00

11/12現在

開始	終了	所要 (分)	プログラム	催事の内容	登壇者
10:00	11:00	60	開場・観客誘導		
11:00	11:10	10	オープニング	・開会 ・代表挨拶 ・識者メッセージ	
11:10	12:10	60	プログラム 1	「世界自然遺産と私たち ——みつけた！ 自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ(子供作文)」 (代表作品発表と授賞式) (冒頭で日本の世界自然遺産上映も検討)	・5地域会議代表者(賞状・記念品授与) ・司会(進行・インタビュアー) ・披露(作文読み上げ)／声優など起用 ・受賞者(5地域の子供たち10人＋家族)
12:10	12:25	15	休憩・準備		
12:25	12:30	5	2-1 5地域イントロダクション (5地域の大型映像上映／6m×10mスクリーン)		・司会(進行) ・ナレーションで5地域全体概要紹介 (←全体解説者なし)
12:30	14:25	115	プログラム 2 日本の世界自然遺産「千の自然・千の時間」に出会う	2-2 5地域(知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島)の映像・トーク (地域ごとの映像＋ゆかりの著名人等)	・司会(進行・解説者紹介) ・各地域解説者(ゆかりの著名人による忘れられない思い出など) (芸能人、アーティスト、学識者等5名程度) ・各地域首長、ゲスト(生産者、活動家、有識者など)
14:25	14:35	10	休憩・準備		
14:35	15:45	70	2-3 芸能パフォーマンス (5地域で生まれ育まれた、さまざまな芸能・文化の出会い)		・各地域解説者(各地域の進行＋紹介) ・各地域パフォーマー(歌、踊り、楽器演奏など)
15:45	16:00	15	休憩・準備		
16:00	17:30	90	プログラム 3	国際シンポジウム 「世界自然遺産を引き継ぎ生かす・共生と循環の理念(仮)」 地球環境危機の時代、文化と科学が共鳴しあう新たな環境倫理の下でのパラダイムシフトに日本の世界自然遺産が果たし得る役割を問う	・司会(紹介) ・コーディネーター：山極壽一総合地球環境学研究所長 ・パネリスト(海外在住者含む4～5名)
17:30	18:00	30	プログラム 4	5地域提言・クロージング (日本固有の多様な自然の魅力とそれを維持してきた人々の営み、共生の理念、保護の仕組みを国内外に発信)	・司会(紹介) ・5地域会議代表者(提言・閉会宣言) ・シンポジウム登壇者 ・各地域代表者、地域ゲスト、地域パフォーマー
18:00	21:00	180	撤収		※メインステージ、多目的室等の撤収

注)「プログラム2」の詳細について別紙参照

EXPOホール催事 ステージイメージ



大型スクリーン映像での自然や環境文化上映

5地域ごとの大型バナー映像

5地域ごとの大型バナー映像

司会進行

パフォーマー

Program 1

世界自然遺産と私たち

一みつけた！ 自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ（子供作文）

■趣旨・目的

－日本の世界自然遺産5地域23市町村に暮らす子供たちに、作文を通じて大阪・関西万博に参加してもらおう機会として作文コンクールを行い、選ばれた5地域の代表を万博会場に招待して作品を発表する。

－地域の将来を担う世代が、地域の自然や自然と共に暮らすの価値に気づくまたは理解する機会とする。また、大人が思いがけないような新たな視点の提起、といった効果が期待される。

－会員市町村が募集・選考にたずさわって作品募集・コンクールという形式をとることにより、万博へ向けての地域ぐるみの参加・盛り上がり期待できる。

■作文テーマ

「世界自然遺産と私たち 一みつけた！ 自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ」

－地元の自慢の景色、自然の中での遊び、自然の中で感動したこと、不思議だなど思ったこと、暮らしの中で自然があるからこそ感じられる音やにおいの体験、など

■選考委員会による選考基準の例

- * 作者独自の視点や想像力、展開力、感性などが読み取れる
- * この地域ならではの自然や文化が説得力をもって描写されている
- * 自然への言及やかかわり方などを通じ、未来社会への希望が感じられる

EXPOホール(シャインハット)
2025年6月5日(木)
11:10～12:10

■代表作品選出・発表までの流れ

- 1) 作品募集
(各地域の市町村ごとに募集。募集方法は各市町村が決定)
※応募は児童生徒の自由応募を原則とする
- 2) 一次選考
(候補作品の選出／選考基準を参考に、市町村単位で当該市町村の小・中学生代表作品を選出。方法は各市町村が決定)
- 3) 最終選考
(地域別代表作品の選出／5地域会議が設置する選考委員会で選考を行い、各地域小・中各1作品を選出)
- 4) 各地域代表作品発表・授賞式
(6/5大阪・関西万博会場／副賞「万博ご招待」)

- 12月： 各市町村で募集開始、応募受付
- 2月： 募集締切り (2/12 (水))、一次選考
- 3月： 選考結果を5地域会議に提出 (3月上旬)、
最終選考 (各遺産地域の代表作品決定)
代表作品作者に連絡 (授賞式：万博招待)

日本の世界自然遺産 5 地域

(知床、白神、小笠原、屋久島、奄美・沖縄)

「大阪・関西万博」に参加・出展！

日時：2025年6月5日(木) 11:00～18:00

会場：万博 EXPO ホール (シャインハット)

プログラム

1. 「世界自然遺産と私たち」こども作文コンクール授賞式
2. 日本の世界自然遺産「千の自然・千の時間」に出会う
(大型自然映像・トーク・芸能パフォーマンス)
3. 国際シンポジウム「世界自然遺産を引き継ぎ生かす・共生と循環の理念(仮)」
4. 世界自然遺産 5 地域からの提言

こども作文コンクール

テーマは

作文募集

世界自然遺産と私たち

みつけた！自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ

各地域の最優秀賞受賞者は

大阪・関西万博にご招待！

作者と保護者 1 名 (往復交通費・2泊宿泊費・万博入場券 / 開催期間中有効)

背景：地域の写真やイラスト

文字数：1000～1200字

400字詰め原稿用紙で3枚

賞：各地域の最優秀賞1作品

「大阪・関西万博」会場で世界に公表

応募条件：世界自然遺産5地域内(本市町村)に在住の小学生・中学生

「小学生の部」「中学生の部」でそれぞれ募集

締切：2024年2月12日(火)

当日消印有効

背景：こどもイラスト等

主催：世界自然遺産5地域会議

(北海道) 斜里町、羅臼町、(公財) 知床財団 (青森県) 弘前市、鱒ヶ沢町、深浦町、西目屋村

共催：(秋田県) 藤里町、八峰町、能代市 (東京都) 小笠原村 (鹿児島県) 屋久島町、(公財) 屋久島環境文化財団、奄美市、大和村、宇検村、瀬戸内町、龍郷町、徳之島町、天城町、伊仙町 (沖縄県) 国頭村、大宜味村、東村、竹富町

背景：地域の写真やイラスト

応募については裏面の「募集要項」をお読みください。

こども作文コンクール 募集要項

テ ー マ	「世界自然遺産と私たち ーみつけた！自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ」 地元の自然の景色、自然の中での遊び、自然の中で感動したこと、ふしぎだなと思ったこと、暮らしの中で自然があるからこそ感じられる音や臭いの体験、など
応募資格	本市町村内に住む小学生と中学生（公立・私立、小中一貫校、特別支援学校等府含む）
部 門	「小学生の部」「中学生の部」の2部門で募集します。
作 文	文字数： 1000～1200字 用 紙： 400字詰め原稿用紙
応募方法	応募数： 1人1作品（未発表作品） 記 入： 作品1枚目1行目に「タイトル」、2行目に「学校名」と「学年」、3行目に「名前」、4行目から「本文」を書いてください。 3枚目裏面には「住所、連絡先（電話番号）保護者名」を記入してください。 名前には必ずフリガナを付けてください。 応 募： 応募先窓口へ持参、もしくは郵送してください。（当日消印有効） 応募料： 無料 応募先： 斜里町「作文コンクール事務局」 〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地 電話番号：0152-23-3131
締 切	2025年2月12日（火）当日消印有効
選考と表彰	<ul style="list-style-type: none"> ・5つの地域ごとに、小・中学生それぞれの最優秀1作品を選出します。 ・候補作品は市町村ごとに選出し、最優秀作は5地域会議の選考委員会で決定します。 ・選考基準は、テーマに沿って、①作者らしさが感じられ、②地域の描写にすぐれ、③未来へのアピールが読み取れること、を原則として選考委員会で決定します。 <p>■最優秀賞 「小学生の部」1作品、「中学生の部」1作品（5つの地域ごとに決定）</p> <p style="padding-left: 2em;">発表：2025年6月5日（木）大阪・関西万博 EXPO ホール</p> <p style="padding-left: 2em;">賞：世界自然遺産5地域会議より「大阪・関西万博ご招待」します。</p> <p style="padding-left: 2em;">作者と保護者1名の万博入場券、往復交通費、2泊宿泊代（万博開催期間中有効）</p> <p style="padding-left: 2em;">授賞式：大阪・関西万博 EXPO ホールで最優秀賞の授賞式をおこないます。</p> <p style="padding-left: 2em;">※受賞者には4月頃事前にご連絡 いたします。</p>
審 査 員	審査委員長： 山極 寿一（人類学者・霊長類学者、総合地球環境学研究所所長） 審 査 員： ○○○○○（プロフィール） ○○○○○（プロフィール） ○○○○○（プロフィール） ○○○○○（プロフィール）
ご 注 意	受付できない作品は次の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・既定の用紙（400字詰め原稿用紙）以外の用紙の使用 ・絵・写真などを使用した作品 ・二重応募の作品 ・応募する児童・生徒の自筆でない作品 障害などの理由で、自筆に不安がある人は「作文コンクール事務局（仮称）」にご連絡ください。 応募作品は返却いたしません。必要であればコピーしておいてください。 鉛筆（Bまたは2B）で濃く書いてください。 盗作等による著作権侵害の争いが生じた場合、主催者は責任を負いません。 入選作品の著作権は主催者に帰属します。 入選作品は大阪・関西万博及び主催者、共催者のホームページや出版物等で紹介、使用されることがあります。 記載いただいた個人情報を受賞者への連絡、作品に関する問い合わせ、発表等のみに使用します。
主 催 問合せ先	世界自然遺産5地域会議 斜里町「作文コンクール事務局」電話番号：0152-23-3131（平日の午前9時～午後5時まで）

「日本の世界自然遺産『千の時間』に出会う」 構成（事務局案）

開催：2025年6月5日 11:00～18:00

時間		所要(分)	プログラム	催事(タイトル)	内容(進行、時間、出演者候補) (★印は候補として確定)	映像		注記
開始	終了					時間配分	摘要	
10:00	11:00	60	開場・観客誘導					
11:00	11:10	10	オープニング	開会、挨拶、メッセージ				
11:10	12:10	60	プログラム1	世界自然遺産と私たち「一みつけた! 自然のふしぎ・自然と暮らすのしみ(子供作文)」	子供作文コンクール代表発表・授賞式		※冒頭で2-1映像を上映することも検討 ・翻訳は字幕表示(英語)	
12:10	12:25	15	休憩・準備					
12:25	12:30	5		2-1 5地域イントロダクション	①世界自然遺産全体映像(5分) / TBS番組「世界遺産」よりの提供映像・影アナ(司会)と映像でスタート ・映像にはナレーションと重点箇所字幕	自然映像: 5分	世界自然遺産全体映像4Kナレーション(日本語)字幕(英語・中国語・韓国語)	伝えたいこと: 何百万年もの時の流れの中で形成された、世界遺産の価値を持つ5つの自然が日本にある。それと共生してきた各地域の人々の暮らしが風景の厚み・深みを作っている。
12:30	14:25	115	プログラム2 日本の世界自然遺産「千の時間」に出会う	2-2 5地域(知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島)の映像・トーク	②2-1終了とともに司会(全体進行)登壇(2分) ・司会が地域の進行・解説者を紹介 ・地域別に進行する旨紹介(各約20分で地域紹介+トーク、計約2時間) ①【知床】20分 進行・解説/新谷 暁生(冒険家、カヌーツアーズ知床エクスペディション企画) ②【白神山地】20分 進行・解説/南圭介(俳優・白神山地魅力発信アンバサダー)★★ ③【小笠原】20分 進行・解説/川上和人(森林総研、野鳥研究、NHK子ども科学電話相談)★★ ゲスト/渋谷正昭(村長、移住者)★★ ④【屋久島】18分 進行・解説/例)小川洋子(作家) ゲスト/地元有識者 ⑤【奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島】35分 ・奄美大島・徳之島: 進行・解説/服部正策(動植物)★★ ゲスト/元ちとせ ・沖縄: 進行・解説/例)中間由紀恵(俳優・県の世界自然遺産大使)	自然映像①: 5分 トーク: 15分 自然映像②: 5分 トーク: 15分 自然映像③: 5分 トーク: 15分 自然映像④: 5分 トーク: 15分 自然映像⑤: 5分 トーク: 15分 トーク: 15分	・自然映像(TBS): 5地域それぞれの特徴と魅力(ナレーションは最小限)→各5分 ・トークに合わせた映像をインサートまたは別スクリーンで映写 ・地元映像(生きもの、祭活動、祭風景、名産品、人々など) ・出演者アップ	トークのテーマ例: 海からの知床半島一周 ※ニセコ在住、なだれ情報発信「ニセコルール」運用を支える トークのテーマ例: プナ帯文化を受け継ぎ広げていく トークのテーマ例: 海と島に生きる楽しさとは ※著書に「そもそも島に進化あり」 トークのテーマ例: 歩いてわかる屋久島の森の不思議 ※著書(共著)に「コリラの森、言葉の海」
14:25	14:35	10		休憩・準備				トークのテーマ例: 太古の森に刻まれた時間 トークのテーマ例: 沖縄の自然と人
14:35	15:45	70		2-3 芸能パフォーマー ※各地域のジャンルの異なるパフォーマー選が一体となってステージを盛り上げる	・2-3 ・司会(進行)登壇(各地域約10分で地域パフォーマーダンス/歌、踊り、楽器演奏など) ①楽曲 30分 【知床】パフォーマー/森大翔(羅臼出身21歳のシンガーソングライター)★ 【小笠原】パフォーマー/0kei・松永希(小笠原古謡)★★ 【奄美・沖縄】パフォーマー/元ちとせ・中孝介(鳥唄)★★ ②伝統芸能 40分 【白神山地】パフォーマー/藤野豊作踊り★★ 【屋久島】パフォーマー/榊川益踊り(高校生による上演)★★ 【奄美大島、徳之島】パフォーマー/関西奄美会(八月踊りほか)★★	映像は、ステージ出演者を映し出す 2-2、2-3のトーク部分翻訳は字幕表示(英語)	・シーンによっては2-2進行・解説者がここでも登場 ・バンド生出演は会場都合からハリハーサル制約あり困難、伴奏は録音テープか	
15:45	16:00	15	休憩・準備	シンポジウム準備、参加者登壇				
16:00	17:30	90	プログラム3	「世界自然遺産を引き継ぎ生かす・共生と循環の理念(歌)」	国際シンポジウム			・同時通訳
17:30	18:00	30	プログラム4	5地域宣言・クロージング				・同時通訳
18:00	21:00	180	撤収		※メインステージ、多目的室等の撤収			

地域解説者・ゲスト紹介

地域	氏名	紹介
【知床】	新谷 暁生	冒険家、カヌーツアー知床エクスペディション企画・登山、シーカヤックの冒険家。1975年にニセコでロッジ・ウッドペッカーズを開業。雪崩事故防止に携わり、「ニセコルール」創設に尽力。主な著書に『北の山河抄』（東京新聞出版局）など。
【白神山地】	南 圭介	俳優・白神山地魅力発信アンバサダー ・世界遺産検定マイスターの知見を活かし、「朝だ！生です旅サラダ」レポーターなどで活躍中。白神山地満喫ツアーなどで地域を盛り上げている。
【小笠原】	川上 和人	国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所鳥獣生態研究室長、鳥類学者 ・小笠原諸島に生息する鳥類をフィールドワークしている。著書に『鳥類学者だからって、鳥が好きだと思ふなよ。』など。
	渋谷 正昭	村長、移住者 ・学生時代にダイビングで小笠原への来島をきっかけとして小笠原村に移住。1983年小笠原村役場入庁。ホエールウオッチング事業の立ち上げや小笠原におけるエコツーリズム振興などに関わる。
【屋久島】	小川 洋子	作家 ・『ゴリラの森、言葉の海』では、屋久島を舞台に、共著者である山極寿一氏とともに、ゴリラとヒトの本性をめぐり深い対話を繰り広げている。
【奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島】	服部 正策	医動物学者 ・東京大学奄美病害動物研究施設に約40年間勤務。ハブの生態、咬傷予防等の研究に従事。著書に『マングースとハルジオン』がある。
	元 ちとせ	歌手 ・奄美大島出身。高校3年で「奄美民謡大賞」の「民謡大賞」を史上最年少で受賞。シマ唄により、先人から受け継いだ奄美大島の自然と文化発信している。

Program3

国際シンポジウム 「世界自然遺産を引き継ぎ生かす・共生と循環の理念 ～5地域から世界へのメッセージ～（仮）

EXPOホール(シャインハット)
2025年6月5日(木)
16:00～17:30

■シンポジウムの趣旨・目的

世界自然遺産に登録された日本の5地域(屋久島・白神山地・知床・小笠原諸島・奄美沖縄(諸島内4島4地域))は、相互の連携によって自然遺産の価値と日本型自然保護システムを国内外に発信するとともに、共通の地域課題に取り組み、各地域の持続的発展を図ることを目的に、「世界自然遺産5地域会議」を発足させています。

5地域会議が掲げる「日本型自然保護」とは、日本の自然観に基づく共生と循環の考え方であり、それぞれの地域には自然保護と暮らしを両立させる独自の工夫や知恵が環境文化として息づいています。

地球環境危機が深刻化する中、これらの「日本型自然保護」は、東洋の知として世界からも注目され始めています。

自然と人とを完全に分けて考える二元論や排中律といった、西洋近代からつづくパラダイムの限界が見える現代。東洋の知と西洋の知を融合させ、文化と科学が共鳴しあう新たな環境倫理を創り出していくこと、そしてそのために世界自然遺産が果たし得る役割について、国内外の識者が世界に向けて議論します。

■シンポジウムの趣旨・目的

テーマ:

**「世界自然遺産を引き継ぎ生かす・共生と循環の理念
～5地域から世界へのメッセージ～」(仮)**

開催日時: 2025年(令和7年)6月5日(木) 16:00～17:30

開催場所: EXPOホール(シャインハット)

主催組織: 世界自然遺産5地域会議(2023年1月設立)

共 催: イベント学会・一般財団法人地球産業文化研究所
(2005愛・地球博 理念継承事業実施団体)

■主な登壇者

山極 壽一氏(人類学・霊長類学者/総合地球環境学研究所長、
京大名誉教授)

小野寺 浩氏(世界自然遺産5地域会議代表、公益財団法人屋久
島環境文化財団 理事長)

他、コスモス国際賞受賞者など海外から数名、国内からも招聘予
定(詳細別紙①参照)

国際シンポジウム登壇候補者リスト(現在交渉中)

日本側登壇候補者

氏名	紹介
<p>山極 寿一</p> 	<p>人類学・霊長類学者/総合地球環境学研究所長、京都大学名誉教授</p> <p>日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長、国立大学協会会長、日本学術会議会長、内閣府総合科学技術・イノベーション・アクション会議議長を歴任。鹿児島県屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地でゴリラの行動や生態をもとに初期人類の生活を復元し、人類に特有な社会特徴の由来を探っている。</p>
<p>小野寺 浩</p> 	<p>世界自然遺産5地域会議代表、公益財団法人屋久島環境文化財団 理事長、大正大学客員教授</p> <p>1973年環境省(当時環境庁)に入庁。自然環境局長などを歴任。自然再生法、外来種法の新規立法や自然公園法の改正などに多数従事。屋久島や奄美群島を世界自然遺産登録へと導いた。</p>
<p>ミロコ マチコ</p> 	<p>画家・絵本作家、奄美大島在住</p> <p>生きものの姿をのびやかに描き、国内外で個展を開催。2019年に創作の拠点を奄美大島に移し、『暮しの手帖』にて「ミロコマチコ 奄美大島新聞」を連載。奄美大島の動植物の絵と共に日々の暮らしを綴る。</p>
<p>(山本 百合子)</p> 	<p>公益財団法人イオン環境財団 専務理事兼事務局長</p> <p>公益財団法人イオン環境財団：植樹活動をメインに様々な環境活動を継続。持続可能な地域の実現を目的に、地域との協働による新たな「イオンの里山」の構築を目指している。</p>

海外から招聘する登壇候補者

氏名	紹介
<p>ラマン・スクマール</p> <p>Raman Sukumar</p> 	<p>インド科学研究所生態学センター教授</p> <p>2006年(第14回)コスモス国際賞受賞者。象の生態学的、動物行動学的な研究成果を踏まえて、象と人間との共存のための多くの手法を開発。アジア各国の数多くの野生生物保護プログラムの科学的基盤となるなど、アジア象の生態学的研究において世界で最も指導的な人物。</p>
<p>アン・ラリゴデーリ</p> <p>Anne Larigauderie</p> 	<p>IPBES 事務局長</p> <p>IPBES (Intergovernmental Science-Policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services) : 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学 - 政策プラットフォーム。現在146カ国が加盟。透明性が高く包括的なプロセスを通して、自然科学、社会科学だけではなく、先住民や地域住民の知識を含む幅広い知識体系を活用した科学的評価を実施。評価結果は、G7やG20、世界経済フォーラム、各国政などの意思決定の基盤となっている。「2024年(第33回)ブループラネット賞」受賞。</p>
<p>(フェリシア・キースィング)</p> <p>Felicia Keesing</p> 	<p>バード大学 教授(生物学)</p> <p>2022年(第29回)コスモス国際賞受賞者。自然生態系を構成する生物の種多様性とそこに存在する人獣共通感染症病原体が人間社会へ伝播することのリスクとの関係性を、様々なフィールド調査に基づき研究。種多様性が減少することにより、新興感染症や再興感染症の脅威が増すことを実証的に提示した。</p>

展示事業（多目的室活用）概要

EXPOホール(シャインハット)
2025年6月5日(木)
10:00～18:00

日本の世界遺産地域にみる超絶・自然の価値と環境文化 — 知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島— (仮)

■趣旨・目的

世界自然遺産5地域から持ち寄った物品や映像等を展示するとともに、地域関係者による観光案内や地域活性化の活動紹介のコーナーも併せて設け、5地域それぞれが有する独自の自然の価値や環境文化の特徴について来場者に伝える。

■展示方針

- 2か所の多目的室(1か所約70㎡)を5つの遺産地域エリア(「知床」、「白神山地」、「小笠原諸島」、「屋久島」、「奄美・沖縄」)に区分
- エリア毎に各地域の自然と環境文化を示す共通仕様の壁面パネルを設置。パネル制作は各地域にゆかりのクリエイターに協力を依頼
- 5地域会議会員が該当するエリアに映像、模型、物産、チラシ等を持ち寄り展示
- 各室に1か所の「案内コーナー」(仮称・計2カ所)では、地域関係者が交替で全体案内と自地域の観光案内や地域活性化の活動紹介等を行う。

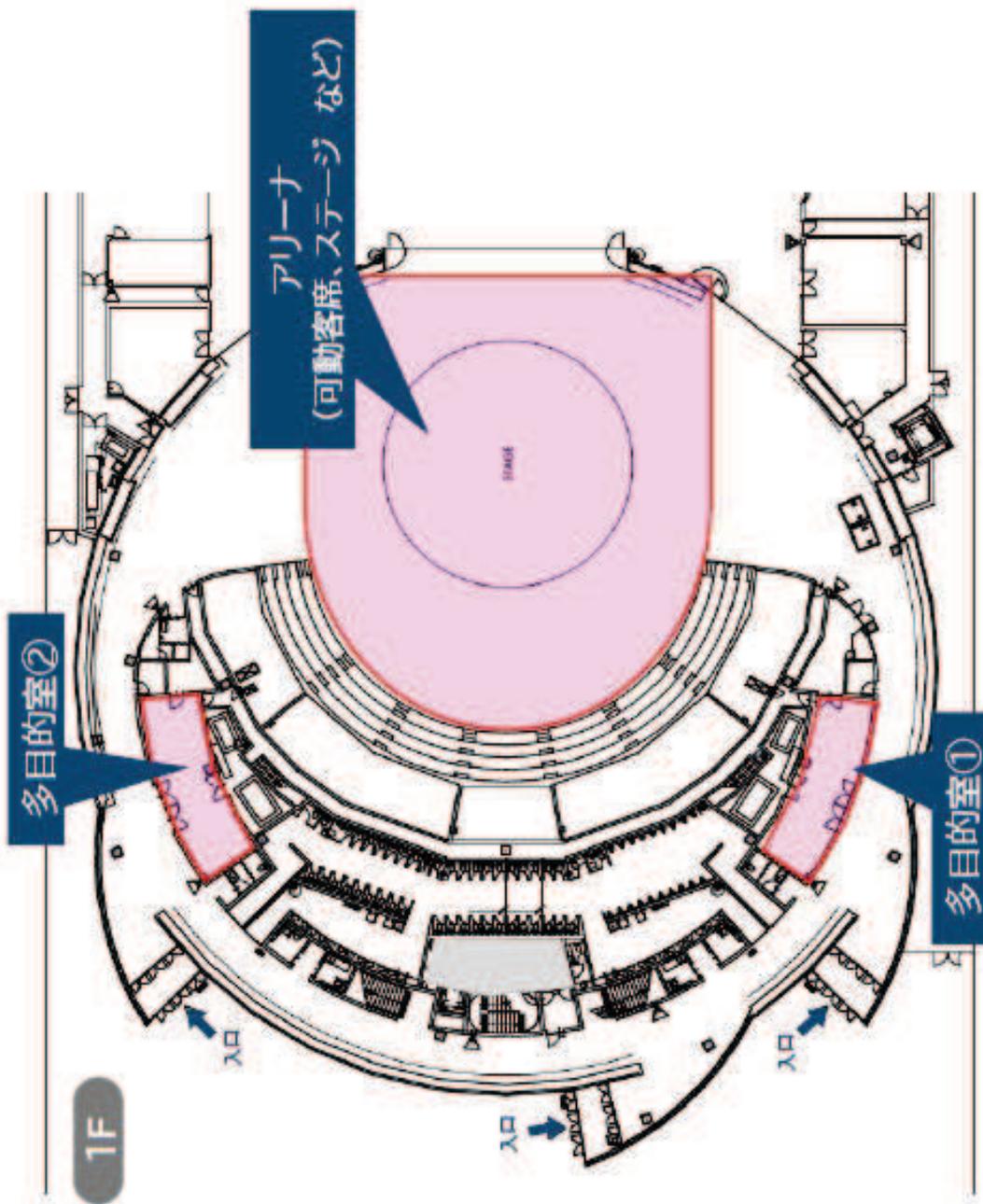
■出展までの流れ

- ①会場配置・設営計画の提示
- ②各会員からの出展希望展示物の形状・内容・数量の提示
- ③連絡・調整、詳細配置計画の確定
- ④展示物等の運び込み

■展示物制作・運営の役割分担

項目	会員市町村	事務局
展示会場の装飾看板、案内ブース、展示台、映像用モニター等の設営（制作・レンタル・搬入）		●
展示物（ポスター、チラシや物品、物産など）、映像ソフトの準備（制作・搬入）・設置	●	
壁面パネルの制作・設置（5地域に共通して設置し、各地域の環境文化を表示）	● 作者への依頼等	●
案内コーナーに配置する案内人等の選任、派遣	●	時間配分などの調整

EXPOホール内 多目的室の位置



多目的室2 (北側)

展示利用 壁面範囲図

展示地域

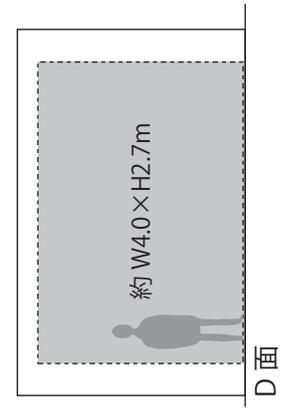
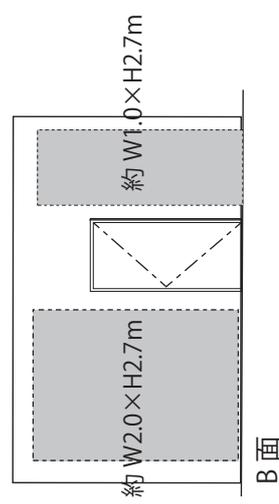
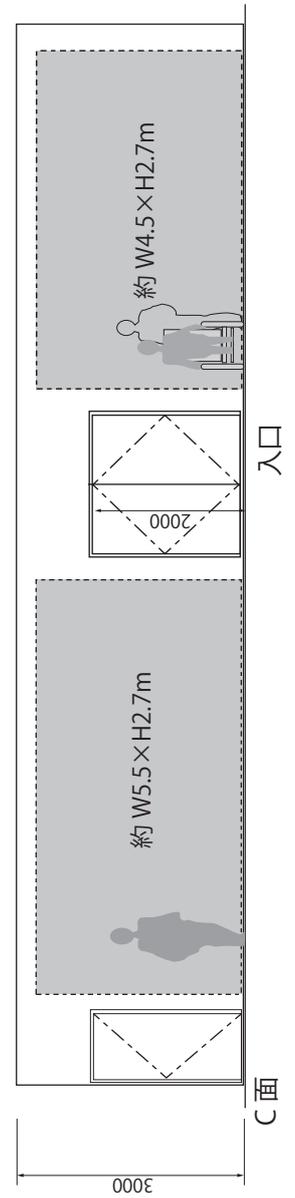
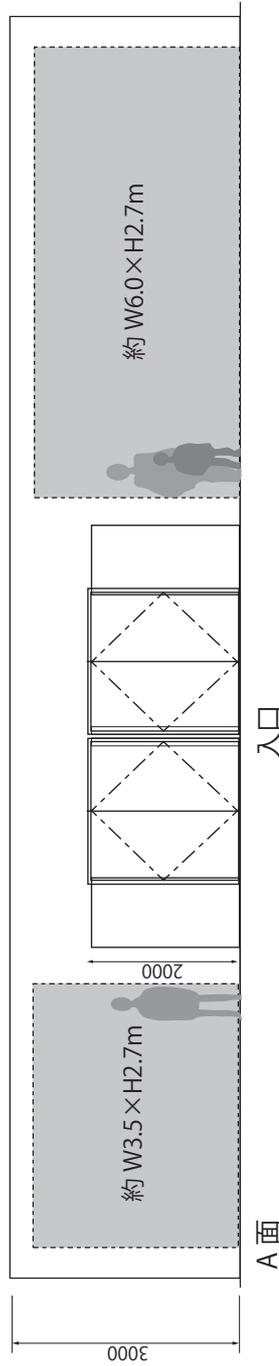
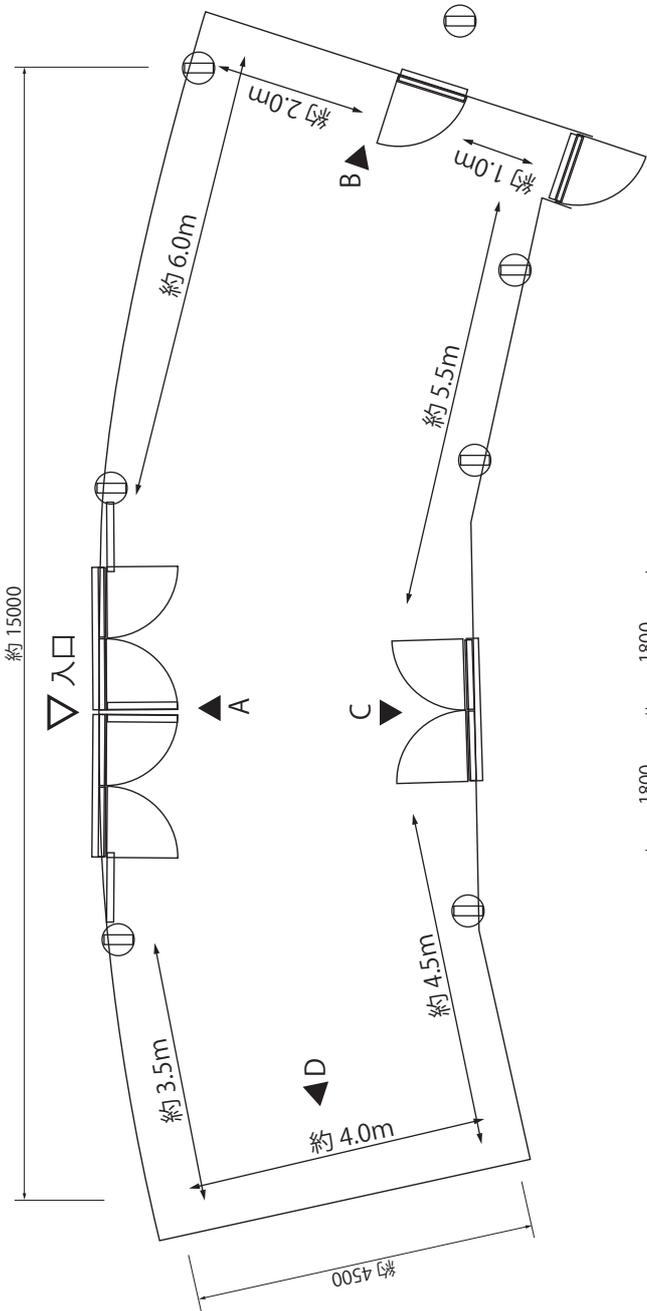
- ・ 知床地域
- ・ 白神地域
- ・ 小笠原地域

+ (総合案内コーナー)

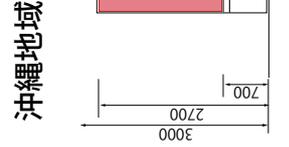
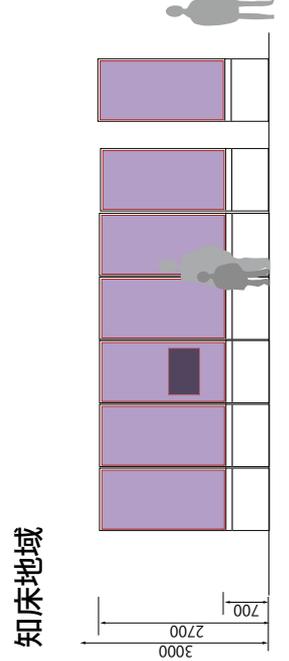
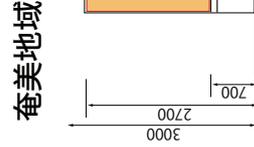
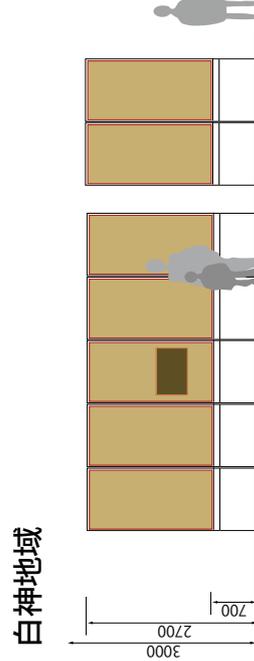
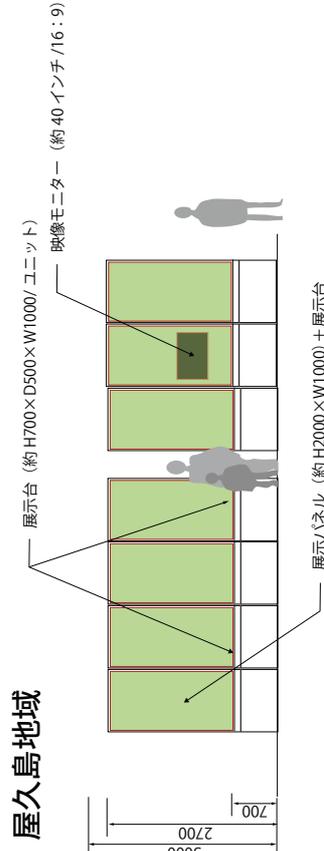
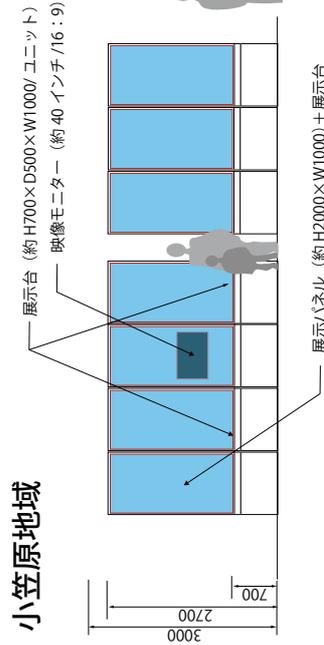
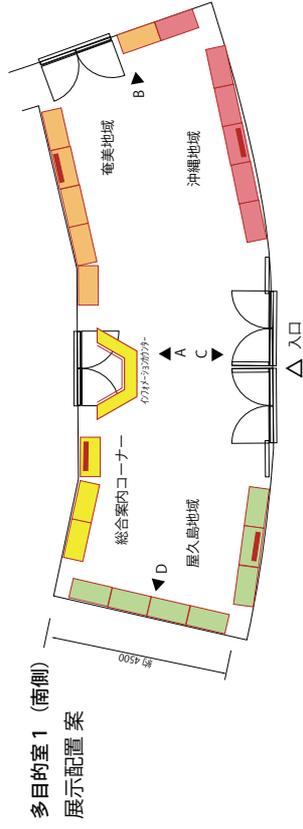
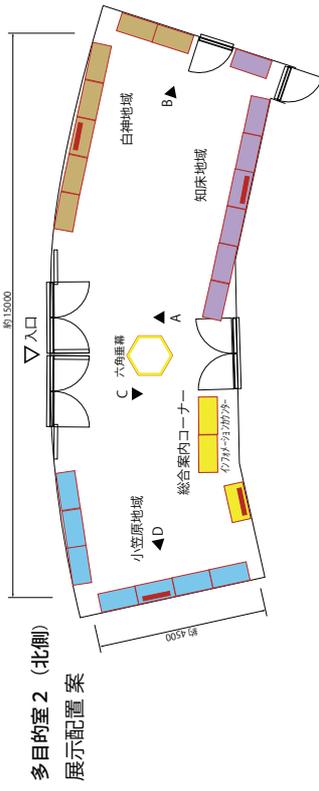
→ 展示可能壁面範囲 (概寸)



⊕ コンセント位置



小笠原・白神・知床・屋久島の展示範囲：展示パネル（約H2000×W1000）×7枚、モニター（約40インチ）×7枚、展示台（約H700×D500×W1000）×7枚
 奄美・沖縄の展示範囲：展示パネル（約H2000×W1000）×6枚、モニター（約40インチ）×6枚、展示台（約H700×D500×W1000）×6枚

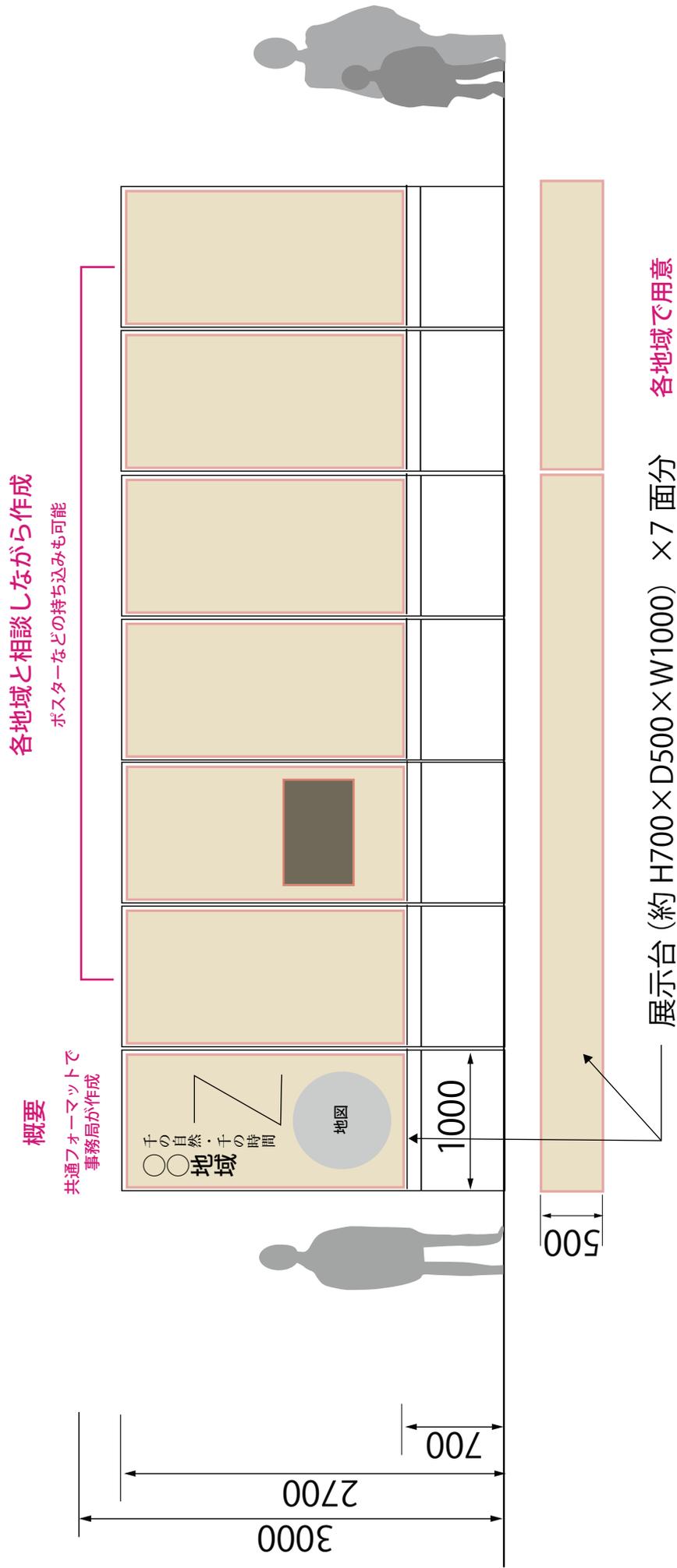


展示パネル＋展示台の構成案：

- ① 遺産地域の概要
- ② 自然や文化の素晴らしさを伝えるビジュアル（写真・イラストレーションなど）
- ③ 遺産の素晴らしさを伝えるメッセージ、次世代へのメッセージなど
- ④ 映像で伝える遺産地域の魅力（自然、祭り、踊り・唄、食など）
- ⑤ 実物展示（祭りの装束や道具、地域の工芸品、アート作品、書籍など）

展示パネル＋展示台の構成例

連続するパネルの枚数を自由にレイアウトできます。

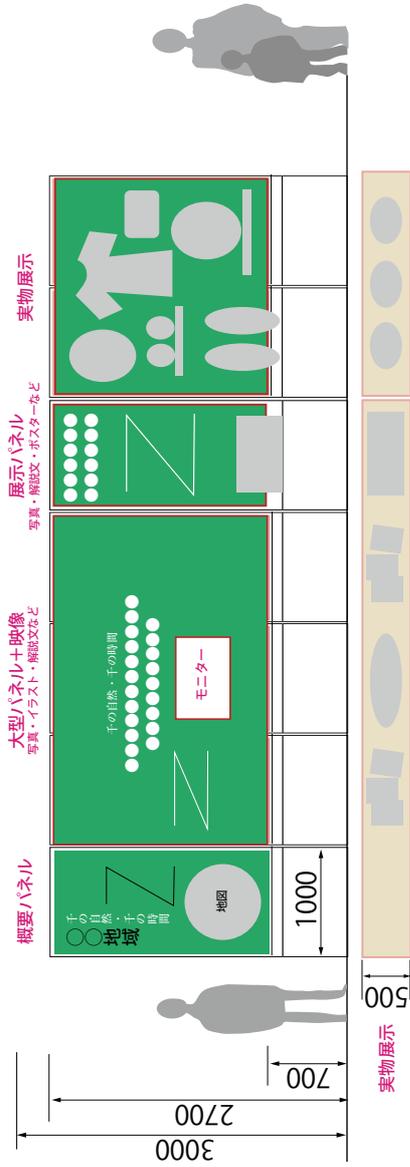


展示パネル+展示台上自由にレイアウト (テーマカラー上に自由にレイアウト (テーマカラーは追ってご提案します)
 連続するパネルの枚数を自由にレイアウトできます。原稿は各地域と相談しながら作成。(奄美・沖縄地域は、概要パネル1・紹介パネル5で構成)

A 案・例①

- ・概要パネル (共通)
- ・大型パネル+映像：3
- ・展示パネル：1
- ・実物展示パネル：2

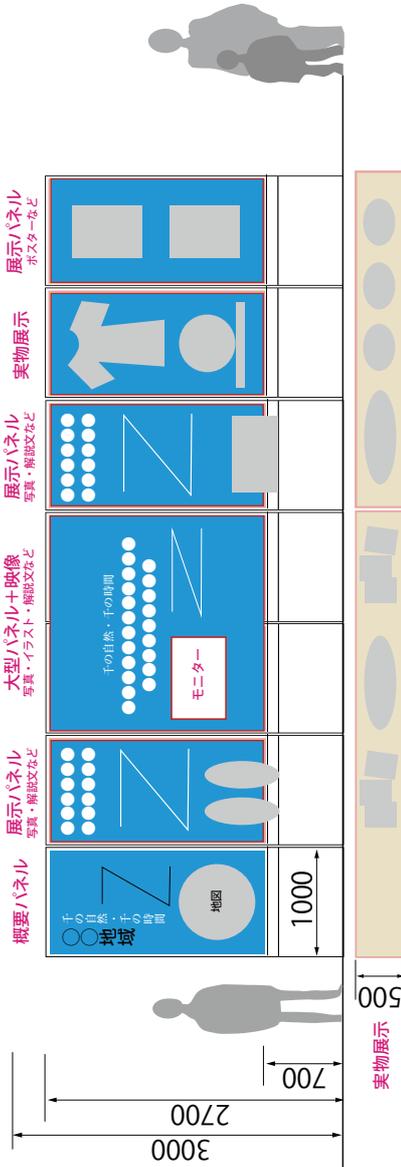
※展示パネルにはポスター等の持ち込み
 展示も可能



A 案・例②

- ・概要パネル (共通)
- ・大型パネル+映像：3
- ・展示パネル：2
- ・実物展示パネル：1

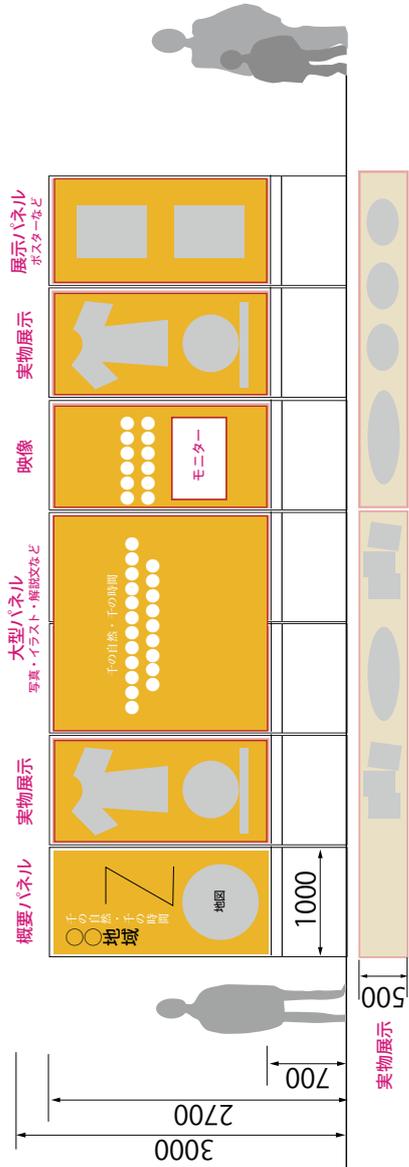
※展示パネルにはポスター等の持ち込み
 展示も可能



A 案・例③

- ・概要パネル (共通)
- ・大型パネル：2
- ・映像：1
- ・グラフィック：1
- ・実物展示パネル：2

※展示パネルにはポスター等の持ち込み
 展示も可能

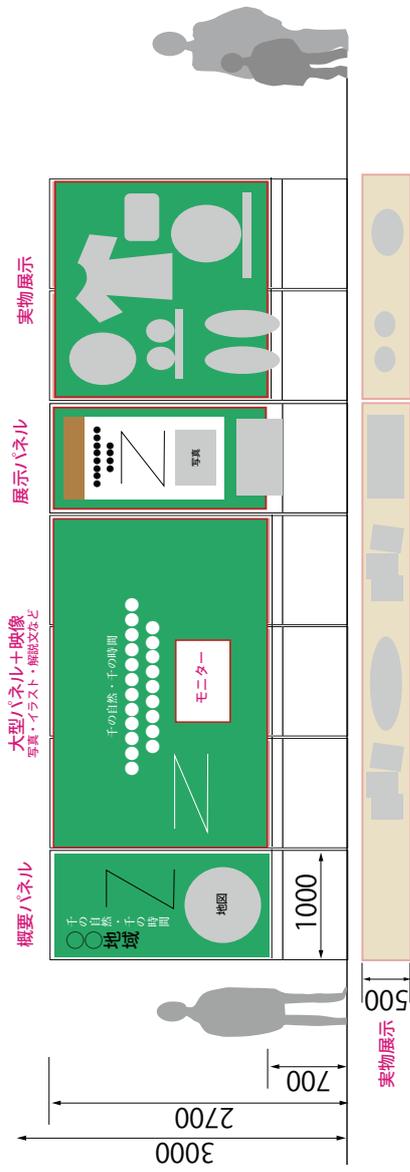


展示パネル+展示台の構成例：テーマカラー上にパターンを決めたグラフィックを配置する場合
 連続するパネルの枚数を自由にレイアウトできます。原稿は各地域と相談しながら作成。（奄美・沖縄地域は、概要パネル1・紹介パネル5で構成）

B 案・例①

- ・概要パネル（共通）
- ・大型パネル+映像：3
- ・展示パネル：1
- ・実物展示：2

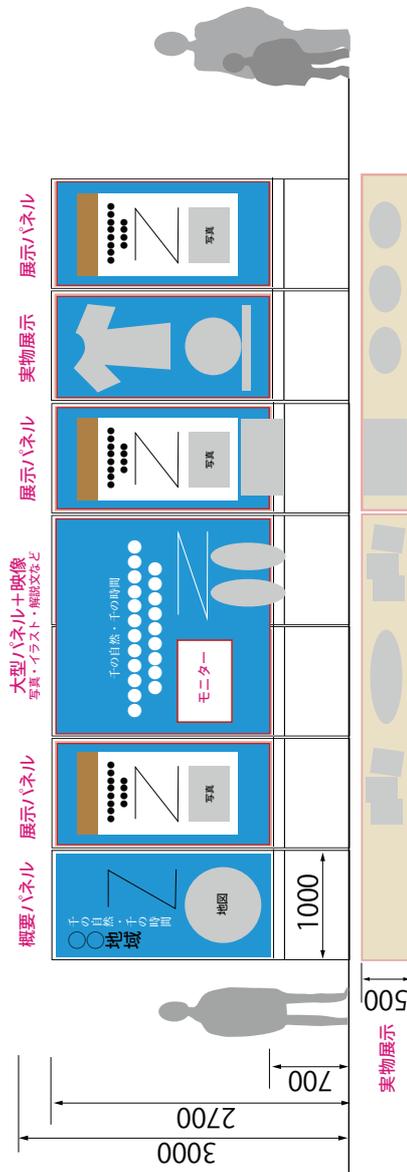
※展示パネルは布製タペストリーを想定
 ポスター等の持ち込み展示も可能



B 案・例②

- ・概要パネル（共通）
- ・大型パネル+映像：2
- ・展示パネル：3
- ・実物展示：1

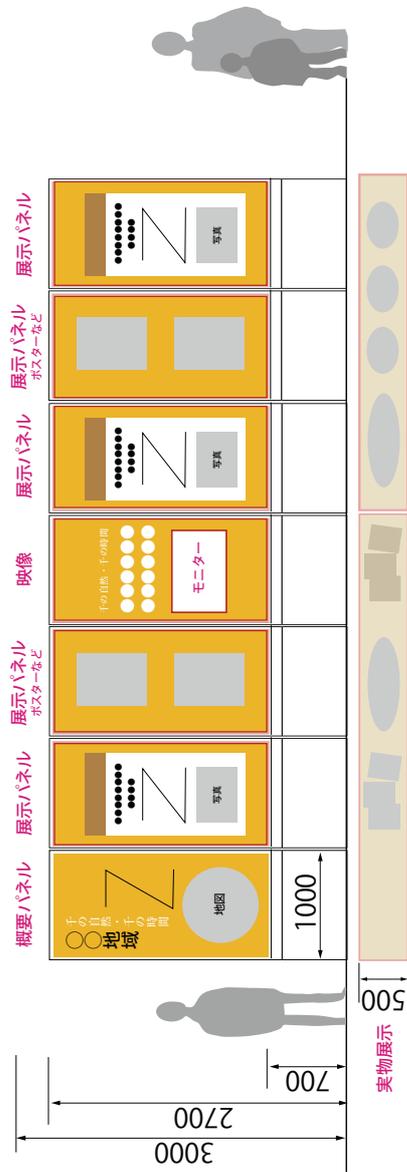
※展示パネルは布製タペストリーを想定
 ポスター等の持ち込み展示も可能



B 案・例③

- ・概要パネル（共通）
- ・展示パネル：5
- ・映像：1

※展示パネルは布製タペストリーを想定
 ポスター等の持ち込み展示も可能

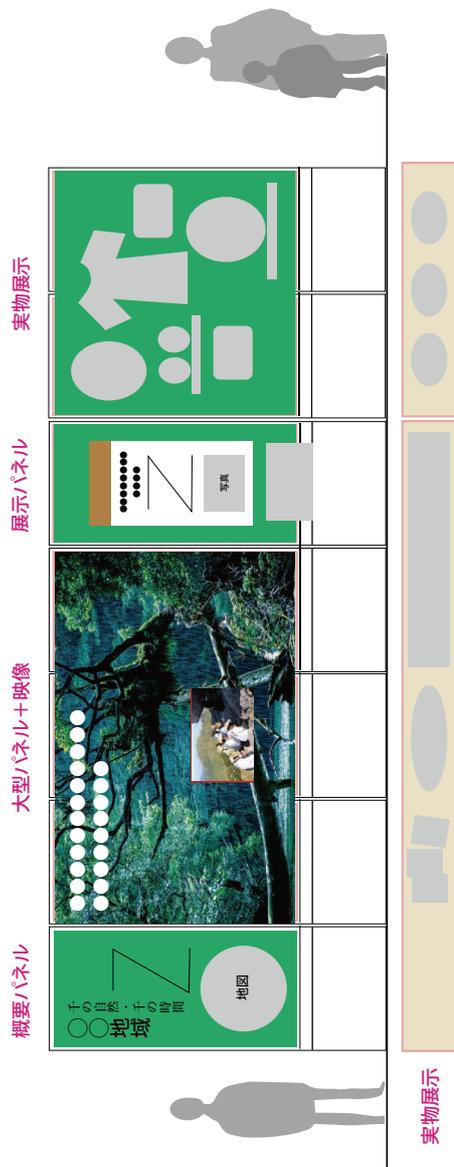


展示パネルイメージ

B 案・例①の場合

- ・概要パネル（共通）
- ・大型パネル+映像：3
- ・展示パネル：1
- ・実物展示パネル：2

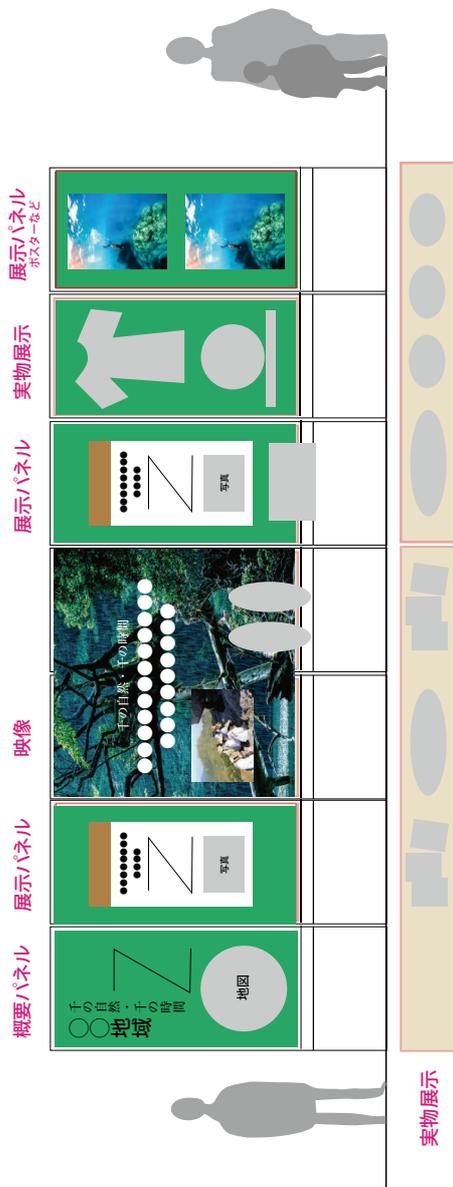
※展示パネルは布製タペストリーを想定
ポスター等の持ち込み展示も可能



B 案・例②の場合

- ・概要パネル（共通）
- ・大型パネル+映像：3
- ・展示パネル：2
- ・実物展示パネル：1

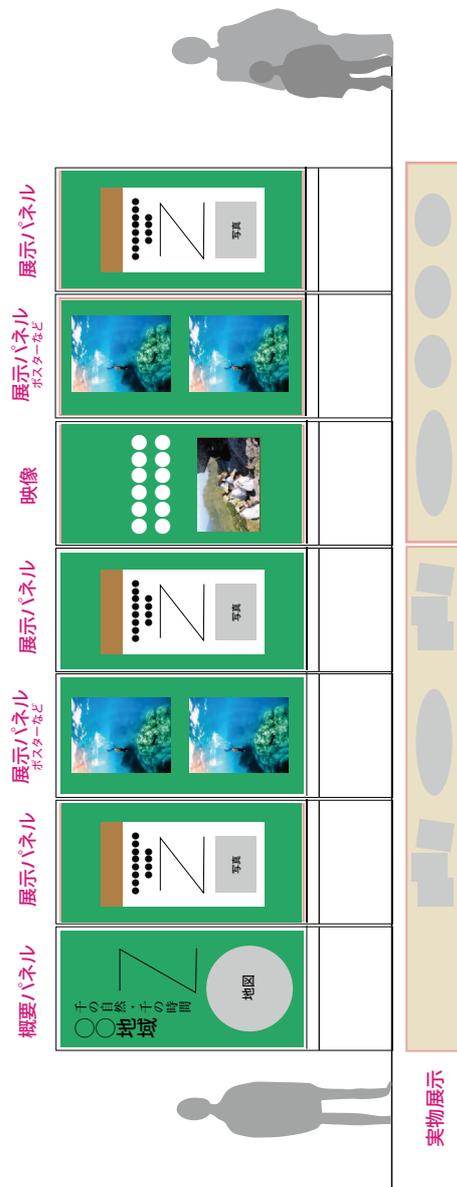
※展示パネルは布製タペストリーを想定
ポスター等の持ち込み展示も可能



B 案・例③の場合

- ・概要パネル（共通）
- ・展示パネル：5
- ・映像：1

※展示パネルは布製タペストリーを想定
ポスター等の持ち込み展示も可能



3) 事業化計画

事業費構成と役割分担

- ・万博参加の事業費は、制作推進関係に必要な準備段階の経費、当日の会場・ステージの運営・管理に係る経費から構成される。後者は、今回の場合、①5月6日のテーマウィークスタジオ、②6月5日 EXPO ホールでの催事に関するものがある。①の会場費等は、3グループで分担する。
- ・事業費の規模は、当然ながら事業内容によって変化するが、これらの必要資金の調達は、①5地域会議事務局・支援機関によるものと②参加会員によるものとに大別される。②の一部は、「地域負担金」として①と合わせて共同の事業予算に組み入れる。
- ・以下に整理した事業内容と予算規模、地域側（会員）の役割分担のあり方や負担額等については、会員へのアンケート、地域別の意見交換会を通じて合意形成を図ってきたものである（参考：今年度の取組の進捗）、「参考資料 参考2：アンケート関係資料」参照）。

事業費の構成

費用項目	細目	内容	金額	負担区分			摘要
				5地域	負担金	会員	
準備A	制作費	映像制作	舞台スクリーン用（放送局制作委託）、バナー・フロアー用	●			
		展示物	地域紹介パネルほか（5地域分）	●	●	●	
		印刷物	広報周知用印刷物、当日配布資料	●	●		
	諸経費	事業者委託分、広報費、会議費等を含む	●				
計A							
当日B1 (5/6)	会場費	施設、共益費ほか	スタジオ使用料（空調、管理人件費含む）当グループ分	●			
		人件費	講師等謝金	●			
		記録	記録	●			
	諸経費	進行管理・運営等事業者委託分を含む	●				
計B1							
当日B2 (6/5)	会場費	施設、共益費ほか	ホール・多目的室使用料（空調、管理人件費含む）	●			
		人件費	講師等謝金	●			
		特別出演者	特別出演者	●	●		
		地域出演者	出演者（地域紹介、郷土芸能等）			●	
		地域参加者	首長、随行者、一般参加者旅費			●	
		オペレータ等	舞台監督、照明、音響、記録	●			
		進行管理・案内誘導等	設営作業、進行連絡、案内・誘導、会場整理、警備	●	●		
	設営費	展示台・吊看板・仕切り板作成・取付			●		
諸経費	通信・運搬等諸雑費、進行管理・運営等事業者委託分を含む	●	●				
計B2							
合計	A+B1+B2						

地域参加と役割分担・費用負担要旨（案）

演目等		5地域会議事務局・支援機関	会員市町村
役割分担に関する全体の考え方		<ul style="list-style-type: none"> ・催事企画、調整、事前準備 ・会場借上げ、会場設営全般 ・広報、集客活動 ・来場者誘導、会場整理、進行管理等運営全般 ・配信、記録 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域負担金拠出（参加の基本料金）*1 ●首長、随行、スタッフその他参加のための旅費負担 ・地域が主導する出演・出展とその費用負担（下欄参照） ・集客への協力（関西在住出身者への参加声掛けなど）
5/6 プログラム	トークセッション	<ul style="list-style-type: none"> ・他グループとの調整、企画 ・出演有識者への謝礼等支払い 	●地域代表（首長等／一部市町村に限定）の登壇、プレゼンとその旅費負担
	クロストーク	<ul style="list-style-type: none"> ・出演有識者への謝礼等支払い 	
6/5 プログラム	子供作文コンクール	<ul style="list-style-type: none"> ・募集要項の原型作成 ・選考委員会の設置、市町村代表の中から各地域の代表作品の選出 ・副賞（代表作品作者万博招待、記念品）提供 	・子供作文の募集、応募受付、市町村代表作品の選出
	地域紹介2-1	<ul style="list-style-type: none"> ・映像制作、上映（協力：TBS、MBC） 	
	地域紹介2-2	<ul style="list-style-type: none"> ・地域別基本映像制作、上映（協力：TBS、MBC） 	<ul style="list-style-type: none"> ●進行、解説者（推薦、地域として派遣）への謝礼等支払い ・地域紹介用映像提供（必要に応じ）
	地域紹介2-3	<ul style="list-style-type: none"> ・演者等との折衝（必要に応じて） 	●芸能パフォーマー（推薦、地域としての派遣）への謝礼等支払い
	国際シンポジウム	<ul style="list-style-type: none"> ・企画、講師等との折衝 ・講師旅費・謝金 ・運営全般 	
	クロージング	<ul style="list-style-type: none"> ・宣言のたたき台作成（研究会運営） 	・首長、地域からの参加者の登壇、発言
6/5 展示（多目的室利用）	<ul style="list-style-type: none"> ・展示会場と装置（Vモニター等）設営 ・壁面パネル企画・制作 	<ul style="list-style-type: none"> ・壁面パネル作成への協力 ●展示物（ポスター、チラシ、物産等、映像ソフト）の作成（必要に応じ） ・搬入 ・観光案内等のスタッフ張りつけ 	
6/5 当日の施設・催事運営	<ul style="list-style-type: none"> ・博覧会協会による管理の下で、運営全般（大半はイベント会社に委託して実施） 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場整理、案内等への地元スタッフによる協力 ・地域からオンライン参加がある場合のサポート 	

注 ●：予算計上が必要な経費項目

*1_説明と金額案は別紙参照

世界自然遺産5地域会議／万博参加
地域負担金の各市町村への配分案

地域負担金は、万博参加の基本料金に相当。金額は地域からの出演や出展に不可欠な共通経費項目の積上げで算出した数字。予算構造としては全体の予算があってその一部を負担金で賄う形。

(単位=万円)

遺産地域名	都道県名	市町村名 注1	均等割り 注2	7地域割り 注3	事務局案 注4	
1	知床	北海道	1 斜里町	25	80 (=各40×2)	80
			3 羅臼町	25		
2	白神	青森県	4 鱒ヶ沢町	25	80×2=160 (=各23×7)	160
			5 深浦町	25		
			6 西目屋村	25		
			7 弘前市	25		
		秋田県	8 藤里町	25		
			9 八峰町	25		
3	小笠原諸島	東京都	11 小笠原村	25	80	80
			12 屋久島町	25	80	80
5	奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島	鹿児島県	14 奄美市	25	80 (=各10×8)	80
			15 大和村	25		
			16 宇検村	25		
			17 龍郷町	25		
			18 瀬戸内町	25		
			19 徳之島町	25		
			20 天城町	25		
			21 伊仙町	25		
		沖縄県	22 国頭村	25	80 (=各20×4)	80
			23 大宜味村	25		
			24 東村	25		
25 竹富町	25					
合計	5	7	23	575	560	560

注1：5地域会議会員のうち、公益財団法人は除外。

注2：合計560万円を目安に、23市町村で均等割りしたときの各市町村の金額。

注3：560万円を7地域で均等割り（ただし白神山地は2県分合計で1地域とし、地域区分としては全6地域）。地域内を均等割りとしたときの各市町村の金額も示した。7地域割りとは、5地域を県別に分け、1地域内町村数多少による差をならす考え方。

注4：事務局案の考え方は「7地域均等割り」を基本とする。（ステージの時間配分や展示のスペース配分等は5ないし6地域で区分することを原則としているため）地域内での市町村配分は、各地域内で協議の上決めていただくものとした。

<参考> 今年度の取組の進捗

2024 年度 5 地域会議万博参加関係事業経緯

241108 現在

	5 地域会議実施事項等	博覧会協会とのやり取り
2023 年度	<p>◆テーマウィーク (TW) 催事について「共創チャレンジ」2 団体とプログラム内容について協議</p> <p>◆12/31/大催事場 (EXPO ホール) を利用した一般参加催事企画提案に応募</p> <p>◆1/17 第 2 回 5 地域会議開催</p> <p>大阪・関西万博に参加することを決定</p> <p>◆第 2 回 5 地域会議記録を全会員に送付</p>	<p>◆10 月/共創チャレンジとしてテーマウィーク (TW) 催事枠での参加決定 (会場: TW スタジオ・開催日: 2025/5/6)</p>
2024 年度	<p>◆5/9 全会員向けに採用内定通知と参加意向照会予定について連絡</p> <p>ー企画素案 (イメージ) 作成</p> <p>◆6/8 コアメンバー会議立ち上げ予定の連絡と参加者推薦依頼 (対幹事団体)</p> <p>◆7/2 コアメンバー会議 (=実質幹事会) 開催、万博参加企画・実施方針案について協議</p> <p>◆7/11 全会員向けにコアメンバー会議記録と企画素案に基づく本申し込みの確認依頼の連絡</p>	<p>◆4/31 博覧会協会より採用内定通知 (開催日 2025/6/5)</p> <p>◆6/6 博覧会協会より「施設利用ガイド」(EXPO ホール)</p>
	<p>◆7/28 コアメンバー会議 (=幹事会) 団体へのアンケート票案・事業費概算 (試算) の送付・意見照会 (~8/2) →意見集約し調査票を修正</p> <p>◆8/5 全会員向けに万博参加アンケート発出 (~8/30 〆切)</p> <p><アンケート添付用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・概算事業費 (考え方・別表) ・事業概要、企画書 <p>◆9/5 イベント学会企画委員会:5/6 の TW スタジオイベントについて調整</p>	<p>◆8/1 博覧会協会「イベント管理システム」稼働開始</p> <p>◆8/23「公開情報」登録 (随時変更可能)</p> <p>◆9/13 正式参加申込書提出</p>
	<p>◆9/17~11/8 アンケート結果に基づく補足説明と意見交換の会 (地域別に実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ー知床町村・財団 10/3、10/11、11/8 ー白神市町村 9/17、10/16、10/31 ー小笠原村 10/8、11/1 ー屋久島町 10/8、11/1 ー奄美・徳之島市町村 9/26、11/6 (島別協議: 奄美 10/3、徳之島 10/18) ー竹富町 9/19、東村 9/26、国頭村 9/30 ーやんばる 3 村 10/31 	<p>◆10/29 博覧会協会より「施設利用ガイド (改定版)」</p>

「大阪・関西万博の参加事業企画案と意向等に関するアンケート」結果の概要

■調査概要

- ・調査対象 : 世界自然遺産5地域協議会員 24 団体（屋久島環境文化財団を除く）の実務担当者
- ・調査実施時期 : 2024 年 8 月 5 日～8 月 30 日
- ・調査方法 : E メールにより調査票・関係資料を送付し、E メールにより回収
- ・回収状況 : 23 件／24 件

※回答状況を受けて作成した、別紙「アンケート項目に関する補足説明」（資料1-2）も参照

●万博への参加、事業内容について

- ・参加企画の概要（使用施設や日時、プログラム・展示の大枠の素案、事業費概算（試算））を示し、意向を聞いたところ以下のような結果となった。
- ・参加意向（Q1）として、一部に「むずかしい」との回答。理由は経費負担のほか、遺産地域との関わりが少なく庁内合意が困難、地域として観光誘客に慎重なため、など。

参加意向（Q1）



- ・事業全体の内容や期待する効果（Q3/複数回答）については、地域の人々の意識面の効果、地域経済活性化とのつながりを求める声が多い。

事業全体の内容や期待する効果（Q3）



●概算事業費について

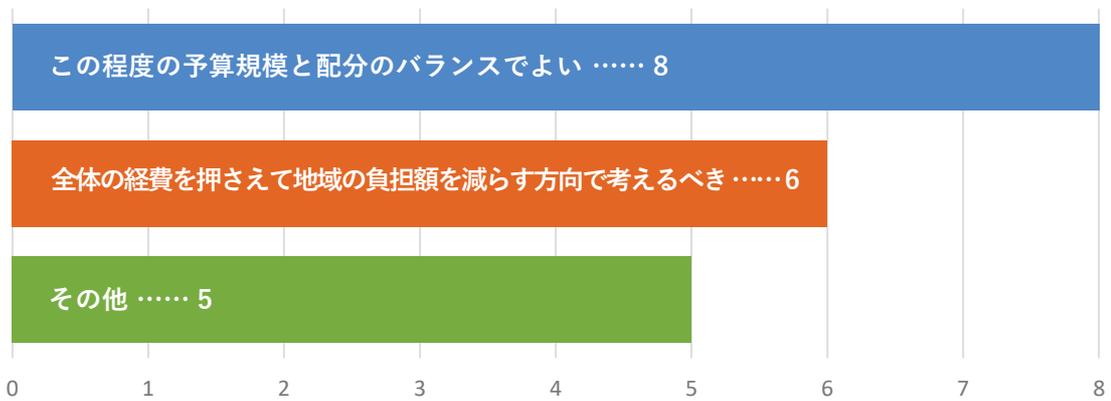
- ・案、試算として示した全体事業費とその構成（Q4/複数回答）については、評価が分かるとともに、「その他」の自由記述意見が多かった。

全体事業費とその構成 (Q4)



- ・ 総額と地域の負担の関係 (Q5) は、地域の負担額を減らすことを求める意見が多い。

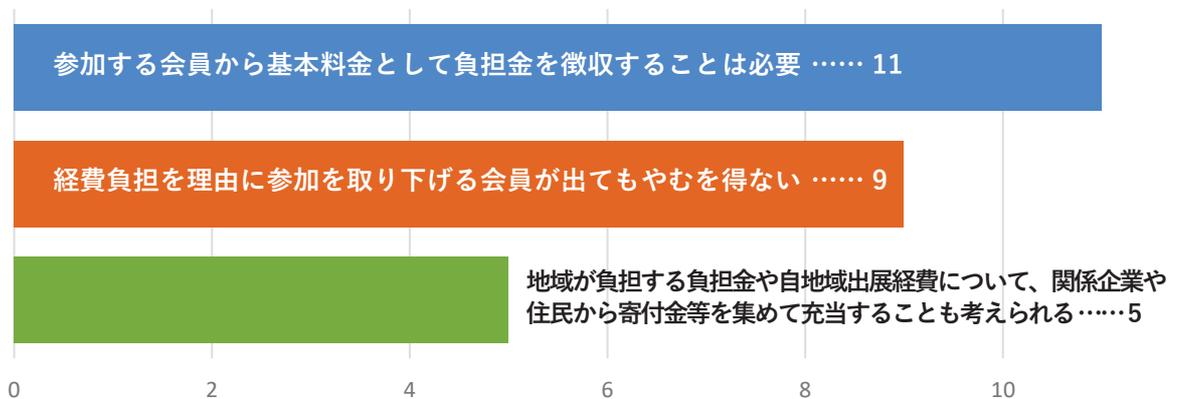
総額と地域の負担の関係 (Q5)



● 地域としての参加のあり方について

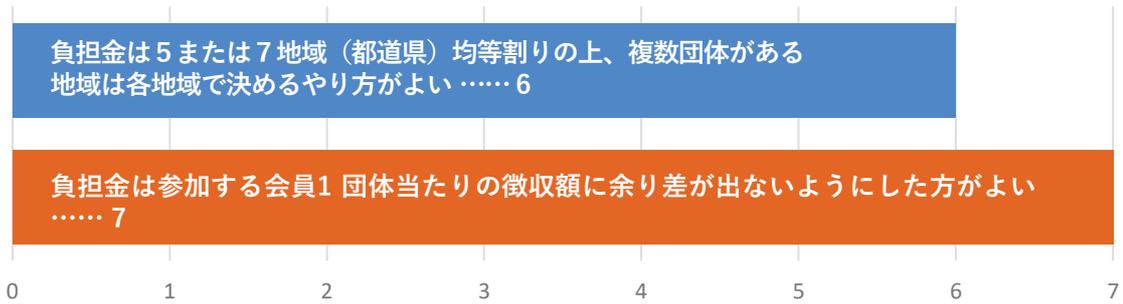
- ・ 「そう思う」かどうか (Q6) を聞いて、「そう思う」が多かった主な項目は以下のとおり。

地域としての参加のありかたで「そう思う」項目 (Q6)



- ・仮に負担金を徴収する場合の負担のし方としては、2つの意見が拮抗している。

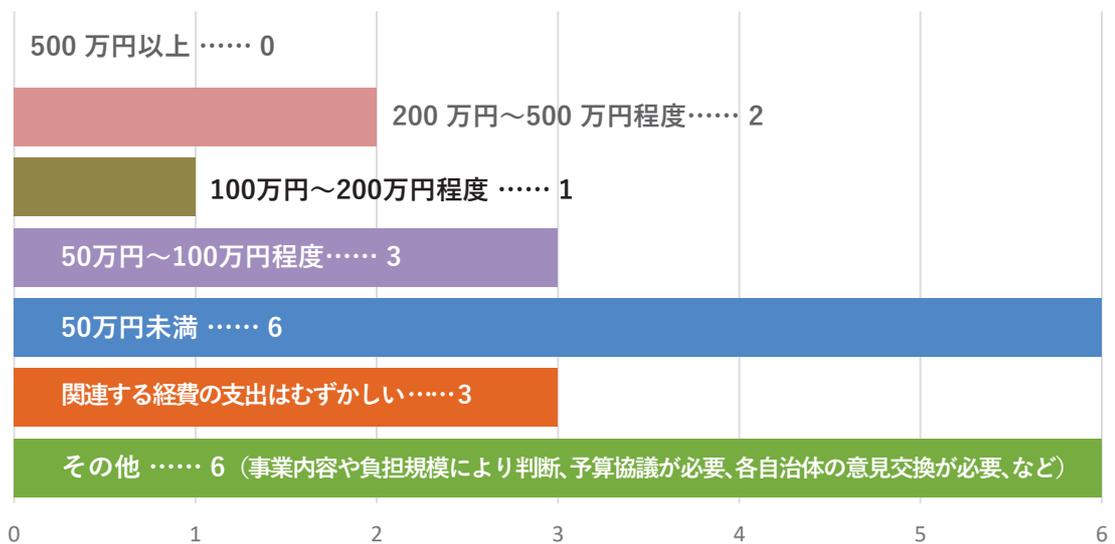
負担金を徴収する場合の負担のし方で「そう思う」項目 (Q6)



参加に伴う地域の負担額について

- ・拠出が可能な「地域負担金」「自地域出展事業分経費」の合計額 (Q7) は分散。

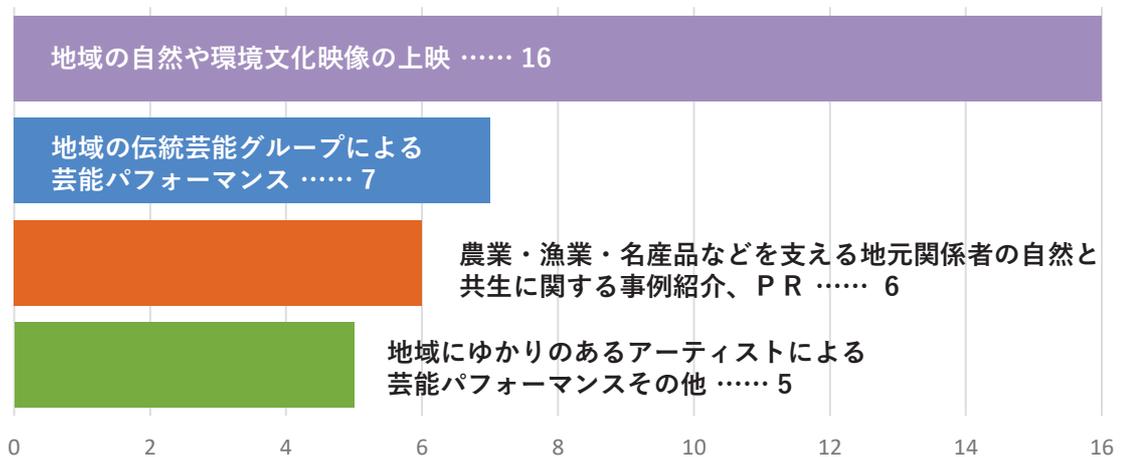
拠出が可能な「地域負担金」「自地域出展事業分経費」の合計額 (Q7)



● 地域自ら出場・出展する (EXPO ホール催事を想定) 場合の希望する事業内容等について

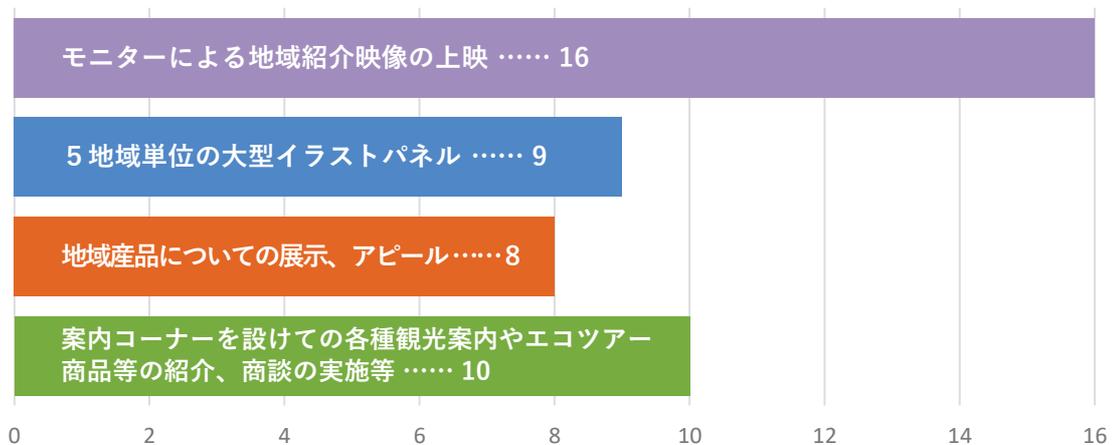
- ・ステージ上の地域紹介枠で重視したいこと (Q8-1/3 項目以内)

ステージ上の地域紹介枠で重視したいこと (Q8-1)



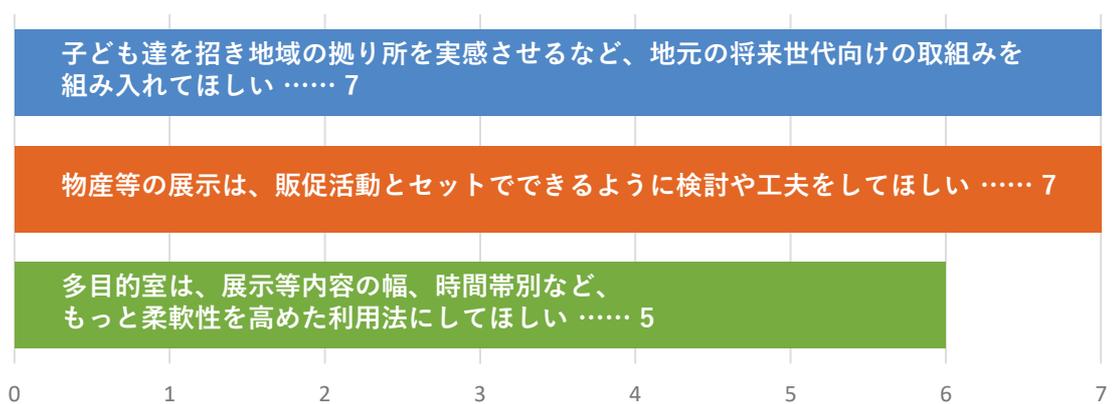
- ・多目的室の利用（展示・案内・商談等）で重視すること（Q9-1/3 項目以内）

多目的室の利用（展示・案内・商談等）で重視すること（Q9-1）



- 地域に関連する事業の規模や内容（Q10/複数回答）について
- ・提示した企画案になかった、いくつかの項目に希望が寄せられた。

地域に関連する事業の規模や内容（Q10）



大阪・関西万博参加アンケート項目に関する補足説明

(アンケート回答+その後の状況変化を受けて)

項目	問題指摘等が含まれる回答例 (一部要約)	補足説明
万博への参加意向 (Q1)	<ul style="list-style-type: none"> ●地理的条件等から世界遺産と当自治体との関わりが少なくアピールできることが少ない。そうした中で負担金が生じると市内の合意形成のハードルが高くなり、参加はむずかしい(地域としての万博参加の趣旨には賛同)。 ●地域としての万博参加については賛同だが、単独で地域を活かした事業の展開は、難しいと感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆世界遺産登録地との関わりに直接関係なくても自治体の取組をアピールしていただくことは構わないと考えますし、周辺市町村や団体とともに地域の紹介ができるよう各地域でご検討いただくのもよいと考えます。 <p>※経費負担については下記参照</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ●世界自然遺産5地域会議の事業に、市町村ではなく別団体としての参加は可能なのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆別団体の性格にもよりますが構成員が重なっている団体であれば、融通可能と考えます。地域内での調整にお任せします。
	<ul style="list-style-type: none"> ●観光管理に様々取り組んでいるところであり、地域の意向としても遺産を活用した誘客に繋がる話に対しては慎重な部分が多いことから、経費負担も困難であり、本町としての参加は控えさせていただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆本催事の趣旨は観光誘致というより、保全と人々の暮らしの両立に向けた地域独自の工夫に価値があることを国内外にアピールし、支援への契機ともしていくことにあります。むしろ貴町の積極的なご参加と発表を期待します。
全体事業費とその構成について (Q4、Q13)	<ul style="list-style-type: none"> ●製作費、広報費等予算額が大きくなっているが、専門的な経費で妥当性を判断しかねる。 ●概算としては妥当かと思われるが、当日の人件費(設営作業等)はもう少しかかるのでは ●世界自然遺産地域のPRという目的を達成しつつ、経費削減を図るよう取り組んでほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ◆アンケート資料の概算事業費は一つの日安として示したものであり、会員各位の意見を伺い、また内容に応じて精査しながら変更していくという性格のものと考えていただきたい。
	<ul style="list-style-type: none"> ●5地域会議発足時、会合開催費用について関係機関から支援を受けているとの説明があった以降、地域側の負担についてこれまで説明を受けておらず、今回多額の事業費の概算が示され、困惑している。 ●寄付金・協賛金の用途が立たなかった場合には、地域の負担額が増えることになるのではないかと懸念。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆万博参加での地域側の負担については、第2回5地域会議で説明、「負担金」については、7月のコアメンバー会議で参加の基本料金として提案したものです。(下欄参照) ◆収入面では、これまで5地域会議事業をサポートしてきた地球産業文化研究所(GISPRI)が、共催団体として相当額の資金提供を行う用途が立っています。
(特に映像制作について)	<ul style="list-style-type: none"> ●映像やパネルは5/6と6/5しか使用しないのか。他の日は流せないのか。他行事での活用は可能なのか。 ●映像制作に大きな予算がついているが、本万博でのみ流すものとして製作するならば、全体の中でのウェイトが大きすぎると感じる。万博を機に制作したものが、5地域でその後活用されるのであれば賛成だが、万博で消化して終了するものに大きな予算を投入することには、違和感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆映像は著作権の問題等クリアすべき問題がありますが、万博以降、どの地域でも他の遺産地域の映像が見られるといった使い方ができることを前提に制作する予定です。 ◆映像制作費に計上したかなりの部分は、協賛予定団体が出資して制作し万博時に提供を受けることを想定した予算が含まれ、見かけ上膨らんでいる面もあります。

<p>地域負担金について (Q5、6、7)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 寄付金・協賛金の目途が立たなかったケースを懸念。各自治体での予算要求を考慮すると、寄付金・負担金を最低限で見積り、地域負担金を多く計上しておく方が良いのではないか。 ● 来年度、周年事業を控えていることもあり、万博参加は、首長・担当職員の出張旅費については検討の余地はあるが、負担金の支出は厳しいと考える。 ● 負担金は難しいと思われるが、事業内容や負担規模により判断したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 地域負担金額は、各地域共通で使用する印刷物や展示物制作費、会場設営費、呼び物になる出演者の出演料など共通の経費を積み上げた結果であり、これ自体は一定額に固定されるものと考えます。 ◆ この金額を総額約560万円と試算。 ◆ 仮にこれを7つの都道県で均等割すると1地域当たり約80万円の負担額となります。中での各会員への配分は、各地域で協議いただきたい、というのが事務局の考え方です。ただし地域別に市町村数の差があり調整も必要と考えられます。
<p>事業の効果について(Q8)</p>	<p>経済活性化のつながり 効果①</p> <ul style="list-style-type: none"> ● せっかくの5地域が集まる機会でもあり、イベント会場以外で関西圏の旅行エージェント×世界自然遺産5地域とのマッチング商談会などが欲しい。可能であればその別会場で今後5地域が関西で合同PRする端緒となる、5地域物産フェアなどを展開できないか。2日間程度のイメージ。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 会場内では商行為は難しいとされ、「多目的室」内でも可能なのは観光案内や物産展示までと考えています。提案のように会場外での催しが連携して行われるのは望ましいことですが、5地域会議が主導して開催するのは困難と考えています。
	<ul style="list-style-type: none"> ● EXPO催事は集客が見込めるのか。地域が負担しただけの効果が見込めるのか。 ● EXPO催事は会場キャパが1900人だが、どれだけの集客を考えているのかお示しいただきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広報と集客については今後計画、実施していく予定ですが、6/5使用するホールは万博のメイン会場であり、まずは万博そのものの集客効果(十数万人/日)が大きいのと考えています。
<p>地域の人々 効果②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 子ども達を招き地域の拠り所を実感させるなど、地元の将来世代向けの取組みを組み入れてほしい(Q10. 選択肢4。最多数回答) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 会員各位の協力のもと、子ども達を主体にしたプログラムも、検討したいと考えています。詳細は資料■参照。
<p>その他の質問・意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 会場または別会場で、今後想定される生態系クレジットについての講演と企業担当者との意見交換会などはできないでしょうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 提案として受け止め検討してみたいと思います。
	<ul style="list-style-type: none"> ● 万博以降5地域会議の方向性を明確に差し示すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 仰るとおりであり、万博参加は5地域会議の一つのチャンスと捉え、今後とも当初設定した目的に沿って5地域会議の運営を進めて参りたいと考えています。会員としての積極的なご提案もお待ちしています。

運営上の検討課題

EXPOホール運営上のルール、対応方針案

資料 2-3-②

ユニバーサル対応

- ・国、地域、文化、人種、性別、世代、障がいの有無などに関わらず誰でも利用できるように配慮を行う。

多言語対応

- ・サインやデジタルサイネージは日本語・英語が必須。来場者向けのパンフレットなどの印刷物の表記は、日本語・英語を推奨。映像などに字幕がある場合は、日本語・英語の併記に努める。
- ・各種アナウンスは、日本語・英語でのアナウンスが必須。アナウンスでの二言語対応ができない場合は、スクリーンなどに字幕を放映するなどの対応も可。
- ・展示物などの主だった説明文やキャプションなどは日本語・英語が必須。

予約システム・物販等

- ・**(方針案→)** 予約システム(予約制度)は導入しない。
物販・飲食提供は、保健所届出、すべてキャッシュレス化などの制約があり、実施しないこととする。
- ・**試飲、試食提供**は屋外テントのみで可能。出展する会員の責任で行うこととし、保険料の負担やゴミ処理、保健所の確認は自身で行うこと等を前提として実施者を募集する。

その他

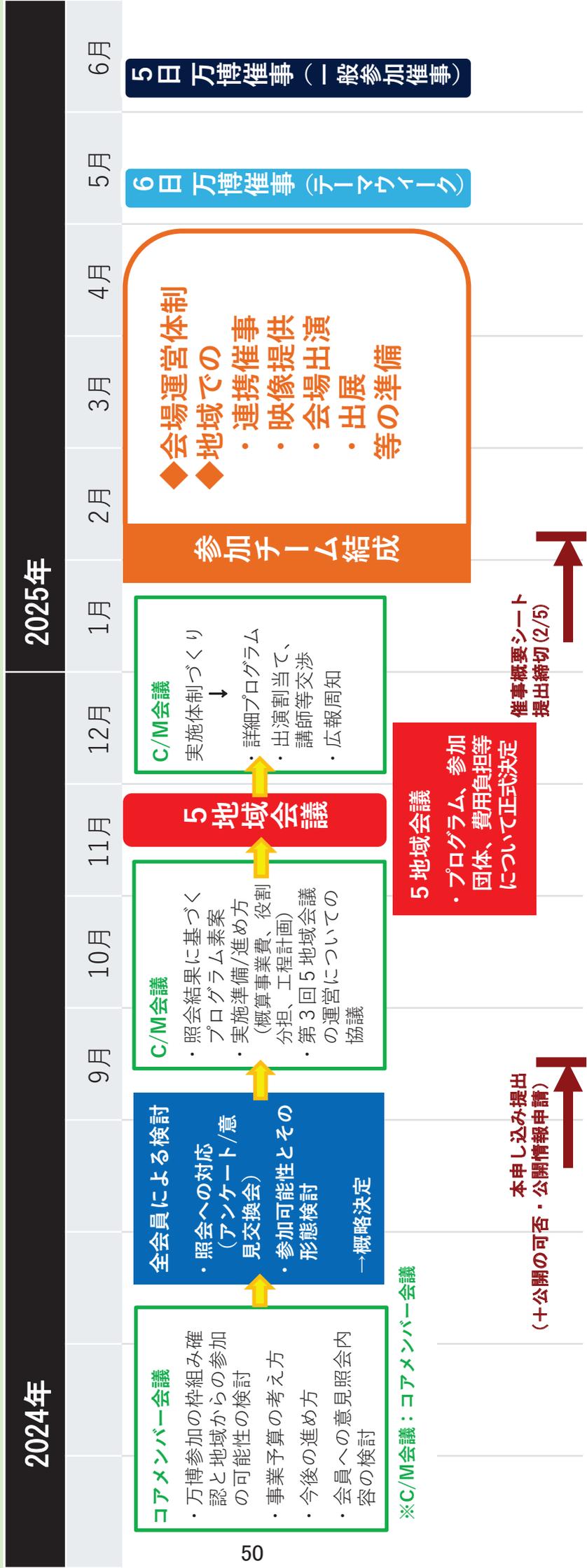
- ・催事主催者及び催事にまつわる関係スポンサーのロゴや企業名の掲示が可能(具体的な掲出可能場所、掲出サイズについては調整中)
- ・「財産(火災)保険」や「動産総合保険」など、各種指定の保険に加入することが義務づけられている
- ・催事主催者(関係者・出演者含む)が万博会場に入退場する際には「関係者入場証(AD証)」が必須。その申請には個人情報登録が必要
- ・EXPOホールへの事前の郵送物や宅配物の直送およびEXPOホールから宅配物を直接発送することはできない。万博会場内からの郵送物や宅配物の発送方法については調整中

催事当日の施設運営業務分担（案）

	5 地域会議		博覧会協会	備考
	事務局	各会員		
ステージ管理	○ (舞台監督を留意)	×	○ (各種設備・機材管理、オペレーション)	特殊機材使用の場合、オペレーションは主催者責任 ▶ 委託する
① 来場者整理・入場口管理	○ (委託)	△	△ 業務指導のみ	EXPOホール前広場の業務案内、プログラム配布、関係者受け付け
② 誘導・案内	○ (全体管理)	○ (多目的室での展示物案内含む)	△ 業務指導のみ	会場内業務 各会員団体ごとに1～2名のご協力を依頼
③ 警備業務	○ (施設前、ステージ前、客席巡回)(委託)	△	○ (業務指導、バックヤード入退場管理、関係者施設の入退場管理)	
④ 招待者対応	○	×	×	
そのほか	インフォメーション運営 (ホール前広場)(委託)	× 展示物の用意・製作	× 来場者の万博会場情報に関する問い合わせ対応	試験・試食を行う場合は、会員団体が各自で用意する

万博参加に至るスケジュール (案)

5地域会議会員による企画・検討・体制づくり・実施準備



「世界自然遺産 5 地域会議」規約

(名称)

第1条 本会の名称は、世界自然遺産 5 地域会議（以下「本会」という。）とする。

(目的)

第2条 本会は、世界自然遺産地域間の連携によって、日本の自然遺産の価値と日本型自然保護システムを国内外に発信するとともに、共通の地域課題解決に取り組み、各地域の持続的発展を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 本会は、世界自然遺産地域に係る次の者で組織する。

- (1) 世界自然遺産地域または周辺地域の関係市町村の長
- (2) 世界自然遺産地域または周辺地域を活動領域とする民間企業、活動団体、関係機関
- (3) その他、本会の目的に賛同する団体、個人

(事業)

第4条 本会は、第2条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 2025 日本国際博覧会 TEAM EXPO 2025 への参画並びにその事業内容、提言の検討
- (2) 世界自然遺産地域の共通課題や注目すべき先進的事例についての情報交換、合意形成
- (3) 自然保護に係る「共生」＝「環境文化」理念の深化並びに保護と振興を両立させるモデルの提示
- (4) 世界自然遺産 5 地域としての提言のとりまとめ
- (5) その他、目的達成に必要な事業

(役員)

第5条 本会に代表、副代表及び幹事を置く。

- 2 代表、副代表、幹事は、関係市町村の長等の互選により定める。
- 3 代表は、本会を代表し、会務を総理する。
- 4 副代表は、代表を補佐し、代表に事故あるときは、その職務を代行する。
- 5 幹事は、幹事会において、本会会議の議案及び本会の運営について審議する。

(顧問等)

第6条 本会に顧問、アドバイザーを置くことができる。

- 2 顧問は、世界自然遺産に知見を有する有識者から選任する。
- 3 必要があると認めるときは、関係行政機関にアドバイザーへの就任を依頼する。

(事務局)

第7条 本会の事務局は、公益財団法人屋久島環境文化財団に置く。

(会議)

第8条 本会の会議は、必要に応じて代表が召集し、その議長となる。

- 2 本会は、必要があると認めるときは、会議に関係者その他の出席を求めることができる。

(雑則)

第9条 この規約に定めるもののほか、本会に関し必要な事項は、代表が会議に諮って定める。

(付則)

この規約は、令和 5（2023）年 1 月 18 日から施行する。

令和 6 年 8 月

「大阪・関西万博の参加事業企画案と意向等に関するアンケート」協力をお願い

世界自然遺産 5 地域会議 事務局

「世界自然遺産 5 地域会議」（以下「5 地域会議」という。）では、本年 1 月 17 日に京都で開催した第 2 回 5 地域会議において、2025 年大阪・関西万博に 5 地域会議として参加し、各地域の自然環境・景観やそれと関わる人々の営み、行政施策などを紹介し、各地域の PR と国等による関連施策強化アピールの場ともしていくことについて、協議を行ったところです。

万博会場の施設利用については、「テーマウィークスタジオ」と呼ばれる小会場（2025 年 5 月 6 日（火）使用）、万博のメイン会場の一つである大催事場（EXPO ホール）（同 6 月 5 日（木）使用）が内定しています。5 地域会議事務局では、これを国内外への情報発信の好機と捉え、会員各位がこぞって参加できるよう催事の企画を検討してきました。

こうした経緯を踏まえ参加準備を具体的に進めるため、当会議幹事を中心とする「万博参加コアメンバー会議」を立ち上げ、第 1 回会合（7 月 2 日開催）では参加事業の概要、催事企画イメージ等に関する資料を基に意見交換を行いました。また、博覧会協会に参加の正式申し込みを行うため、先般、現段階での事業企画（素案）にそって参加することについて会員各位にご確認をいただいたところです。

その後、事務局において、意見・要望等を踏まえた事業企画（案）により、万博参加に係る事業費等の検討を行いました。これを基に改めて会員各位の参加意向をできる限り具体的に把握したいと考え、標記のアンケートを実施することとしました。結果は、本年 11 月 19 日に開催予定の第 3 回 5 地域会議において事業実施計画を策定するための基礎資料とするものです。

ついては、趣旨をご理解いただき、調査にご協力下さいますようお願いいたします。調査は、添付の資料を参照のうえで別紙アンケート票に所要事項をご記入いただくもので、回答結果は本年 8 月 30 日（金）までにご返信いただければ幸いです。どうぞよろしくお願い申し上げます。

添付 別 紙：「大阪・関西万博の参加事業企画案と意向等に関するアンケート」票

資料 1：5 地域会議万博参加事業の概要

資料 2：万博参加事業企画（案）

資料 3：事業費の概算（試算）について

※この件に関する問合せ等については、下記宛てをお願いいたします。

連絡先：（公財）屋久島環境文化財団／担当 事業課濱崎 TEL0997-42-2900 FAX0997-49-1018
5 地域会議事務局業務委託先 （株）メッツ研究所／担当 岡、引田 oka@mets-ri.co.jp
〒162-0805 東京都新宿区矢来町 126 NITTO ビル 5F
TEL03-5227-7802 FAX03-5227-7807

大阪・関西万博の参加事業企画案と意向等に関するアンケート

令和6年8月
世界自然遺産5地域会議事務局

会員団体名	
記入者部署・氏名	

【アンケートご回答にあたって】

- ・このアンケートは5地域会議の万博参加に関する計画づくりの参考にするため実施するものであり、回答結果をその他の目的に使用することはありません。
- ・添付の万博参加企画に関する資料は現状で確定したものではありません。一つのたたき台として参考にしながらご回答ください。
- ・質問文の指示に従いあてはまるものに○、または自由記述により回答をお願いします。
- ・回答期限は令和6年8月末日とし、発信したメール宛てにご返信ください。

■万博会場で使用できる施設や日時が確定し、資料1、2でプログラムの大枠、展示の素案を示していますが、これに関する貴団体としての全体的な評価や考え方についてお伺いします。[資料1、2参照]

Q1. 想定している会場の使い方やプログラム案を前提に、貴団体の参加意向（1つ選択）

1. ぜひ参加したい
2. 参加を前向きに検討したい
3. 近隣市町村など他の会員の意向を確認した上で、参加を検討したい
4. 参加はむずかしい
5. その他（ご記入ください： _____）

Q2. 5地域会議の催事として特にアピールすべき点について（3つ以内選択）

1. 日本の世界自然遺産の、多様で世界の他地域では見られない魅力
2. 世界遺産地域に見られる、日本の自然観や自然との共生の知恵
3. 個別地域の紹介（地域独自の自然と人との共生の歴史、環境文化、特産品等）
4. 遺産地域が共通してかかえている課題
5. 国民的参加のもとで、遺産地域を始め国土の多様な自然を後世に引き継いでいくこと
6. その他（ご記入ください： _____）

Q3. 事業全体の内容やもたらされる効果についての意向（複数選択可）

1. 自然の姿に加え、地域で活動している団体や事業者等が目に見える形で参加できるとよい
2. 観光客の増大や製品の販売促進など地域経済の活性化とのつながりが生まれるとよい
3. 地域の人々が世界自然遺産の価値を再認識し、誇りが感じられるような場にできるとよい
4. 2日だけに終わらせず、別会場を確保してでも一定期間継続する催事にしてほしい
5. 企画案の考え方で特に問題ない
6. その他（ご記入ください： _____）

■概算事業費と地域の関わりについてお伺いします。[資料3参照]

Q 4. 全体事業費とその構成についてのご感想・ご意見（複数選択選択可）

1. 総額が高過ぎると感じる
2. このぐらいの金額は妥当と感じる
3. 予算構成にゆとりがないように感じる
4. 事業項目間のバランスに難があるように感じる

（懸念点をご記入ください：）

5. その他（ご記入ください：）

Q 5. 事業費の総額と地域の負担の関係についてのご意見（1つ選択）

1. 全体の経費を抑えて地域の負担額を減らす方向で考えるべき
2. 全体の経費はやむを得ないとしても地域の負担額を減らす方法を考えるべき
3. 全体予算が増え、ある程度負担金が増えても、共同で行う事業部分の魅力アップを追求する方がよい
4. 共同事業部分の予算を減らしてでも、自地域出展事業の展示物制作やパフォーマンス・郷土芸能等にかかる予算のウェイトを高めた方がよい
5. この程度の予算規模と配分のバランスでよいと思う
6. その他（ご記入ください：）

Q 6. 地域としての参加のあり方（各項目について、貴団体がそう思う場合は○をつけてください）

- ・参加する会員から基本料金として負担金を徴収することは必要だ
- ・経費負担を理由に参加を取り下げる会員が出てはやむを得ない
- ・全員参加を原則として、やむを得ない事情のある会員について負担金を免除または補填する措置があってもよい
- ・費用負担できる額に応じて上演時間や出展スペースの割り振りが変わることはあってよい
- ・地域が負担する負担金や自地域出展経費について、関係企業や住民から寄付金等を集めて充当することも考えられる
- ・（仮に負担金を徴収する場合）負担金は5または7地域（都道県）均等割りの上、複数団体がある地域は各地域で決めるやり方がよい
- ・（仮に負担金を徴収する場合）負担金は参加する会員1団体当たりの徴収額に余り差が出ないようにした方がよい

Q 7. 万博参加に当たり拠出が可能な「地域負担金」「自地域出展事業分経費」の合計額（1つ選択）

1. 500万円以上
2. 200万円～500万円程度
3. 100万円～200万円程度
4. 50万円～100万円程度
5. 50万円未満
6. 関連する経費の支出はむしろ少ない
7. その他（ご記入ください：）

■地域自ら出場・出展する（EXPO ホール催事を想定）場合の希望する事業内容等についてお伺いします。
[資料2参照]

Q8-1. ステージ上の地域紹介枠で重視したいこと（3つ以内で選択）（参照：p10～11）

1. 地域の自然や環境文化映像の上映（→ Q9. へ）
2. 地域にゆかりのある著名人による地域紹介や体験談等（→ Q8-2. へ）
3. 地域にゆかりのあるアーティストによる芸能パフォーマンス（→ Q8-2. へ）
4. 地域の伝統芸能グループによる芸能パフォーマンス（→ Q8-2. へ）
5. 農業・漁業・名産品などを支える地元関係者の自然と共生に関する事例紹介、PR（→ Q8-2. へ）
6. その他（ご記入ください： _____）

Q8-2. ステージでのパフォーマンス等自地域出展事業として考えられる、具体的内容や出演・出場者・団体等の候補（自由記入）

※映像上映は共同事業として制作し、これについての意見は別途照会するものとします。

ご記入ください：

Q9-1. 多目的室の利用（展示・案内・商談等）で重視すること（3つ以内で選択）（参照：p13～15）

1. 5地域単位の大型イラストパネル
2. モニターによる地域紹介映像の上映
3. まちづくりや保全活動を紹介するポスター、リーフレット等
4. 地域産品についての展示、アピール
5. 案内コーナーを設けての各種観光案内やエコツアー商品等の紹介、商談の実施等
6. その他（ご記入ください： _____）

Q9-2. 多目的室での出展として特に実施したいこと（自由記入）

ご記入ください：

Q10. 地域に関連する事業の規模や内容についての意向（複数選択可）

1. プログラムとして、ステージ上での地域参加事業枠の時間をもっと増やしてほしい
2. 多目的室は、展示等内容の幅、時間帯別など、もっと柔軟性を高めた利用法にしてほしい
3. 物産等の展示は、販促活動とセットでできるように検討や工夫をしてほしい
4. 子ども達を招き地域の拠り所を実感させるなど、地元の将来世代向けの取組みを組み入れてほしい
5. その他（ご記入ください： _____）

■万博への参加を活用して、期日前後や会場外でできること、取り組むべきこと等についてお伺いします。

Q11. 万博参加に関連し、5地域として実施を検討すべきこと（複数選択可）

- 1. 企業等特別会員の加入と寄付金受入れの仕組みづくり
- 2. 各地域の自然保護と地域づくりに関する取組み事例調査の実施、とりまとめ
- 3. 万博会場周辺で独自の会場を確保し物産販売、商談会等で地域アピールを行う催しの企画
- 4. 世界自然遺産地域の持続的発展に資する国、県への施策提言の検討
- 5. 5地域会議の万博参加や万博でのアピール内容に関する、事前広報活動の展開
- 6. 万博開催結果を記録したVTRや出版物の作成、販売
- 7. その他（ご記入ください： _____）

Q12-1. 万博参加を活用し、時期を合わせて自地域内で実施可能な事業、また実施意向（1つ選択）

- 1. 時期的に合う年中行事等を活用し、連携して盛り上げたい（→ Q11-2. へ）
- 2. 令和7年度新たに万博に因む事業を企画することを検討したい（→ Q11-2. へ）
- 3. 実施は難しく、現時点で予定はない（→ Q12. へ）

Q12-2. 具体的に考えられるな地域イベントについて（自由記入）

- 催事名（ご記入ください： _____）
- 開催時期・期間（ご記入ください： _____）
- 開催場所（ご記入ください： _____）
- 催事の性格（ご記入ください： _____）
- 万博会場につないでアピールしたいこと
（ご記入ください： _____）

■全般的な意見、要望、提案等についてお伺いします。

Q13. 5地域としての万博参加全般について、どんなことでも結構ですのでご自由にご記入ください。

ご記入ください：

★調査へのご協力ありがとうございました。記入済の調査票は8月30日（金）までに返信くださるようお願いします。

5 地域会議の万博参加事業／事業費の概算（試算）について

■基本的考え方

- ・参加主体の参加意向を高めながら資金調達を図るための、目標設定型の試算を行う。
- ・企画の魅力、情報発信の内容を充実させ、各参加主体にメリットが感じられる質的レベルを保つために必要な経費を想定。
- ・地域や企業、有識者など多様な人々が参加し、多様な人々・団体が費用を負担する運営を想定。

→別表参照

■概算事業費積上げ（別表のタテ軸）について

- ・準備のための経費と当日経費とに大区分して積算。
- ・当日経費は、5/6（スタジオ使用）分と6/5（EXPO ホール使用）分とがある。
前者は比較的小規模、かつ3グループで使用、また後者と共通する資材の使用が考えられる。
- ・概算方法は、事業項目の洗い出し→具体的な事業内容の想定→それに基づく単価及び数量（いずれも概算）の想定→積上げ、によった。事業者見積によるべきものもあるが、現段階では実施していない。
- ・諸雑費として、全体の1割程度の額を計上。
- ・地域の関係者（出演者以外）が会場に参集する経費（出張旅費等）については、項目は設けたが、今回の対象外としている。

■必要資金の負担配分（別表のヨコ軸）の考え方について

- ・集めるべき資金の種別について、負担者の区分と当該資金の充当先から以下の5区分とし、経費項目ごとに振り分けることとした。

区分	資金・負担者の性格	充当先の考え方
1) 5 地域会議主導分	5 地域会議事務局でいったんまとめて集めるもの	共同事業や当催事を成立させるための基盤となる事業の経費に充当する
2) 協賛事業（映像協力）分	プロジェクトに協賛して特定目的のために事業が行われるもの	映像制作に使用される（※調整の上制作し成果を貸し出す形を想定）
3) 寄付金・協賛金	企業等が今回プロジェクトの趣旨に賛同して出捐するもの	使い方の制約は特に設けず、主として1)を補填する
4) 地域負担金	5 地域側（会員）が当催事に参加するための基本料金として拠出するもの	地域のアピールのために共通に必要な経費に充当する
5) 自地域出展事業分	各会員が自地域独自の事業のために負担するもの	自らの裁量で企画・実施する出展等事業に充当する

- ・5 地域会議事務局の目標は、「1) 5 域会議主導分」経費の一定割合を調達すること、とした。
- ・「3) 寄付金・協賛金」集めの目標として、「1) 5 域会議主導分」経費の残額と広報費に充当する資金源、と想定した。

したがって、いったん「1) 5 域会議主導分」と「3) 寄付金・協賛金」とを合わせた必要資金を積算する形をとった。

- ・「4)地域負担金」は、広報周知用印刷物作成費の一部、全体の呼び物となる特別出演者の経費、展示台等の設営費、当日の会場運営人件費に充当するものとした。また諸雑費の一定割合を地域負担金から賄うものとした。
なお5/6催事の当日に係る経費の負担分は計上していないが、当該催事も6/5催事と一体のものと考えている（当日、地域側からは映像上映と何名かの首長の参加を想定）。
- ・「5)自地域出展事業分」は、各地域の展示物制作・搬入、地域紹介・郷土芸能等の出演者旅費謝金に充てるものである。この表では概算事業費として一応の目安となる金額を上げているが、地域側の意向次第で増減する。
- ・なお「3)寄付金・協賛金」の一定割合を会員団体に割り当て、分担して集めることも別途検討されてよいと考える。

■試算結果

- ・以上の想定の下で事業費を試算した結果は、総額で57.7百万円となった。
- ・内訳は、(A)映像・展示物等の制作、広報、会議費等の準備経費に33.8百万円、
(B)会場費、講師・出演者旅費謝金、当日催事運営のための各種人件費、設営費等の当日経費に18.7百万円、
(C)諸雑費に5.2百万円。
- ・この総事業費の負担配分について検討した結果、基本料金としての「地域負担金」は、総額で5.6百万円、全体の10%程度と計算された。
地域負担金の配分基準については複数の考え方があり得る。
仮に①7地域（5地域は都道府県別には7地域になる）に均等に割り振るとすると、1地域当りの負担金は804千円となる複数市町村がある地域内での配分は、今後の検討課題。
また②参加する会員当りの負担金が均等になるよう割り振るとすると、参加団体数にもよるが、1団体当たり250千円前後になる。
なお地域側の拠出分としては、この負担金のほかに自地域出展事業分の経費を想定している。

別表 5地域会議の万博参加事業／経費の概算見積（試算）と充当用資金源の配分目標案

単位＝千円

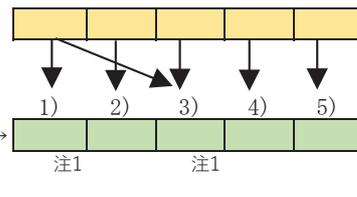
費用項目	細目	内容	金額	備考	資金源区分(案)※					
					1)+3)	2)	3)	4)	5)	
準備A	制作費	映像制作	舞台スクリーン用、パネル・フロアー用、多目的室モニター用	20,000	新規制作+既存編集+著作権料	●	●			
		展示物	地域紹介パネルほか(5地域分)	5,000	新規+既存展示物加工				●	●
		印刷物	周知用チラシ、当日配布資料	900	編集費込み	●			●	
		舞台道具	昇降スロープ、特設スクリーン、パネル(映像投影用)	1,300	搬入搬出費含む	●				
	広報費	メディア		5,000					●	
	会議費		万博協会催事打合せほか	1,500	5回程度	●				
	通信費			100		●				
計A			33,800							

当日B1 (5/6)	会場費	施設、共益費ほか	スタジオ使用料(空調、管理人員費含む)当グループ	250	時間外利用分含む	●				
	人件費	講師等謝金	報告とクロストークの有識者、司会、コーディネータ	750	講師交通・宿泊・食事代含む	●				
		記録	記録	100		●				
		日当計算	設営作業、進行連絡、案内・誘導、警備(当グループ分)	170		●				
	設営費等			0						
計B1			1,270							

当日B2 (6/5)	会場費	施設、共益費ほか	ホール・多目的室使用料(空調、管理人員費含む)	1,300	時間外利用分含む	●				
	人件費	講師等謝金	シンポジウム講師、司会、総合司会、同時通訳	6,500	講師交通・宿泊・食事代含む	●				
		特別出演者	特別出演者	1,500	3人程度				●	
		地域出演者	出演者(地域紹介、郷土芸能等)	3,000	地域紹介、芸能・パフォーマンス					●
		地域参加者	首長、随行者、一般参加者		会場に参集する出張旅費					●
		オペレータ等	舞台監督、照明、音響、記録	1,370		●				
		日当計算	設営作業、進行連絡、案内・誘導、会場整理、警備	1,730	委託、一部は地域人員				●	
	設営費		展示台・吊看板・仕切り板作成・取付	500	多目的室2部屋分				●	
運搬費		展示品・機器類	1,500	モニター等及び各地域出展品搬入				●	●	
計B2			17,400							
C 諸雑費			5,250		●				●	

合計	A+B+C	57,720							
		57,720							
		100%							

配分目標案→



- ※1) 5地域会議主導分
- 2) 協賛(映像協力)
- 3) 寄付金・協賛金
- 4) 地域負担金
- 5) 自地域出展事業分

注1: 共同事業や基盤となる経費負担の一定割合を寄付金・協賛金で賄う

世界自然遺産5地域会議 大阪・関西万博参加事業
「子供作文コンクール」実施要領（案）

■万博催事における演目

- ・子供作文代表作品の発表と授賞式
（2025年6月5日／「千の自然・千の時間—私たちと世界自然遺産5地域」プログラム1）
- ・タイトル：世界自然遺産と私たち—みつけた！ 自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ（子供作文）

■趣旨・目的

世界自然遺産5地域（知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美・沖縄）の23市町村に暮らす子供たちに、作文を通じて大阪・関西万博に参加してもらう機会として作文コンクールを行い、選ばれた5地域の代表を万博会場に招待して作品を発表する。

地域の将来を担う世代が参加することにより、地域の自然や自然と共にある暮らしの価値を万博というイベントを通じて気づくまたは理解する機会とする、また、大人が思いがけないような新たな視点の提起、といった効果が期待される。

会員市町村が募集・選考にたずさわって作品募集・コンクールという形式をとることにより、万博へ向けての地域ぐるみの参加・盛り上がり期待でき、子供が来ることにより保護者の万博参加なども期待できる。

■代表作品発表・授賞式までの流れ

- 1) **作品募集**（各地域の市町村ごとに募集。募集方法は各市町村が決定）
※応募は児童生徒の自由応募を原則とする
↓
- 2) **一次選考**（候補作品の選出／選考基準を参考に、市町村単位で当該市町村の代表作品を選出。方法は各市町村が決定）
↓
- 3) **最終選考**（地域別代表作品の選出／5地域会議が設置する選考委員会で選考を行い、各地域1作品を選出）
↓
- 4) **各地域代表作品発表・授賞式**（6/5大阪・関西万博会場にて）

■項目別実施事項

1. 作品募集（各地域市町村ごとに募集）

- 1) 募集内容
 - ①募集部門：「小学生の部」「中学生の部」それぞれで作品を募集

※文章力の違いから「小学校」「中学校」で分けて募集し、それぞれから代表作を選ぶ

※参考：「全国小・中学校作文コンクール（読売新聞）」では「小学生低学年」「小学生高学年」「中学生」で募集

※「小中一貫校」「義務教育校」の場合は上記に応じた学年生対象

②作文テーマ：

「世界自然遺産と私たち 一みつけた！ 自然のふしぎ・自然と暮らすたのしみ」

ー地元の自慢の景色、自然の中での遊び、自然の中で感動したこと、不思議だなと思ったこと、暮らしの中で自然があるからこそ感じられる音やにおいの体験、など

③文字数：1000～1200字（400字詰原稿用紙3枚）

※仮に授業等で書いてもらう場合、多くの児童・生徒が対応できるのはこの程度と判断

※参考：「全国小・中学校作文コンクール」では「小学生低学年10枚」「小学生高学年20枚」「中学生30枚」

④用紙：400字詰め原稿用紙

※用紙を統一することで、取りまとめや選考を行いやすくする

2) 募集対象（応募資格）

・地域内の小中学校の児童・生徒

※小中一貫校、私立、特別支援学校等も含み、広く集めたい（世界自然遺産に関心を持ってもらいたい）

3) 募集期間

・12月～2月 約2か月

※効率よく対応してもらうために、協力者（教育委員会、小中学校等）には前もって知らせておくことが望まれる

4) 募集・応募方法

・募集は、各市町村が実施しやすい方法で行う。

（例1）教育委員会より当該市町村内の小中学校に協力依頼し、募集要項を配付→学校経由で応募

※学校から児童生徒に説明、応募締切までに学校提出としてもらう→児童生徒からの応募作品を学校単位で取りまとめ、市町村内窓口へ提出

（例2）募集要項に従い、市町村広報誌で募集→担当窓口を応募先として設定し、提出してもらう

（例3）募集要項（チラシ）を公共施設等で配布し、募集→上と同様の方法で応募を受け付け

・応募は児童生徒の自由参加を原則とする。

※授業カリキュラムに入れ込むなど学校での作品作成まで依頼することは、学校側の負担も大きく、避ける

5) 募集要項に記載する内容（募集要項案参照）

・上記以外に募集要項作成のために確認・決定しておく事項は、以下のとおり。

①応募締切期日（当日消印有効）

②応募先住所や連絡先

③応募者に記載してもらう内容（作者の名前、学校名、学年、連絡先（個人か学校経由か）等）

④選考手順・方法、選者

⑤入選発表方法と期日

⑥問合せ先

⑦入選者の表彰、記念品・副賞進呈（万博への招待）

⑧主催者

⑨応募作品の取扱（返却せず処分）

2. 一次選考（候補作品の選出／市町村で選考）

1) 選考方法

- ・応募受付後、応募作品の中からそれぞれの市町村の代表（小・中学生各1作品）を選出する。
- ・選考方法や選者については各市町村が独自に設定する（例えば地域選考委員会の設置など）。

2) 選考の基準

- ・5地域会議選考委員会の選考基準案を参考に、各市町村の選者の独自の判断を加え候補作を選出。

【選考委員会による選考基準の例】（選考委員会設置後に確定）

- * 作者独自の視点や想像力、展開力、感性などが読み取れる
- * この地域ならではの自然や文化が説得力をもって描写されている
- * 自然への言及やかかわり方などを通じ、未来社会への希望が感じられる

3) 選考期間

- ・2月中旬から3月上旬 約1か月

4) 選出作品数（候補作品数）

- ・各市町村から部門（「小学生の部」「中学生の部」）別に1作品を選出する。
ただし1町村のみで構成される遺産地域（「小笠原諸島」「屋久島」）の場合、部門別に各2作品を選出する。

※1作品だけでは町村の代表作品が遺産地域代表作品となるが、選考委員会での選考を経ることが適当と考えられるため、候補作品を複数（2作品）とする

<二次選考の実施>

※「奄美大島、徳之島、沖縄北部及び西表島」は2県にまたがり児童生徒数も多いため、二次選考として、鹿児島県地域と沖縄県地域、前者をさらに奄美大島と徳之島に区分し、計3地域でそれぞれに代表作品を選出した上で、最終選考にかけ、全体の代表作品を選出することが考えられる。

二次選考は、地域側で行うことも考えられるが、5地域会議選考委員会に委ねることも考えられる。

※「白神山地」は青森県、秋田県の2県にまたがるが、県単位での選考（二次選考）は行わない。

- ・選出作品は市町村代表として、万博開催後、作者に5地域会議より記念品を贈呈する。

3. 最終選考（各地域の代表作品／5地域会議で選考）

1) 選考方法

- ・各遺産地域の市町村で選出された候補作品の中から、地域別部門別の代表作品を選出する。
- ・最終選考のための選考委員会を設置する。委員構成（選者）については5地域会議で決定する。

2) 選考基準

- ・選考委員会や選者によって検討・決定する。基準例については前掲のとおり。

3) 選考期間

- ・3月 約1/2か月

4) 選出作品数（代表作品数）

- ・代表作品は各地域各部門（「小学生の部」「中学生の部」）で1作品ずつとする。
※地域により学校数、児童生徒数の違いが大きいだが、ここでは「地域代表」であることを優先させる。

4. 代表作品発表・授賞式（6/5 大阪万博・会場にて）

1) 受賞者への連絡と万博招待

- ・選ばれた代表作品作者には、4月初めまでに5地域会議より入選の連絡を行い、万博へ招待する旨と授賞式出席への依頼を伝える。
- ・招待は受賞者本人+保護者1名とし、2名分の往復交通費+2宿泊代+万博入場券を進呈する（当日現地出席ができない場合、万博開催期間中の入場が可能な入場券とする）。

2) 授賞式準備

- ・5地域会議選考委員会において授与者及び授賞式プログラム（進行）を決定し、賞状・記念品等を準備する。
- ・代表作品は、多国語に翻訳する。
- ・5地域会議及び各市町村で授賞式案内の広報（周知）をおこなう。

3) 発表・授賞式

- ・2025年6月5日（木）EXPOホール（シャインハット）
- ・現地出席ができない受賞者は、オンラインによる参加もできるようにする。

4) 作品集

- ・代表作品の作品集を作成し、5地域会議万博参加記録集（仮称）の一部として、ネット上等に掲載する。

■募集・選考・授賞作品発表までのスケジュール案

- 10月 : 役割分担、テーマ、選考基準、授賞式進行等の詳細を検討
- 11月 : 実施決定（11/19 第3回5地域会議）、各市町村で選考方法・選者を検討、募集準備
- 12月 : 各市町村で募集開始
- 1月 : 応募受付
- 2月 : 募集締切り（2/12（水））、一次選考
- 3月 : 選考結果を5地域会議に提出（3月上旬）、最終選考（各遺産地域の代表作品決定）
- 3月末 : 代表作品作者に連絡（授賞式：万博招待）
- 5月 : 授賞式準備
- 6月 : 代表作品発表・授賞式（6/5 万博本番）

【参考資料】5 地域会議会員市町村と学校数・児童生徒数

遺産地域	都道府県	市町村	小学校		中学校	
			学校数	児童数	学校数	生徒数
知床	北海道	斜里町	3 (1)	584	2 (1)	255
		羅臼町	2	207	1	104
		(公財)知床財団				
	計		5	791	3	359
白神山地	青森県	弘前市	35	7337	18	4101
		鱒ヶ沢町	2	258	1	177
		深浦町	3	176	2	104
		西目屋村	1	70	1	59
	計		41	7841	22	4441
	秋田県	藤里町	1 (1)	89	1 (1)	44
		八峰町	2	148	1	120
		能代市	7	1593	6	1014
計			10	1830	8	1178
小笠原諸島	東京都	小笠原村	2	161	2	81
屋久島	鹿児島県	屋久島町	9	662	4	323
		(公財)屋久島環境文化財団				
奄美大島、 徳之島、沖 縄北部及び 西表島	鹿児島県	奄美市	21	2256	12	1199
		大和村	4	57	1	24
		宇検村	4	94	4	35
		瀬戸内町	11	394	8	209
		龍郷町	7	409	3	169
		徳之島町	8	643	6	292
		天城町	6	313	3	148
		伊仙町	8	431	3	221
	計		69	4597	40	2297
	沖縄県	黒頭村	5	220	1	129
		大宣味村	1	136	1	76
		東村	3	95	1	31
		竹富町	10	286	9	151
計			19	737	12	387

() 内一貫校の数/児童・生徒数に

世界自然遺産 5 地域会議 大阪・関西万博参加事業
EXPO ホール（シャインハット）多目的室を活用した展示事業実施要領（案）

1. 趣旨・目的

世界自然遺産 5 地域会議（以下「5 地域会議」）が主催する、EXPO ホール（シャインハット）を使用した催事の一環として、同ホール内の「多目的室」を活用した展示場催事を実施する。具体的には、各地域から持ち寄った地域紹介のパネル・チラシや映像、物産品等を展示するとともに、地域関係者による観光案内や地域活性化の活動紹介のコーナーも併せて設け、5 地域それぞれの独自の自然や環境文化の特徴について来場者に伝えることを目指したい。

2. 催事実施日時・場所

- ・ 2025 年 6 月 5 日（木）10：00～18：00
- ・ EXPO ホール（シャインハット）「多目的室」 2 か所（1 階入り口前に位置する）

3. 催事実施概要

1) タイトル

日本の世界遺産地域にみる超絶・自然の価値と環境文化—知床、白神山地、小笠原諸島、屋久島、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島—（仮）

2) コンセプト

5 地域の「世界自然遺産としての自然の価値と環境文化」を示すイラストや写真等を使用した壁面パネルと映像、そしてシンボリックな物品・物産を展示するとともに、案内コーナーを設けて、地域独自の自然や環境文化の特徴を示し、その土地が持つ自然と人との共生についてのストーリーを来場者に感じてもらう。

3) 展示方針

2 か所の多目的室を 5 つの遺産地域エリア（「知床」、「白神山地」、「小笠原諸島」、「屋久島」、「奄美・沖縄」）に区分し、エリア毎のパネル（5～6 枚）を背景に、5 地域会議会員が該当するエリアにチラシや映像、物産等を持ち寄って展示を行う。

また各室に 1 か所の「案内コーナー」（仮称／計 2 か所）では、地域関係者が交代で自地域の観光案内や地域活性化の活動紹介等を行う。

4) 展示物制作・運営の役割分担（費用負担を含む）

会場配置等の計画、調整と会場設営、展示用装置機器類の設置・運営については 5 地域会議事務局側が行い、展示物の制作・持込みは各地域の会員が行う。なお壁面パネルについては、各地域の会員と事務局側が協働して制作、設置する（後述）。

案内コーナーは会員側が交代で運営することを基本とする。

役割分担表

	会員市町村	事務局
展示会場の装飾看板、展示ブースまたは展示台、映像用モニター等の設営（制作・レンタル・搬入）		○
展示物（ポスター、チラシや物品、物産など）、映像ソフトの準備（制作・搬入）・設置	○	
壁面パネルの制作・設置（5地域に共通して設置し、各地域の環境文化を表示）	○ 作者への依頼等	○
案内コーナーに配置する案内人等の選任、派遣	○	時間配分などの調整

4. 展示会場（多目的室）概要

1) 位置（図-1 参照）

- ・ EXPO ホール 1F、入口前の廊下沿い南北に 1 か所計 2 か所
- ・ 南側：EXPO ホール入口 1 の前面廊下沿いに位置（多目的室 1）
- ・ 北側：EXPO ホール入口 3 の前面廊下沿いに位置（多目的室 2）

2) 規模・形状（図-2 参照）

- ・ 多目的室 1・2 とも同型の少しカーブした長方形
- ・ 横幅約 15m×奥行約 4.5m 面積約 68 m²、天井高 3.0m
- ・ 入口は室中央部に 1 か所幅 1.8m高さ 2.0mの両開扉 2 枚連続計幅 3.6m
- ・ 室内には他に 2 か所の扉あり

3) その他仕様や設備、什器類

- ・ 使用方法を含め、博覧会協会から未発表の部分が多く、未確定

5. 会場利用のゾーニング案

1) 2 か所の多目的室を遺産地域・5 グループで均等に区分して利用

- ・ 多目的室 1 は「屋久島」、「奄美・沖縄」の 2 地域で利用（「奄美・沖縄」は市町村数が多いため、広めのスペースを割当て）
- ・ 多目的室 2 は「知床」、「白神山地」、「小笠原諸島」の 3 地域で利用
- ・ 地域エリア内の展示面積は、市町村別の展示品数・大きさ等により、調整

2) 各多目的室に当該室の複数遺産地域を案内する案内コーナーを設置

6. 展示方法と規模

1) パネル展示及び壁掛け展示

- ・ 共通仕様の壁面パネルを各地域に設置（奄美、沖縄は別ものとするとも検討）。

このパネルは、地域で活動するイラストレーターやアーティスト、写真家など

に会員から製作を依頼し、その土地が持つ自然と人との共生についてのストーリーを表現する。製作品については当日だけでなく、後日も利用可能なものとして扱うことを検討。統一性担保のため、テーマ性やストーリーの例は事務局側にて用意して提示する。また製作のための経費は事務局側が負担する予定（→製作に関する詳細は、別紙参照）。

・それ以外のパネル展示も必要に応じて設置。

2) 映像モニター

・各地域に1台設置

3) 物品・物産等展示

・展示台（1地域約2.0㎡程度、奄美・沖縄は計4.0㎡程度を想定）に設置

4) ラックスタンド据置

・パンフレット、カタログ等を据置

7. 展示配置案（検討中）

- ・入口前に各地域を紹介するバナー及び案内コーナーの無人カウンター等を設置
- ・壁には壁面パネル展示およびその他ポスター・モニター等を壁掛け展示
- ・展示台は壁面に沿って配置し、その上に物品等を設置
- ・パンフレットラックは必要に応じて壁前に設置

8. 出展までの流れ

会場配置・設営計画の提示



各会員からの出展希望展示物の形状・内容・数量の提示



連絡・調整、詳細配置計画の確定



展示物等の運び込み

図-1 多目的室位置

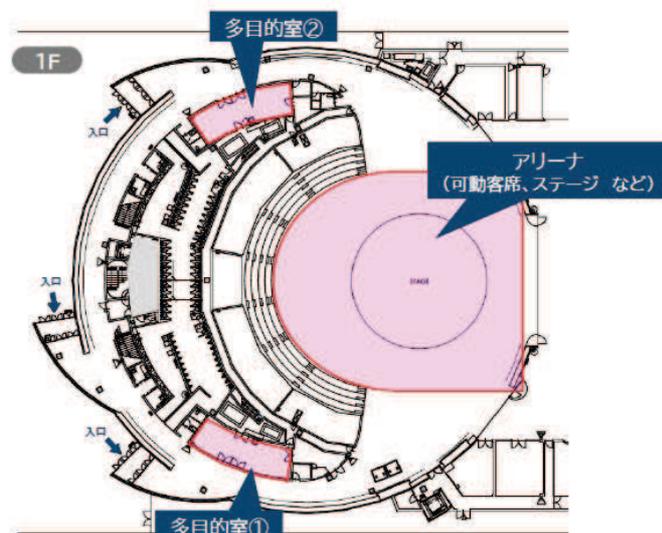


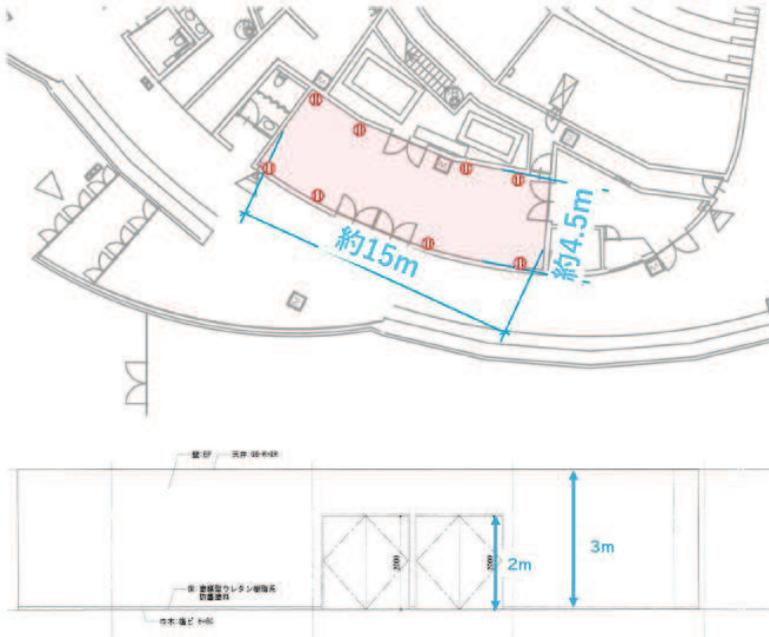
図-2 多目的室規模・形状

EXPOホール:多目的室仕様(多目的室①)

催事管理センター>

2024.08

【多目的室① 仕様】



多目的室1	
横幅	約15m
奥行	約4.5m
高さ	約3m
扉の高さ	2m
扉の横幅	1.8m

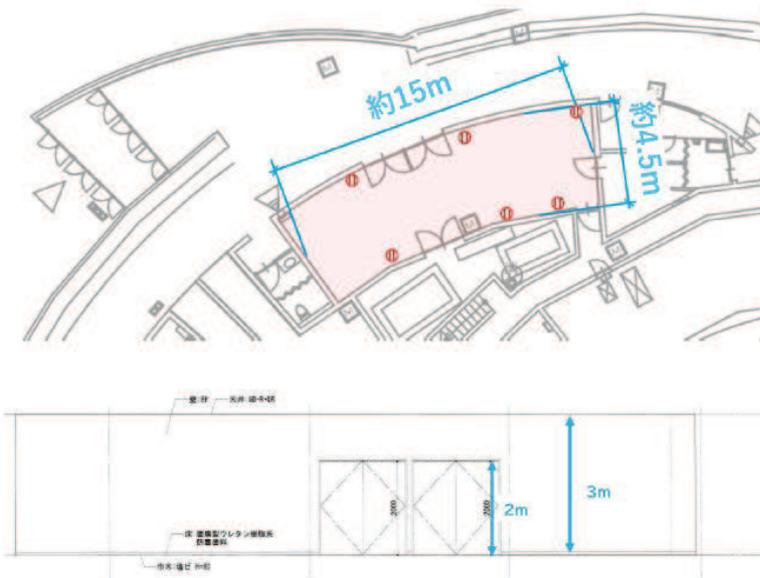
多目的室1 電源		
電源回路数	コンセント数	
20A	1回路	1
20A	1回路	1
20A	1回路	4
20A	1回路	2
合計		8

EXPOホール:多目的室仕様(多目的室②)

催事管理センター>

2024.08

【多目的室② 仕様】



多目的室1	
横幅	約15m
奥行	約4.5m
高さ	約3m
扉の高さ	2m
扉の横幅	1.8m

多目的室2 電源		
電源回路数	コンセント数	
20A	1回路	4
20A	1回路	2
合計		6

世界自然遺産 5 地域会議の万博参加用広報パンフレット用

5地域の自然、環境文化の紹介文案

(登録された世界遺産としての価値と地域の人々とのかかわり、環境文化の特色)

注) 本文、写真とも未定稿であり、イメージを示したものを。
掲載した写真は、季刊誌「ジオシテイ」2023/96号「日本の世界自然遺産30年」特集
(企画監修：世界自然遺産 5 地域会議 発行：株式会社ブックエンド) より引用

知床

登録された世界遺産としての価値と地域の人々とのかわり、環境文化の特色

日本の世界自然遺産5地域

海水がもたらす、海・川・森とつながった豊かな生態系

世界自然遺産登録地の概要	
登録年月・面積	2005年7月 登録 登録面積： 71,100ha (海域含む)
遺産登録地の自然の概要	<ul style="list-style-type: none"> 標高1500m級の急峻な山々、切り立つ海岸断崖、湿原・湖沼群などから構成される、知床半島の中央部から先端の知床岬にかけての陸地と、その周辺海域。
世界遺産としての普遍的価値	<ul style="list-style-type: none"> ○海水の影響を受けた海と陸の生態系の豊かなつながり - ix (生態系) ○動植物ともに多くの希少種や固有種を含む幅広い生物種が生息・生育 - x (生物多様性)



特異な自然環境形成の背景

・流水が到達する世界最南端(低緯度)の地。半島周辺の海域は、冬の間は氷に閉ざされる。しかし、春は植物プランクトンが爆発的に繁殖し、ダイナミックな食物連鎖の舞台となる。

・火山でできた半島には、短い流れ下る数多くの川があり、海、川、森を通じた循環が成立。サケ類や希少なシマフクロウ、高密度に生息するヒグマなどは、この豊かな生命循環に支えられている。

自然との間で積み重ねられてきた人々の営みの歴史

・人が住み始めたのは1万年前とされるが、厳しい気候条件もあって人口は低密な状態が維持された。

・明治以降、開拓が進むとともに、漁業、林業、鉱業といった産業が形成。林業による原木の伐採も進んだが、開拓は入植、離農の繰り返しで、放棄地への土地投機も行われた。これらへの反省から森の再生へ全国に参加を呼びかける100㎡運動を展開。

・現在では年間百数十万人が訪れる観光地となる。

形づくられた環境文化の例

・先住民アイヌの自然信仰は、シマフクロウやヒグマ、シャチなどを神として崇める、狩猟採集文化を育んだ。地域をきめ細かく把握していた証として、詳細なアイヌ地名が残されている。

・ヒグマが高密度に生息し、漁業番屋の近くにも頻繁に現れる。クマも漁民も何事もないかのように応ずるという人とクマとの信頼関係が築かれている。

・知床100㎡運動は、日本のナショナルトラスト運動として名高い。ダイキンなどの企業参加による森づくりも実績があり、定着している。

白神山地

原生的なブナ林が東アジア最大の規模で分布、多様性を維持

世界自然遺産登録地の概要	
登録年月・面積	1993年12月 登録 登録面積： 17,000ha
遺産登録地の自然の概要	<ul style="list-style-type: none"> 青森県、秋田県にまたがる標高200mから1250mに及ぶ山岳地帯、白神山地の中心部に位置する、広大で原生的なブナ林が残された地域。
世界遺産としての普遍的価値	<ul style="list-style-type: none"> 東アジアで最大の原生的なブナ林で、世界の他の地域のブナ林よりも多様性に富んでいる -ix(生態系)



日本の世界自然遺産5地域 登録された世界遺産としての価値と地域の人々とのかわり、環境文化の特色

特異な自然環境形成の背景	自然との間で積み重ねられてきた人々の営みの歴史
<ul style="list-style-type: none"> 氷河期、地球上の他地域では高山に阻まれて南進できなかつたブナ林がここでは広大に広がる。このブナ林は、約3000万年前に北極周辺に分布していた植物群の生き残りで、大雪の環境の下、当時と同じような植物を多く残している。 保水力の高いブナ林内では、クマゲラ、ツキノフグマ、カモシカ、シラガミクワガタなど多くの動植物種が豊かな生態系を構成している。 	<ul style="list-style-type: none"> ブナの森は、林床に育つ植物が豊富なため、縄文時代から麓の人に山菜等を供給する食料庫となり暮らしを支えてきた。また豊富な森林資源の活用により、狩猟や木材利用・薪炭生産、木器づくりが住民の生業として盛んに行われたほか、鉱山では銀・銅や鉛が産出され繁栄した歴史もある。 白神の奥地を源流とする河川の水は、飲料水や農業用水などとして利用されるほか、魚を育み流域や沿岸域の漁場を形成してきた。

形づくられた環境文化の例

- 古くから自然と人との共生により育まれてきたブナ帯文化は、盆、椀、盃など漆器の木地としての木器づくりや食文化などに息づく。
- クマの狩猟や山菜などの採取により生活を営んできた「マタギ」は1,000年以上の歴史があるとされ、すべての獲物は山の神の授かりものとして白神を深く信仰してきた。
- ブナ帯文化圏のジビエ等の食を含めたエコツーリズムが推進されている。

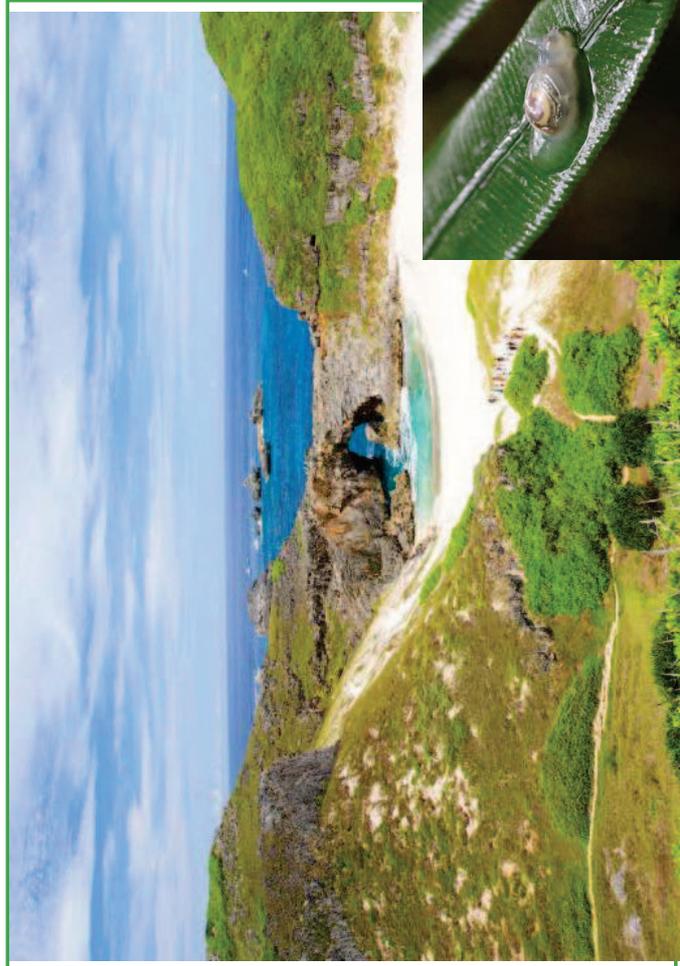
小笠原諸島

登録された世界遺産としての価値と地域の人々とのかわり、環境文化の特色

日本の世界自然遺産5地域

小さな海洋島での多種の固有種からなる生態系と現在進行形の生物進化

世界自然遺産登録地の概要	
登録年月・面積	2011年6月 登録 登録面積： 7,900ha (海域含む)
遺産登録地の自然の概要	<ul style="list-style-type: none"> 東京から南に1000km離れた位置にあり、海と断崖に囲まれた島々(聳島列島、母島列島、北硫黄島、南硫黄島、西ノ島)。 父島、母島は有人島で集落は除外。
世界遺産としての普遍的価値	<ul style="list-style-type: none"> ○海洋島※の著しく高い固有種率と現在進行形の生物進化 - ix (生態系) ※一度も大陸と陸続きにならなかったことがない島



特異な自然環境形成の背景	自然との間で積み重ねられてきた人々の営みの歴史
<ul style="list-style-type: none"> 島の誕生以来、一度も大陸とつながっていない海洋島であり、外から辿り着くことのできた限られた生物種が島内で独自の進化を遂げ、特異な生態系が形成されている。 一つの祖先から環境の異なる場所に進出し、それぞれの環境に応じて著しく多様な種に分化する「適応放散」、海洋生物種から陸上生物種への進化など、現在進行形の生物進化の過程を目にすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 島に人が住むようになったのは1830年。欧米人と太平洋諸島民だった。明治時代、日本領として認められた1876年から、日本人が住む。 かつては島そのものが捕鯨船の基地となり、ペリー提督も石炭の補給などに立ち寄っている。 大正時代には約7,000人の人が生活し、山頂までサトウキビ畑などの耕地となった時代もあった。敗戦後占領期を経験、住民の不在で放棄農地が残され、二次林が形成された。

形づくられた環境文化の例

- 西洋や南方などから移住してきた人の故郷を持つ多様な文化が融合し、独自の文化が生まれ育まれてきた。
- 「小笠原太鼓」は、戦前に八丈島からの移住者とともに伝わったもので、全国でも珍しい両面打ち。「フラ(フラダンス)」は、ハワイをはじめとする環太平洋と共通。
- ホエールウォッチングを特徴とするエコツアーリズムの人気が高い。

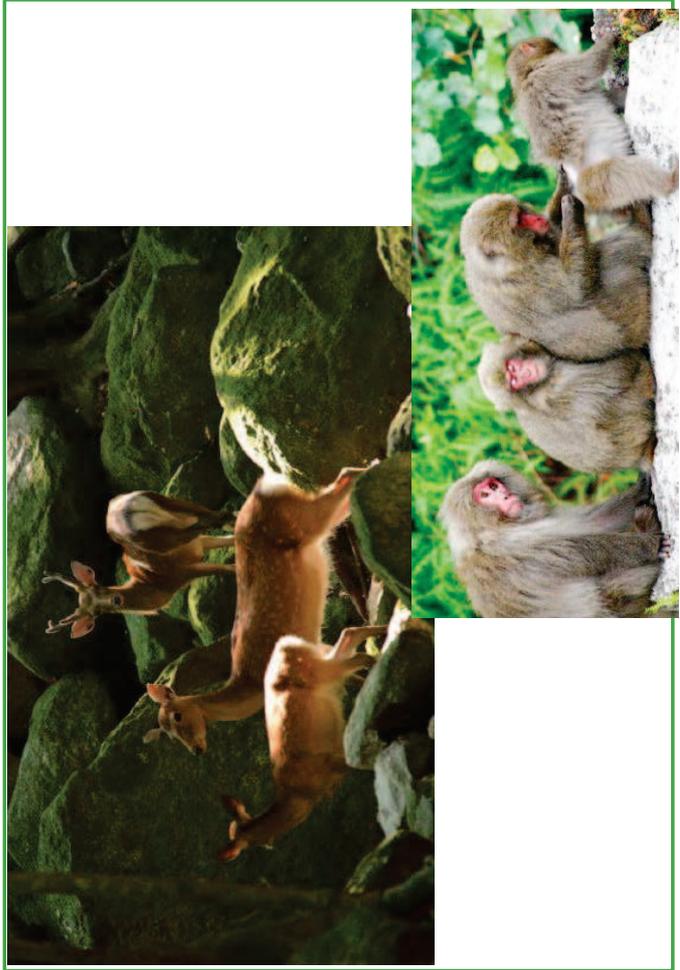
屋久島

南北に長い日本の自然植生の特徴が見られる垂直分布と屋久杉の巨樹林

日本の世界自然遺産5地域

登録された世界遺産としての価値と地域の人々とのかかわり、環境文化の特色

世界自然遺産登録地の概要	
登録年月・面積 1993年12月 登録 登録面積： 10,700ha	遺産登録地の自然の概要 ・九州最高峰の宮之浦岳(1936m)を主峰として山岳が連座し多数の河川が流れ下る島の中心部から西の海岸部に及ぶ地域。 ・温暖多雨(年間4000mm)の気候。
	世界遺産としての普遍的価値 ○樹齢数千年に及ぶ屋久杉巨樹林 - vii (自然美) ○植生の垂直分布が顕著な島嶼生態系 - ix (生態系)



特異な自然環境形成の背景	自然との間で積み重ねられてきた人々の営みの歴史
<ul style="list-style-type: none"> ・海上に花崗岩が隆起してできた島で、1900m級の高峰がそびえる。高山であるがゆえ、植生は亜熱帯から亜寒帯までの垂直分布を呈する。 ・黒潮に乗ってやってきた雨雲が山々にぶつかり、年間10000mm(山)、4000mm(里)の雨を降らせる。このため、高湿度の環境に適応した溪流植物や着生植物の緑が瑞々しく森に広がる。 ・森の中は樹齢1,000年を超える巨大なヤクスギの天然林が独特の景観をつくりだす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・13000年前から人が住んだ跡が見られる。 ・有史以来、南方交易の中継=大和による経営拠点として、日本書紀など古代文獻に島の名が現れる。 ・近世はスギの利用が盛んになり、山中で伐採し板材に加工して山を下り、年貢として納めた。 ・「野に10日、山に10日、海に10日」という人々の営みは、限られた島の資源利用、復業の知恵。 ・戦後は水源開発や山林の大規模伐採が進み、住民による反対運動も起こった。 ・世界遺産登録後、観光客が急増し、適正利用が課題になっている。

形づくられた環境文化の例

・集落から見える山は、「前岳」と呼ばれ親しみのある世界。しかしその背後に控える「奥山」は、神々が住む世界として崇められてきた。そこは、目には見えないが水源を始め日々の暮らしに恵みをもたらす源でもあった。

・年2回、集落ごとに選ばれた若者が1～2日かけて奥山に登る「岳参り」が今も行われている。

・世界遺産第1号登録地であり、共生と循環という理念を提唱した地域でもある。

奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島

日本の世界自然遺産5地域 登録された世界遺産としての価値と地域の人々とのかわり、環境文化の特色

島々の形成過程を反映した、世界的に貴重な固有種や絶滅危惧種

世界自然遺産登録地の概要	
登録年月・面積	2021年7月登録 登録面積：42,700ha
遺産登録地の自然の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本列島の南西部に位置する琉球列島の一部の島々の内4島5地域で構成。 ・ 黒潮の影響を受け、温暖多湿な気候を呈し、主に常緑広葉樹多雨林に覆われる。
世界遺産としての普遍的価値	<ul style="list-style-type: none"> ○島の成り立ちを反映した独自の生物進化を背景とした、国際的にも希少な固有種に代表される生物多様性 — x (生物多様性)



特異な自然環境形成の背景	自然との間で積み重ねられてきた人々の営みの歴史
<ul style="list-style-type: none"> ・ 地殻変動により大陸から切り離される過程で、陸生生物が島に隔離されて生き残り(遺存種)、独自の進化が進んだ。 ・ 登録地にはアマミノクロウサギ、ヤンバルクイナ、イリオモテヤマネコなど、IUCNレッドリスト掲載の絶滅危惧種88種(うち70種が固有種)が生息。 ・ 温暖多湿で再生力の高いこの地域の亜熱帯広葉樹林は、多くが人手などが加わった二次林とされるが、複雑に入り組んだ地形、水条件から、小規模な単位の生態系が成立、その集合体として多様性を育んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1万年以上前から定住が見られ、南と北双方から流入。また古くから大陸との交易に「道の島」として航行の目印となり、中継拠点の役割を果たした。 ・ 農業、林業、漁業が営まれ、集落を囲む山・森・川・海のすべてを生活圏とする土地利用。 ・ 野生生物と人の暮らしの場が近接しているが、長く共存が保たれてきた。 ・ 琉球の支配、島津藩によるサトウキビ栽培の強制などの外からの影響も受けてきた。 ・ やんばるでは薪炭、木材の南部への移出で経済が成立。

形づくられた環境文化の例

- ・ 南の琉球と北のヤマト(薩摩)が重層する歴史。亜熱帯気候の自然も文化も南北の「移行帯」を成し、島ごとの個性を育む。
- ・ 源流域を守る空間概念は、ケンムン、キジムナー、ブナガヤなどの精霊を生み出した。
- ・ ここにしかない自然の資源を活かして、泥染め、大島紬など独特の文化がある。
- ・ 歌い継ぐ島唄(唄アシビ=遊びの要素も)、踊り、ノロ・ユタなどの民俗伝承がある。

第2回世界自然遺産5地域会議 開催結果概要

■開催概要

日 時：令和6年1月17日（水）15:00～17:45

（世界遺産登録30周年記念「世界遺産特別講演会」終了後）

場 所：京都ガーデンパレス 2F「鞍馬」／リモート会議併用

（アーカイブ配信あり）

出席者：＜5地域会議構成員＞

世界自然遺産5地域会議（以下「5地域会議」という）会員24名（当日新規加入の弘前市長を含む17市町村長、代理5名、2公益財団法人理事長）〔うち19名（代理2）が対面、5名（代理3）がリモート参加。欠席は1名〕（別紙参照）

＜関係行政機関・支援機関＞

則久雅司環境省自然環境局自然環境計画課長、中山直樹鹿児島県環境林務部自然保護課長、中村利雄イベント学会会長、蔵元進地球産業文化研究所専務理事〔対面〕

＜学術顧問＞

岩槻邦男東京大学名誉教授〔対面〕

＜特別講演会講師＞

山極壽一総合地球環境学研究所長〔対面〕（後掲の注記参照）

※その他屋久島環境文化財団役員、随行者、事務局等を含め、合計約80名が参加。

■議事概要

（0）開会

- ・佐々木文明秋田県藤里町長（環白神エコツーリズム推進協議会会長）が本会幹事を代表して開会のあいさつ。
- ・本会規約第8条により、小野寺浩本会代表（屋久島環境文化財団理事長）が議長に就任し、以下の議事を進行。

（1）新規会員入会について

- ・事務局より、青森県弘前市からの5地域会議加入申込書を受理したこと、同市入会については幹事の賛同も得られていることを報告。
- ・リモート参加者を含め異議はなく、全会一致で弘前市の入会を承認した。
- ・櫻田宏弘前市長が本会入会に当たってのあいさつ。
- ・小野寺議長は、企業などの新規会員の受入れについて、協賛金や会費の事務処理、税制上の課題を整理した上で前向きに進めていきたいと発言。

（2）大阪・関西万博への参加について

- ・中村利雄イベント学会会長が大阪・関西万博への参加について、概略、以下の説明を行った。
 - *2005年愛・地球博の理念を継承発展させていくため、イベント学会と地球産業文化研究所（GISPRI）は、大阪・関西万博の「共創パートナー」に登録。「関西の歴史と文化」「水と流域」「世界自然遺産」の3テーマで「共創チャレンジ」プロジェクトを立ち上げ、サポートしている。
 - *万博期間中、博覧会協会による「テーマウィーク」の「未来への文化創造」ウィークに参加し、5月6日、3プロジェクト合同での成果発表を行う。

- * 万博出展機会について、2025年5月6日は会場内の「スタジオ」使用で決定だが、170㎡100人規模で、1日を3グループで分け合う。
- * これ以外に「一般参加催事」での参加という枠組があることが分かり、5地域会議としてEXPOホール（大催事場）利用の企画提案書を提出し登録した。ホールには円形ステージ（直径18m）があり約2,000席規模。ただしこの採否は、本年4月以降に確定する。
- * 提案の内容は、5地域がそれぞれ持っている大型自然映像を上映しそれを録りの深い著名な有識者が解説することを中心に、各地域の物産展示、郷土芸能上演などのほか、シンポジウムなどを行うというもの。詳細は4月以降に詰め、調整していくことになる。
- 中村会長との質疑応答を通じ、以下のような確認及び意見交換が行われた。
 - * 5地域会議の運営経費は、GISPRIが愛・地球博の基金から支援しており、万博出展に当たっても会場使用料までは負担できる。各地域からの出しものなどにかかる経費は、各地域で負担してほしい。
 - * 遺産地域管理に企業の協力、応援が重要。万博では、国外向けだけでなく、国内企業へのアピールも併せてしたい。
 - * 民間企業との連携は重要。万博でも、海外のメディアと連携した情報発信なども考えたい。
 - * 奄美では「世界自然遺産推進共同体」、沖縄では「世界自然遺産推進共同企業体」という民間の組織が活動している。5地域会議から声掛けし参加してもらって、万博出展にも協力してもらえるとよい。
 - * 企業の資金面での参加・協力を得るため、5地域会議として各自治体が「企業版ふるさと納税」を活用する方法もある。
 - * 世界自然遺産の保全に100万円単位でも拠出したい民間人は、自分を含め多数いるはず。使用目的と会計処理方法をはっきりさせ、寄付金を受け入れる仕組みを作してほしい。
 - * 万博では、会場だけでなく各地域を結んで地元からも参加し、世界自然遺産をアピールすることも考えたい。
 - * 環境省も小規模だが出展する（9月の1週間）。連携し一部を5地域会議として使用することも考えられる。
 - * 国際シンポジウムを開き、日本の自然と文化に関心のある海外の有識者に参加してもらうことも考えられる。
 - * 日本ならではのやり方で遺産地域の管理を進めていこうとすると、人手と時間、費用がかかる。それを理解してくれる人は今はほとんどいないが、世界遺産は最後の砦であり、みんなで支えるべき。国民の意識を変えていく必要がある。万博は絶好のチャンスなので、マスコミにも呼びかけ、5地域会議として国民運動的に機運を高めていけるとよい。
 - * 日本の野生動物の管理の仕組みは西洋に比べても不十分。国内の大学、学会、研究者が研究成果を基に行政に働きかけ、仕組みを変えていくことも重要。万博は風潮を変えていく、いい機会だ。
- 議長まとめ：

行政の仕組みや国民意識を変えること、また政府への政策提言、自然保護への新しい提案、民間含め資金確保をすることなどは、5地域会議を設立した目的そのものにかかわるテーマだ。大義名分はあるのだから、万博も活用しながら、どう具体的なものに結び付けていくか、

検討を進めたい。

万博について、提案はしたが具体化に向け何をするか、どう動くかは決まっていない。5地域会議会員の熱意、意欲次第である。これから相談しながら詰めていきたい。

(3) 事例報告について

- ・事務局から事例収集の趣旨と事例集作成の経緯等について説明したあと、議長が5地域会議による政策提言など活用方法に合わせて今後とも事例の分析を深める必要があると指摘。
- ・そのあと、以下5件の報告が行われた。
 - *北海道（公財）知床財団事業部 秋葉圭太参事：「知床五湖地区における利用調整地区制度の導入と運用」
 - *秋田県藤里町商工観光課 佐々木吉昭係長「藤里の聞き書き～自然と共に生きる想いを伝えるために～」
 - *東京都小笠原村環境課 井上直美主査「ペット条例（小笠原村愛玩動物の適正な飼養及び管理に関する条例）」
 - *鹿児島県大和村 伊集院幼村長「アマミノクロウサギ研究飼養施設（仮称）の整備」
 - *沖縄県国頭村環境保全課 平良政幸課長補佐「『世界自然遺産推進共同企業体』と連携した保護地域管理」
- ・岩槻邦男氏（5地域会議学術顧問）コメント：

日本の世界自然遺産管理の実践を通じて、地球の自然をよくしていくことに、5地域が共同体として取り組んでいくことを期待している。日本的な保護の考え方を一体となって世界に向け発信していただきたい。また、日本の各地域の文化の多様性は自然の多様性が作り出したものであることを踏まえ、自然遺産と文化遺産の交流をもっと進めていただきたい。

(4) 意見交換

- ・時間的制約から、以下の2名に意見を求めた。
- ・則久雅司環境省自然環境計画課長：日本型自然保護のもとになっている自然観の西洋との違い、また、日本の保護制度は調整型の独特な地域制の仕組みであり、地方行政を始め地域に支えられていることを、これまでの行政経験から実感している。暮らしの中で自然を守る日本のやり方は、地域社会のサステナビリティが自然を支える上で重要と考える世界の環境行政のトレンドの一つにも合っている。環境省としては世界遺産などの保護施策を見直し、新しい柱を立てていくべき時期。当会議と連携して進めていきたい。
- ・山極壽一所長（特別講演講師）：世界自然遺産は、みな日本の辺境に位置している。日本という国は辺境を取り込みながら文化の厚みを作ってきた。日本文化を支え、幅を広げる役割を果たしてきた自然について、これから何ができるか5地域と共に考えていきたい。
- ・議長とりまとめ：万博参加は、相談しながら進めていく。事例集は、先進的モデルであり、政府への政策提言、新しい保護事業の提案のヒントにもなる重要な素材である。整理、分析を進めたい。自然遺産と文化遺産の交流については、2自然遺産、1文化遺産のある鹿児島県を一例に検討することも考えられる。

(5) 閉会

- ・以上をもって第2回5地域会議を閉会することとし、2名の幹事が閉会のあいさつを述べた。
- ・渋谷正昭東京都小笠原村長：取り組みにおける人の重要性を強調したあいさつに加え、都道

県の5地域会議加入働きかけを提案。

- ・知花靖沖縄県国頭村長：各地域が連携して万博に参加することを訴え、自然保護と暮らし、地域活性化との両立という課題に連携して取り組んでいこうと締めくくった。

<注記>特別講演会の「講演テーマ」概要（山極壽一総合地球環境学研究所長）

- ・5地域会議が掲げる「日本型自然保護」とは、日本の自然観に基づく共生と循環の考え方。西洋近代の二元論や排中律のパラダイムが行き詰まるなかで、世界からも注目され始めている。
- ・私の研究フィールドであった屋久島とアフリカのヴィルンガ、カフジは、いずれも世界自然遺産。ゴリラの研究と保護に不可欠な地元との信頼関係の構築には、屋久島での経験が役だった。
- ・カフジと屋久島の自然観には、自然は管理すべきものという西洋的自然観ではなく、共存すべきものという共通性がある。
- ・東洋の知と西洋の知を融合させ、文化と科学が共鳴し合う新たな環境倫理を作ることが重要。そのモデルが世界自然遺産と言えるのではないか。

5 地域会議開会



万博参加についての説明



首長との意見交換



会場からの質疑



会場に来場・出席した 19 市町村長等と山極特別講演講師、岩槻顧問、
中村イベント学会会長、則久環境省自然環境計画課長ほか
(リモート参加会員は、後日スクリーンショット画像を追加予定)



会議終了後の
懇親会風景

第2回世界自然遺産5地域会議 出席者者一覧

5 地域会議会員

遺産名	都道県名	市町村・団体名	首長名	本会役職	参加形態	備考
知床	北海道	しゃりちよう 斜里町	山内 浩彰	幹事	△	
		らうすちよう 羅臼町	湊屋 稔		○	
		(公財)知床財団	理事長 村田 良介	幹事	○	
白神山地	青森県	あじがさわまち 鱒ヶ沢町	平田 衛		○	
		ふかうらまち 深浦町	吉田 満		○	
		にしめやむら 西目屋村	桑田 豊昭	幹事	○	
		ひろさまし 弘前市	櫻田 宏		○	本会で加入予定
	秋田県	ふじさとまち 藤里町	佐々木 文明	幹事	○	
		はっぽうちよう 八峰町	堀内 満也		○	
		のしろし 能代市	齋藤 滋宣		△	代理：環境産業部 次長 幸坂晴二
小笠原諸島	東京都	おがさわらむら 小笠原村	渋谷 正昭	幹事	○	
屋久島	鹿児島県	やくしまちよう 屋久島町	荒木 耕治	副代表・幹事	○	代理：副町長 日高 豊
		(公財)屋久島 環境文化財団	理事長 小野寺 浩	代表・幹事	○	
奄美大島、 徳之島、 沖縄島北部 及び西表島	鹿児島県	あまみし 奄美市	安田 壮平	幹事	○	代理：市民部長 島袋 修
		やまとそん 大和村	伊集院 幼		○	
		うけんそん 宇検村	元山 公知		○	
		せとうちちよう 瀬戸内町	鎌田 愛人		○	
		たつごうちよう 龍郷町	竹田 泰典		△	代理：生活環境課 課長 園田徳一
		とくのしちよう 徳之島町	高岡 秀規		○	
		あまぎちよう 天城町	森田 弘光		○	
	いせんちよう 伊仙町	大久保 明		○		
	沖縄県	くにかみそん 国頭村	知花 靖	幹事	○	
		おおぎみそん 大宜味村	友寄 景善			
		ひがしそん 東村	當山 全伸		△	
たけとみちよう 竹富町		前泊 正人		△	代理：自然観光課 課長 通事太一郎	

出席者数合計： 対面19名 うち首長17名（太字○） 「参加形態」欄右寄せは代理
オンライン5名 うち首長2名（△）

顧問・関係機関等

総合地球環境学研究所所長	山極 壽一		○	特別講演会講演者
東京大学名誉教授	岩槻 邦男		○	学術顧問
イベント学会会長	中村 利雄		○	支援機関
環境省 自然環境計画課長	則久 雅司		○	関係行政機関
(一財)地球産業文化研究所 専務理事	蔵元 進		○	参加支援機関
(株)玉の湯 代表取締役	桑野 和泉		×	やくしまじかん懇談会委員

参加屋久島環境文化財団役員

理事：中山直樹（鹿児島県自然保護課長）、中村耕治（南日本放送取締役相談役）、笹川理子（笹川法律事務所弁護士） 評議員：岩田治郎（前 一般社団法人地球温暖化防止全国ネット専務理事）
顧問・アドバイザー：馬場甚史朗（薩摩名人会代表取締役）、枝松克巳（メッツ研究所代表取締役）

第1回 5地域会議万博参加コアメンバー会議 記録（要旨）

- ・日時：令和6年7月2日（火）13:00～14:30
- ・場所：都市センターホテル 会議室「桜」（5階） 及びリモート
- ・出席者：7名（来場3名、リモート参加4名（うち代理3名））、随員1名、傍聴2名、事務局5名

<コアメンバー>

遺産地域名	都道県名	No.	団体名	代表者		幹事	出席方法		備考
				役職名	氏名		来場	リモート	
知床	北海道	1	斜里町	町長	山内 浩彰	✓		○	傍聴（環境課/結城）
白神山地	青森県	2	西目屋村	村長	桑田 豊昭	✓		△	代理出席（産業課/西澤）
	秋田県	3	藤里町	町長	佐々木 文明	✓	○		
小笠原諸島	東京都	4	小笠原村	村長	渋谷 正昭	✓	○		随員（環境課/井上）
屋久島	鹿児島県	5	屋久島町	町長	荒木 耕治	✓	○		傍聴（観光まちづくり課/有馬）
		6	(公財)屋久島環境文化財団	理事長	小野寺 浩	✓			欠席
奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島	鹿児島県	7	奄美市	市長	安田 壮平	✓		△	代理出席（世界自然遺産課）
	沖縄県	8	国頭村	村長	知花 靖	✓		△	代理出席（環境保全課/平良）

<事務局> (公財) 屋久島環境文化財団

事務局長 池田 洋一

事業課長 濱崎 寿仁

(株) メッツ研究所

代表 枝松 克巳

研究員 岡 瑠衣

研究員 引田 幸児

■ 開会・あいさつ

荒木町長（鹿児島県屋久島町）：5地域会議代表の小野寺氏が体調不良で欠席のため、副代表の私が挨拶する。

大阪・関西万博は来年4月13日に開幕する。課題も多いが、我々にとっては大きなチャンスだ。とくに6月5日に万博のメイン会場である大催事場＝EXPO ホールが使えるようになったこと、また当日の演目の一つとして国際シンポジウムが開かれ、山極壽一氏が日本の世界自然遺産を素材に海外の有識者と話し合うことがほぼ決まったという。

この会議は、5地域会議としての万博への参加を主導する首長に集まっていたいただき、準備を進めようという趣旨で動き出したものだが、結果的に幹事全員に、メンバーとして名を上げていただいた。万博参加の計画づくりと事業実施の準備に向け、実りある協議をお願いする。

■ 協議事項

○事業費と負担金

- ・費用の面がまだはっきり見えていない。今回、テーマウィークやEXPO ホール催事の企画イメージが出ているが、この内容で総額どの程度費用が掛かるのかについて、概算はあるのか。どのくらいの費用を集めないといけないという見込みを、しっかり立てるべき。
→（事務局）企画内容に不確定な部分が多く、費用の概算はまだしていない。また費用の負担に関しては（誰がどうもつかという）大きな配分の問題があり、そこをある程度詰めないと進まないと考えていた。
- ・屋久島環境文化財団などから京都の会議での旅費を出してもらったように、今度のイベントでここからはこれ位出せるというのが、（資料5での）割り振りだと理解している。
→（事務局）イベントを行う場所（EXPO ホール等）の使用料とこの催事の核になる国際シンポジウムの経費（講師の旅費・謝金等を含む）については、（主要な共同事業にかかる経費として）パートナーから全額負担してもらえる見通しが立っている。

○負担金についての協議の仕方

- ・早いところ経費の総額が出ないとイメージできないので、よろしく願いたい。
→（事務局）経費の総額のうち、上記のパートナーによる負担のほか、企業からの協賛金や寄付金も想定している。その上で共同事業部分への会員の皆さんからの負担金があり、さらに、例えば皆さんが参加する（物産展示や郷土芸能上演のための）旅費等は地元で持ってもらうことになる。
- ・催事を行う基本料金として地域が負担する部分を各地域が分担した時の自分の市町村の負担金額が早く出ると、交渉する先もあるので、来年度の予算に向けて相談ができる。
- ・自分からは何もしないとして、いくら負担金を出す必要があるかをまず提示してほしい。ただ参加するだけのケース。そこに出ていく旅費は、それぞれ地域で持つと思う。
→（事務局）最低限の出し物などは共通経費で見るということを前提にして、地域側はそれ以外何もしないとした場合の共通で負担する部分の費用、ということでよいか。
- ・そうだ。まずは最低限のベースになる金額があって、そこに入れ込んでいくとなったときに、額を上乗せしていく形で検討する。例えばこの演者の出演が良いとなったときに、その自治体が費用を持つのかどうかが決まれば、後はそんなにかからないのではないか。
→（事務局）基本的にステージのオペレーション（映像上映や照明など）については、特別なことをやらない限りは万博協会でやってくれる。ただ会場設営の経費や会場整理、警備費等はかかる。そういう経費を全体で持つことになる。
- ・地域側から何を入れ込んでいくかを、次に話し合えばよいと思う。例えば5地域から最低1つは出してもらおう等。それが1つの共通経費のような形になってもよい。

○地域別の費用の分担について

- ・「基本料金」をそれぞれの地域でどう分担するかは、ステージや展示場所の割り振りにもかわる。全市町村で平等に分担すれば、ステージや展示の割り振りも平等が基本にな

る。それともまず5地域で割り、地域ごとに市町村の割り振りをするのか。その在り方も議論が必要だ。それによって負担感が違う。その負担でどれだけのことができるのかという意味合いで、参加する・しないが、特に複数の市町村がある地域では出てくると思う。

- ・多くの自治体に跨っている地域と、単一の自治体の地域とでは、経費の負担が変わってくるので、その負担バランスは、コンセプトをはっきりさせて詰めていくべき。

○会員以外からの費用負担の可能性

- ・日本型自然保護のメッセージを広く世界に発信していく、日本をアピールするという1つのコンセプトであるとすれば、例えば、もっと国とか、企業だとかの資金を求めてよい。このポリシーに賛同するアーティストの協力、ギャランティではなくサービスで出てくれる方を募るのもよい。世界自然遺産を抱えている地元が負担する部分が多くなるのは、厳しい。

→（事務局）承知した。そのような働きかけを積極的に行いたい。その際、地域側からの力添え、協力もお願いしたい。

- ・（事務局）都道府県からお金を集めることについては、意見がお有りか。

→（小笠原村）東京都の資金協力は可能性がある。村の負担部分に協力してほしいとはいやすい。東京都の呼びかけで観光をメインにした世界自然遺産5地域の集まりが行われており、現時点ではわからないが、全体（6月5日の広報活動やステージなど）についても連携の可能性はある。

○イベントの内容

- ・5月6日、6月5日の2つの日程の説明があった。それとは別に、パフォーマンスはこの期間の間いつでもできるのか。

→（事務局）万博会場での催事については、この2日に限定されている。

- ・企画としては今日説明の内容でよい。それで費用概算してほしい。

→（事務局）今日の案をベースに、不確定な部分についてはざっくり想定し、概算に取りかかる。その上で、このアーティストを呼びたいなど地域からの要望を踏まえ、変動していく可能性はあるのでご了承いただきたい。今の仮の案について、現時点での変更や希望があればお聞きしたい。イメージと違ったということでも構わない。この場では難しいかもしれないので、今後アンケートを取りながらお伺いできればと考えている。

- ・2000人近くが入場できる場所に、元ちとせの出演が可能ならうれしいが、万博に来る人たちをどうやって寄らせるかは、相当に工夫が必要だろう。

○準備の体制

- ・何もしない場合にもレベルがある。例えばステージでも、円形ステージを装飾するのかわらないのかで全然違う。展示物も、パーティション等は会場に用意されているのか。そういった情報も確認しないといけない。イベント会社を巻き込んで詰めていき、この内容で経費の概算を出してもらう必要がある。時間的余裕は余りない。

→（事務局）実際の運営の部分はイベント会社に委託しないといけないし、その経費は

(彼らの取り分を含めて)見積もってもらう必要があると考えている。

- ・今回出された5月6日、6月5日の骨格について、今日5地域が合意できるかどうかを確認し、そこから事業費の想定、必要資金負担の分担などの詰めに入っていくと理解してよいか。その詰めは事務局が担うと考えてよいか。

→(事務局) そうだ。細部は別にして、イメージとしてこういうことをするという方向で考えていただく。その上で、パートナーとも相談し、イベント会社への委託を含めて事務局で検討する。パートナーのGISPRIさんは他でも大きなイベントをやっている。周辺にプロがいるので、協力は依頼できる。

○今後の進め方

- ・EXPO ホールでの催事について、7月中に「本申し込み」とあるが、今一度幹事会なり2回目の会で諮るという流れになるのか。
→(事務局) これは、正式に名称や現段階での公開可能な事業内容を届け出るものであり、1月の第2回5地域会議で基本的な了解は得られていると理解していた。
- ・1月の会合に出ていない会員や、人事異動で事情が分かっていない担当者もいる。
- ・具体的な案は今回初めて出されたものなので、他の市町村にもその気になってもらうためにお伝えした方がよい。
→(事務局) 承知した。今日の主な会議資料と議事録、これからの予定について全会員に周知し、確認をいただく。その上で本申し込みを行うことにする。
- ・(事務局) 事業内容と実際の参加意向については、全会員へのアンケートを行う予定。その段階で、最低限参加市町村が共通経費として負担すべき部分と、努力目標としての総事業費について提示し、意向を把握することにしたい。
その情報をもとに、第3回5地域会議で、具体的な参加の計画を決めていただきたい。

○その他

- ・第3回5地域会議は、全国町村長大会が開かれる11月に、東京で開催する予定。日時は、今日の参加者のご都合から11月19日(火)の午前中を第一候補とし、全会員に諮って決めることにしたい。
- ・次回コアメンバー会議はリモート開催とし、事務局から日程調整の連絡をする。

(以 上)